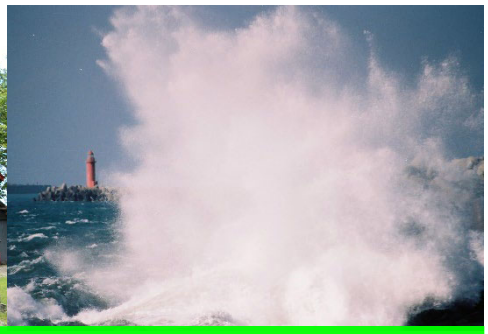


るもい風土資産カード

魅力ある地域づくりを行うには、長い時間をかけて培われた「風土」を、地域の魅力を形成する「資産」として、とらえていくことが必要です。これが「風土資産」です。現地に足を運びこの「風土資産」を五感（聴いて、触って、味わって、嗅いで、知って）でその良さを感じてみましょう。

令和7年3月

留萌開発建設部

るもい風土資産を五感で感じよう

「風土」とは「地域の持つ固有の自然環境、社会、歴史文化環境、言語文化、人間性のうち人々の感性に訴える深みのあるもの」と定義されています。人間の営みや手入れが関わり、長い時間の経過と共に、景観から風景、風土へと移り変わっていくものです。概念は下図を見て下さい。

この長い時間の中で培われた「風土」を地域の魅力を形成する「資産」としてとらえて「風土資産」と呼んでいます。現時点では比較的新しいものであっても、将来的に風土を形成する要素となる可能性を持つものも「風土資産」の中に含めます。

魅力ある地域づくりは、それぞれの地域にある歴史や風土を活かし、地域に住む人が自分たちの住む地域の風土を認識し、そこに誇りを持ち、いきいきと輝く地域をつくりあげていくものです。

留萌地域にはそのような風土資産が多くあり、まだ、知られていない気づいていない風土資産もあるはずです。ここに紹介するものはその中のほんの少しですが、このカードをきかっけに現地へ足を運び「風土資産」を五感（聴く、触る、味わう、嗅ぐ、知る）で感じ、そしてその良さを皆さんで広めていきましょう。

景観・風景・風土の関連性の概念図

るもい風土資産一覧表

（増毛町）

１	暑寒別岳	希少な高山植物や湿原が広がる暑寒別連峰の秀峰	Ｐ－　１
２	マッカ岬		
３	暑寒別川	流域に多くの恵みを与える豊かな水量を誇る二級河川	Ｐ－　２
４	雄冬冷清水		
５	マシケオトギリ		
６	春の味まつり／５月、秋の味まつり／９月		
７	観光港まつり／７月		
８	元陣屋（総合交流促進施設）	増毛の侍文化を今に伝える町民の交流の場	Ｐ－　３
９	雄冬岬展望台		
１０	岩尾温泉「あったま～る」		
１１	ノールマリーナましけ		
１２	リバーサイドパーク		
１３	国稀酒造	暑寒別岳の伏流水が醸す日本最北の酒蔵	Ｐ－　４
１４	暑寒そば		
１５	増毛リンゴ	恵まれた気候風土で育つ種類豊富な減農薬栽培リンゴ	Ｐ－　５
１６	増毛港		
１７	増毛の甘エビ		
１８	真だこやわらか煮		
１９	サンセットウェーブ		
２０	雄冬神楽		
２１	増毛厳島神社	貴重な文化財が奉納される道内随一の彫刻神社	Ｐ－　６
２２	雄冬遺跡		
２３	秋田藩増毛元陣屋第二台場跡		
２４	旧商家丸一本間家	明治時代の栄華を今に伝える豪壮なたたずまい	Ｐ－　７
２５	旧増毛駅前の歴史的建物群と旧増毛小学校	増毛の歴史を今に伝える明治から昭和初期の木造建築群	Ｐ－　８
２６	映画の町増毛		
２７	増毛山道	商人が私財を投じて切り開いた復元が進められる歴史遺産	Ｐ－　９
２８	雄冬丸の観光		

（留萌市）

１	黄金岬	日本一の落陽が美しい留萌きっての景勝地	Ｐ－１０
２	留萌の波濤(はとう)	自然のエネルギーが猛威を振るう世界３大波濤のひとつ	Ｐ－１１
３	留萌川	古くから交通路として使われていた穏やかな大河	Ｐ－１２
４	留萌港のケアラシ	放射冷却の日に現れる特異な気象現象、蒸気霧	Ｐ－１３
５	るもい呑涛まつり		
６	日本海ＣＵＰ争奪ビーチバレー大会		
７	萌っこ春待里		
８	千望台からの景観		
９	海のふるさと館	黄金岬近くの高台に立つ「遊び・学び・憩い」の多目的施設	Ｐ－１４
１０	神居岩温泉	泉質と薬湯が湯治客に人気の市内唯一の天然温泉	Ｐ－１５
１１	神居岩総合公園		
１２	ゴールデンビーチるもい		

１３　マサリベツ望洋の森
１４　るるもっぺ憩いの森　市民の生活に溶け込む緑あふれる自然公園　Ｐ－１６
１５　礼受牧場
１６　留萌港　世界の貨物船や客船も入港する道北圏の流通拠点港　Ｐ－１７
１７　留萌の塩カズノコ　おせち料理に欠かせない黄色いダイヤモンド　Ｐ－１８
１８　日和山・烽火台跡
１９　松浦武四郎踏査の地記念碑
２０　樺太引揚者殉難慰霊碑/千望台
２１　礼受神楽
２２　アトゥシ（アイヌ民族衣装）
２３　三泊遺跡
２４　旧佐賀家漁場
２５　塩見高台の赤灯台（高橋灯台）
２６　北海道人造石油留萌研究所
２７　ニシン漁のルルモッペ場所
２８　星兜
２９　道の駅「るもい」　親子や家族連れも楽しめる北北海道のゲートウェイ　Ｐ－１９
３０　みなとオアシスるもい

（小平町）

１　天狗山
２　小平藁川　小平ダムに注ぎ込む二級河川　Ｐ－２０
３　天狗の滝　岩肌を２段になって水しぶきを上げる秘境の飛瀑　Ｐ－２１
４　にしん文化歴史公園の夕陽
５　天応寺の一本藤　存在感と風格漂う樹齢百数十年の一本藤　Ｐ－２２
６　小平町産業まつり
７　最北の登り窯「北創窯」　市民の思いが創り上げた道北唯一の登り窯　Ｐ－２３
８　小平町埋蔵文化財資料館「オピラウシ」
９　光明石温泉「ゆったりかん」　美しい日本海を眺めながらゆったりした時間をどうぞ　Ｐ－２４
１０　鬼鹿ツインビーチ
１１　小平町青少年旅行村望洋台キャンプ場
１２　望洋台スキー場
１３　本郷公園
１４　道の駅「おびら鰊番屋」　鰊料理が楽しめるオロロンラインの休憩スポット　Ｐ－２５
１５　小平ワインぶどう
１６　小平町富岡海岸の風力発電
１７　小平町黒毛和牛
１８　三船殉難慰霊之碑
１９　おびら太鼓「麓龍」
２０　鬼鹿厳島神社
２１　小平町の化石　愛好家により発見された貴重な歴史的遺産たち　Ｐ－２６
２２　オビラウシュベツ遺跡
２３　オビラシベ炭田
２４　鰊番屋（旧花田家番屋）　鰊文化を今に伝える日本最北の国指定重要文化財　Ｐ－２７

２５　天塩炭礦鉄道

（苫前町）

１　霧立峠

２　ハマナスの丘

３　ローソク岩　萌州北街道から望む自然の力により形を変える奇岩　Ｐ－２８

４　古丹別川

５　上平グリーンヒルウィンドファームの夕陽

６　岩見の一本松　開拓の歴史とともに育ち、樹齢８００年を超えるイチイの木　Ｐ－２９

７　北海道凧上げ大会/２月

８　苫前町古代の里

９　三毛別羆事件復元跡地　７人が犠牲となった獣害史上最大の悲劇を復元　Ｐ－３０

１０　力昼（りきびる）「港の美術館」

１１　古丹別水辺の楽校

１２　夫婦（めおと）愛の鐘

１３　苫前温泉「ななかまどの館」

１４　とままえ温泉「ふわっと」　様々な設備が揃う、風車にちなんだ多目的複合施設　Ｐ－３１

１５　とままえ夕陽ヶ丘オートキャンプ場

１６　上平グリーンヒルウィンドファーム　「凧揚げを通じて風と関わる」風の町苫前を象徴する牧場　Ｐ－３２

１７　とままえ夕陽ヶ丘ウインドファーム・風来望

１８　苫前町水田発祥の地　道北の農業史に輝く藤田万助翁の偉業をたたえる石碑　Ｐ－３３

１９　苫前くま獅子舞　不屈の開拓精神を後世に伝える三毛別羆事件の郷土芸能　Ｐ－３４

２０　香川三線遺跡

２１　トママイ場所

２２　小説「羆嵐」　三毛別羆事件を題材に野生の熊と人間の闘いを描いたドキュメンタリー小説　Ｐ－３５

（羽幌町）

１　ピッシリ山

２　天売島

３　焼尻島

４　羽幌川

５　双龍の滝

６　はぼろサンセットビーチの夕陽

７　羽幌町北限の杉林

８　焼尻島オンコの荘　天然記念物に指定される圧巻の生命力を放つ自然林　Ｐ－３６

９　焼尻島のエゾスカシユリ

１０　ウミガラス（オロロン鳥）　絶滅が危惧されている天売島でしか見られない海鳥　Ｐ－３７

１１　天売島の海鳥繁殖地　約100万羽の海鳥が乱舞する国内屈指の『海鳥の楽園』　Ｐ－３８

１２　はぼろ甘エビまつり

１３　日本一の味覚!!ウニ祭り

１４　羽幌町郷土資料館　ニシン漁の時代、炭鉱の時代など歴史を伝える資料館　Ｐ－３９

１５　北海道海鳥センター　海鳥の神秘的な生態を学ぶ日本で唯一の海鳥専門施設　Ｐ－４０

１６　朝日公園の花しょうぶ園

１７　はぼろバラ園　世界中のバラを観賞できる道北地方最大級のバラ園　Ｐ－４１

１８　焼尻めん羊牧場

１９　道の駅「ほっと♡はぼろ」　温泉・バラ園・海鳥センターが一度に楽しめる複合施設　Ｐ－４２
２０　羽幌港
２１　焼尻島厳島神社
２２　羽幌町のアンモナイト化石
２３　チライベツ遺跡
２４　羽幌炭砿　重要産業として良質な炭を掘り昭和初期に栄華を誇った　Ｐ－４３
２５　旧小納(こな)家住宅（羽幌町郷土資料館）　小納家の栄華を伝える和洋複合の木造住宅　Ｐ－４４
(初山別村)
１　金比羅岬　鳥居と夕景の美しさで知られる絶好の記念撮影スポット　Ｐ－４５
２　ひがしやま湖（有明ダム）　エゾヤマザクラの桜並木が続く水と緑の憩いの場　Ｐ－４６
３　しょさんべつ星まつり
４　しょさんべつ岬まつり
５　しょさんべつ天文台　月着陸宇宙船をモデルにした日本最北の天文台　Ｐ－４７
６　初山別村自然交流センター
７　しょさんべつ温泉・岬の湯　ゆったりとした空間と自慢の温泉で心身ともにリフレッシュ　Ｐ－４８
８　豊岬海水浴場
９　東山樹園
１０　みさき台公園　日本海が一望できる多彩なテントサイトのキャンプ場　Ｐ－４９
１１　最北の木下りんご園　１本に４種類のリンゴが実る日本最北のりんご園　Ｐ－５０
１２　有明の桜ロード
１３　有明獅子舞　富山県入善町から伝わった獅子と天狗の迫力ある舞　Ｐ－５１
１４　しょさんべつ海牛の化石　ほぼ完全な形で復元された日本で最も古い海牛類化石　Ｐ－５２
１５　初山別遺跡
１６　初山別村かもめの便り
１７　セタキナイ砂金鉱
(遠別町)
１　遠別川
２　ルベシの大山松　アイヌ伝説が宿る樹齢８００年のイチイの巨木　Ｐ－５３
３　遠別町のエゾモモンガ
４　仮装盆踊り大会
５　遠別町郷土資料館　閉校した木造校舎を利用した遠別の開拓の歴史を伝える資料館　Ｐ－５４
６　旭温泉　人から人へと伝えられてきた湯治に最適な「湯の地」　Ｐ－５５
７　遠別川河川公園
８　金浦原生花園　国道沿いの海岸を黄色いエゾカンゾウが埋め尽くす　Ｐ－５６
９　富士見ヶ丘公園　道の駅の裏手に広がる緑豊かなレクリエーションゾーン　Ｐ－５７
１０　みなくるびーち
１１　遠別町のもち米　日本最北の米どころで作る全国でも高い評価を受けるもち米　Ｐ－５８
１２　北限のメロン
１３　旭地区の天然ガス
１４　北里海岸の風力発電
１５　遠別水稲発祥地の碑　先人のたゆまぬ努力が築いた日本最北端の稲作地帯　Ｐ－５９
１６　遠別町のアンモナイト化石
１７　北浜遺跡　畑地で発見された擦文時代の土器や竪穴住居跡　Ｐ－６０

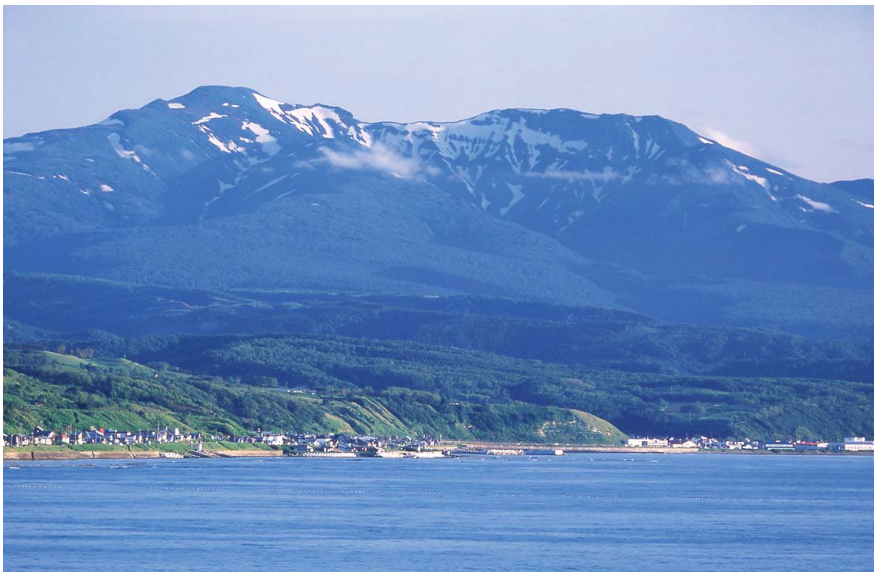
１８　富士見ヶ丘公園開き・山菜まつり
１９　クマウシュナイの滝
（天塩町）
１　天塩川　天塩町の発展と共に歩む日本最北を流れる大河　Ｐ－６１
２　鏡沼
３　川口遺跡風景林
４　鏡沼しじみまつり
５　ダウン・ザ・テッシ・オ・ペッ
６　てしお秋の味覚まつり
７　天塩川歴史資料館　旧役場庁舎を整備した「赤レンガ」の名称で親しまれる資料館　Ｐ－６２
８　てしお温泉・夕映　町民の保養と健康増進、観光振興に寄与する温泉宿泊施設　Ｐ－６３
９　乙和園
１０　天塩川河川公園
１１　てしおこもれびの森　自然とのふれあいや健康づくりに役立つ町民の憩いと学びの場　Ｐ－６４
１２　道の駅「てしお」
１３　天塩港
１４　天塩の鮭　豊かな漁場に恵まれた天塩地方の発展に寄与した鮭　Ｐ－６５
１５　天塩のシジミ貝　天然もので品質が良く味と粒の大きさでは日本一！？　Ｐ－６６
１６　更岸海岸の風力発電
１７　民安ダム
１８　厳島神社
１９　新四国八十八ヶ所霊場　四国霊場にあやかり設置された８８箇所の石仏や歌碑　Ｐ－６７
２０　川口遺跡　神秘的な佇まいを見せるオホーツク文化期の遺産　Ｐ－６８
２１　天塩川基線渡船場跡
２２　テシホ場所の漁業
２３　鏡沼海浜公園　天塩川の河口に広がるアウトドアレジャースポット　Ｐ－６９

※　「るもい風土資産カード」は、留萌市、増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、留萌振興局、NPO法人留萌観光協会、増毛町観光協会、小平町観光協会連合会、苫前町観光協会、羽幌町観光協会、初山別村観光協会、遠別町観光協会、天塩町観光協会、留萌観光連盟など多くの皆さまのご協力をいただいて作成したものです。

るもい風土資産カード

暑寒別岳

希少な高山植物や湿原が広がる暑寒別連峰の秀峰



暑寒別連峰の主峰、暑寒別岳（1,492m）は、平成2年（1990年）に指定された暑寒別天売焼尻国定公園のシンボルとして四季を通じ、美しい姿を見せています。周辺には群別岳（1,376m）浜益岳（1,258m）雄冬岳（1,198m）南暑寒岳（1,296m）など1,000m級の山々が連なり、暑寒別岳連峰を形成しています。

暑寒別岳と群別岳、南暑寒岳は「暑寒別火山」とも呼ばれているように、地下のマグマの活動で隆起したものが、長い年月をかけて雨や風、川の流れなどによって削られながら、現在の形に変化してきたと考えられています。隆起の中心となっていたのは暑寒別岳の西南2.5km地点付近とされ、ここでは安山岩（マグマが地表近くで冷えて固まった岩石）の溶岩石も確認されています。一説では今から約180万年前、「第四期」の初め頃に誕生した山ではないかと言われています。

暑寒別岳の美しさは山麓から山頂に至るまで、神秘的な原始の姿を残している点にあります。増毛側から望む山麓には原始林が広がり、広大な樹海や高山植物の群落が登山客を魅了してやみません。特に、高山植物は暑寒別岳の固有種であるマシケゲンゲやマシケオトギリをはじめ、チシマギキョウ、エゾシオガマ、チングルマなど百十数種類が群生し、6月中旬から7月下旬にかけて見頃を迎えます。また、山頂からは東に大雪連峰北は日本海という雄大な景観を一望することができ、晴れた日には日本海に浮かぶ利尻富士の姿も見ることができます。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

聴く

登山小屋の暑寒荘周辺には、気軽に野鳥の声や渓流のせせらぎを楽しむことができる渓流の森があります。
チップ材が敷きつめられた遊歩道は四季折々の表情を見せながら、快適な散策が楽しめます。

知る

暑寒別山の山開きは、毎年6月中旬に行われます。安全祈願祭を実施し、翌日には早朝から記念登山を行います。例年多くの登山客で賑わうイベントです。

見どころ

暑寒別岳の山開きは例年6月中旬。登山ルートは増毛町側の暑寒と箸別ルートと雨竜町側のルートがあり、雨竜町側から登ると、標高850～900m地点で「北海道の尾瀬」と言われる雨竜沼湿原を通ることができます。

ポイント

暑寒別天売焼尻国定公園は全国で55番目、道内では5番目に指定された日本最北の国定公園。暑寒別ルート登山口の山小屋「暑寒荘」周辺にはチップが敷き詰められた遊歩道が整備された「渓流の森」があり、気軽に自然と触れ合うことができます。

■基本情報（R7.3）

【増毛町暑寒野営場】
住　　所：増毛郡増毛町暑寒沢830番地
開設期間：6月上旬～10月下旬
駐 車 場：約30台（無料）
キャンプ場：有（オートキャンプ不可、バンガローなし）
施設・設備：水洗トイレほか計3棟、炊事場1ヵ所、暑寒荘（60名収容、トイレあり）
問い合わせ：増毛町商工観光課観光事業係
TEL 0164-53-3332

るもい風土資産カード

暑寒別川

流域に多くの恵みを与える豊かな水量を誇る二級河川

暑寒別岳（標高1492m）を源流とする河川は北の方角へ暑寒別川、箸別川、信砂川、東へは恵岱別川、尾白利加川、西南に徳富川があり、豊かな自然を形成しています。暑寒別天売焼尻国定公園内を流れる暑寒別川の本流は増毛町市街地を流れ、やがて日本海へと流れ込みます。

暑寒別山系は最高峰の暑寒別岳をはじめ、群別岳、南暑寒岳などの山々が連なり、このうち南暑寒岳の東側には大小150もの池塘（ちとう）が点在する雨竜沼湿原が広がっています。標高約850mの恵岱別溶岩台地上に発達したこの湿原は東西2km、南北1kmにわたって広がる山岳型高層湿原で、中央部をペンケペタン川が東西に蛇行して流れ、水面上には浮島も見られます。ここを発するペンケペタン川は落差約36m、幅約5mの飛瀑、白竜の滝を経由して、尾白利加川に合流しています。

一方、雄冬、岩老方面は雄冬山や天狗岳などの山塊が日本海に迫る海岸は、100m前後の断崖が海に面し、河川も数kmの短い川が何本かあるだけになっています。

暑寒別川はサケの遡上する川としても知られ、毎年9月下旬～10月中旬、河口付近ではふるさとの川に帰るサケの姿が観察できます。暑寒別岳、そして、暑寒別川の豊かさが雨竜沼湿原を形成し、その豊富な水量で地酒醸造や果樹栽培など、この地域に多くの恵みを与えています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

聴く　暑寒別天売焼尻国定公園内を流れ、様々な河川と合流し、豊かな水辺を形成している暑寒別川。
せせらぎの音を聴いてみましょう。

触わる　サケの遡上で知られる暑寒別川。毎年9月下旬～10月中旬に、河口付近でサケの姿を観察することができます。
暑寒別川のもたらす自然の営みに触れてみましょう。

見どころ

平成17年（2005年）にラムサール条約登録指定湿地となった雨竜沼湿原は、東西2km南北1kmにわたって広がる湿原で、広さは約100ha。約3.8kmの木道が整備され、約150種もの植物や池塘を眺めながら一周することができます。

ポイント

暑寒別川の豊かな水は私たちの暮らしに多くの恵みをもたらしています。増毛町の國希酒造は暑寒別岳の伏流水を仕込みに利用している銘醸で、増毛の特産品のリンゴやさくらんぼがたわわに実をつけるのも、この川の恩恵といえます。

■基本情報（R7.3）

種　　別：二級河川
問い合わせ：増毛町役場商工観光課
〒077-0292
北海道増毛郡増毛町弁天町3丁目61番地
TEL：0164-53-3332

るもい風土資産カード

元陣屋（総合交流促進施設）

増毛の侍文化を今に伝える町民の交流の場

増毛町役場に近い町の中心部に位置する「元陣屋」は「増毛町総合交流促進施設」として町民に開放されている、増毛町の歴史を今に伝える施設の一つです。

蝦夷地（現在の北海道）周辺では18世紀頃からロシアが南下して、漁場を経営していた日本人と衝突するなど両国の緊張が高まります。この結果、幕府は東北諸藩に蝦夷地の警備を命じました。安政２年（1855年）に秋田藩が増毛での警備を命じられ、翌年に元陣屋が建てられました。元陣屋の「元」は拠点という意味で、現在の増毛町の永寿町一帯がその跡地です。秋田藩は宗谷と樺太にも陣屋を築いて警備に当たりました。こちらは「出張（でばり）陣屋」と呼ばれ、夏の間だけ警備を行い、冬の間は増毛に戻ってきて越冬しました。秋田藩は足掛け12年間にわたり、警備と開拓に当たりました。ロシアと交戦することはありませんでしたが、建物は非常に簡素な造りで、冬の間には多くの凍死者や病死者が出たといいます。原因の多くは冬季間の野菜不足による水腫病（現在の壊血病）といわれており、多い年では一冬で30人以上が病気で命を落としています。

その跡地に平成７年（1995年）、増毛町が総合交流促進施設「元陣屋」を建設しました。施設内の郷土資料室では当時の様子や増毛町の侍文化を学ぶことができます。このほか図書室や会議室、多目的ギャラリーなどがあり、町内外の方々に生涯学習・文化発信の場としても利用されています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる　資料展示室に保管されている鎧は試着が可能。
幕末期にロシアに対する西蝦夷地警衛にあたるため、津軽藩や秋田藩の元陣屋が増毛に置かれ、北方警備の要衝となった歴史を思い起こさせます。

知る　郷土資料展示室、図書室、映像体験室などがあり、北方警備の拠点として建設された元陣屋の歴史、増毛の鰊漁の歴史などを学ぶことができます。

見どころ

施設内の映像体験室では、当時の警備の様子を約８分間にまとめた解説映像を鑑賞できます。また、郷土資料室には解説パネルや古地図、ジオラマなどの資料が展示されています。当時の建物の一部も復元されていて、厳しかった暮らしぶりをしのばせます。

ポイント

郷土資料室には鎧（よろい）の試着体験コーナーがあります。「施設を訪れた記念に…」と鎧を着て侍気分に浸り、記念写真を撮る見学者もいます。

■基本情報（R7.3）

住　　所：増毛郡増毛町永寿町4丁目49番地
Ｔ Ｅ Ｌ：0164-53-3522
開館時間：9:00～17:00
休 館 日：毎週木曜日（ただし、祝日の場合は前日）
観 覧 料：一般・大学生400円（団体300円）
　　高校生300円（団体200円）
　　小・中学生200円（団体100円）
　　※団体は10名以上、就学前幼児は無料

るもい風土資産カード

国稀酒造

暑寒別岳の伏流水が醸す日本最北の酒蔵

日本最北の酒造メーカーとして、明治15年（1882年）の創業以来、昔ながらの酒造りを継承している「國稀酒造」。創業者は丸一本間の初代として知られる本間泰蔵。当時、鰊漁も手掛けていた泰蔵がヤン衆（鰊漁従事者）に飲ませる酒を自家醸造しようと思い立ったのが起源と言われ、増毛郡役所に醸造免許鑑札願いを出し、酒造りが始まりました。この頃、北海道で飲まれていた日本酒の多くは本州からの移入酒で、決して安いものではなかったため、泰蔵は現地での酒造りを決意したようです。

創業時の名称は「丸一本間」。明治35年（1902年）に「丸一本間合名会社」となり、合名会社設立から100年目の平成13年（2001年）からは現在の「國稀酒造株式会社」と改められました。「國稀」の語源はその昔、造られていた「國の誉」という酒を、泰蔵が感銘を受けた乃木希典元陸軍大将の名にちなんで改称したもので、大正９年（1920年）から親しまれている同社の代表銘柄。「国に稀な良いお酒」という意味も込められています。

歴史的建造物としても知られる建物は創業時から10年をかけて完成した木造と増毛産軟石造りの３階建てで、店舗の表入口は大正８年（1919年）に建て替えられていますが、工場と酒蔵は完成当時のまま今日まで受け継がれています。蔵人たちが仕込みをする酒蔵は太い柱が縦横に張り巡らされた３階建ての蔵になっており、内部は往時の建築技術を偲ばせる重厚な造り。吟味された原料米と南部杜氏の技、暑寒別岳を源とする清らかな水によって、國稀をはじめとするさまざまな清酒が醸されています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

聴く　現在も酒造りが行われている石蔵からは、南部杜氏と蔵人たちが丹精込めて酒造りをするしめやかな様子を感じることができます。

触わる　工場手前にある３階建ての石蔵は國稀酒造の歴史に触れられる資料室。樹齢100年を超える道産のトドマツが大黒柱としてそびえ、その周りに酒造りに使用していた道具や酒器、古いラベルなどが展示されています。

味わう　貯蔵タンクが並ぶ試飲コーナーでは、國稀酒造の全種類の酒を試飲することができます。数量限定の地元限定酒やその年の新酒をいち早く味わえるのは酒蔵ならではの醍醐味。試飲した酒は売店で購入できます。

嗅ぐ　増毛は古くから水に恵まれた土地で、北前船は必ずこの地で水の補給をし、航海したと言われています。國稀酒造で使用する水も暑寒別岳を源とする天然水で、水と米、麹が醸す清酒の香りは日本の文化の香りそのものです。

見どころ

酒蔵の内部は年中無休で開放され、誰でも自由に見学することができます。売店や試飲コーナーをはじめ、貯蔵タンクが並ぶ様子も見ることができます。また、近くの倉庫には実際にニシン漁に使用されていた船が当時のままに展示され、貴重な展示物となっています。

ポイント

國希酒造のこだわりの一つが良質の酒造好適米。兵庫県産の「山田錦」や、北陸・東北産の「五百万石」をはじめ、増毛町産の良質な酒造米「吟風」による銘柄もあり、増毛でなければ購入できない地域限定品も造られています。

■基本情報（R7.3）

文化財指定：北海道遺産（増毛の歴史的建造物群）
指定年月日：平成13年10月22日
住　　所：増毛郡増毛町稲葉町1丁目17番地
Ｔ Ｅ Ｌ：0164-53-1050
営業時間：9:00～17:00
酒造見学：9:00～16:30
休 業 日：年末年始
入 場 料：無料
※10名以上の場合は事前にご予約ください

るもい風土資産カード

増毛リンゴ

恵まれた気候風土で育つ種類豊富な減農薬栽培リンゴ

増毛町は日本最北、そして北海道有数のくだもの産地です。恵まれた気候風土のもと、古くから果樹栽培が盛んに行われてきました。種類もサクランボ、プラム、リンゴ、梨、ブドウなどと豊富で、特にリンゴは50品種以上も生産されています。他産地と比べて冷涼な気候のため、農薬使用量が少なくて済むのも特長です。農産物においては、ラベル偽装や無登録農薬の使用など、消費者が不安を感じる問題が頻発する中、増毛町のリンゴ生産者はさらに農薬を少なくして、消費者に安心して食べてもらえるよう、日々研究に取り組んでいます。

例えば、害虫の性フェロモンを染み込ませた針金状のもの（コンフューザー）をリンゴの木に結び付けることにより、害虫はオスとメスの出会いが阻害（交信撹乱）されます。その結果、果実や葉を食べる害虫被害が軽減され、農薬（殺虫剤）散布を減らすことが出来るのです。こうした努力が実り、増毛町のリンゴは全国各地から注文が寄せられるようになりました。

また、町内のほとんどの果樹園に産地直売の施設があり、リンゴがたわわに実る９月中旬から11月下旬までは、名物のリンゴ狩りにもたくさんの人が訪れて、町全体が活気に包まれます。暑寒沢リンゴ地帯を突き抜ける道道暑寒別公園線沿いには、全長約２㎞にわたって爽やかな散歩が楽しめる遊歩道の「りんご回廊」が整備されており、人気があります。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる 増毛町の生産者が創意工夫を重ね、丹精込めて作ったりんごは9月～11月下旬までがシーズン。ぜひ一度家族やお友達と訪れてみてはいかがでしょうか。

味わう 恵まれた気候風土のもと生産される増毛町の果物は、全国各地から注文がくるほど。
農薬使用量も少ないので安心して食べられます。

嗅ぐ 町中にはたくさんの産地直売があるため、リンゴが実り観光客で活気付く9月～11月下旬の間は、町中にりんごの甘いにおいが漂います。

知る 増毛町の果樹園地帯は、ニシンの千石場所で栄えた1833（明治16）年に小林吉三郎が小樽で買い、庭に植えた「リンゴの木」に藤原筆吉が関心を持ったのがきっかけ。様々な研究と苦労を重ね、現在では30以上の品種のリンゴがあります。

見どころ

「りんご回廊」の入り口には大きなリンゴのモニュメントがあり、目印になっています。遊歩道は直線ではなく、もともとあった木をできるだけ残すように設計されているため、多少のアップダウンがあります。散策は花のシーズンと秋のリンゴ収穫期がお勧めです。

ポイント

「一日一個のリンゴは医者を遠ざける」と言われるように、リンゴには食物繊維やリンゴ酸が含まれ、整腸や疲労回復に効果があります。また、活性酸素を除去する抗酸化物質であるポリフェノールが、果肉はもちろん、皮に多く含まれていますので、皮ごと食べることをお勧めします。

■基本情報（R7.3）

問い合わせ：増毛町果樹協会（ＪＡるもい増毛支所）
Ｔ　Ｅ　Ｌ：0164-53-2027

るもい風土資産カード

増毛厳島神社

貴重な文化財が奉納される道内随一の彫刻神社

北海道随一の彫刻神社として知られる厳島神社は宝暦３年(1753年)、増毛場所請負人となった村山伝兵衛が運上屋の守護神として「弁天社」を創建したのが始まりとされています。文化13年(1817年)には安芸国(現在の広島県)の厳島神社から分霊し、明治９年(1876年)に増毛郡総鎮守の厳島神社となりました。当時は港のそばにありましたが、明治14年(1881年)に弁天町４丁目、同26年(1893年)に現在の稲葉町に遷座されました。

新潟県の宮大工らが２年の歳月を掛けて仕上げた本殿は明治34年(1901年)の落成。総欅造り、銅版葺きの荘厳な建物で、新潟県柏崎出身の彫刻師、篠田宗吉の匠の技が随所に生かされています。周囲の壁面は中国の古典から題材をとった彫刻で、鮮やかな木目の仕上がり。拝殿前の鶴の彫刻も精巧な造りで、丹念に掘り込まれた細工の数々に目を奪われます。また、狩野派の画家、勝玉によって描かれた雲龍の天井絵の周りには増毛町出身の日本画家、平子聖龍が手掛けた格子天井絵が施され、四季の花々や鳥などが今も色鮮やかに残されています。

本殿と奉納絵馬７点は、平成30年に北海道有形文化財に指定されました。

留萌管内には他にも羽幌町天売、焼尻両島や天塩町などにも厳島神社がありますが、いずれも海から拓けた地域の氏神として祭られており、航海の安全と暮らしの繁栄を願う地域住民の精神的な支柱として大きな役割を果たしてきました。留萌で最も古い留萌神社は天明６年(1786年)の創建で、ここも海上の安全と豊漁を祈願し、安芸国の厳島神社から分霊されたものです。

見どころ

彫刻師、篠田宗吉は京都本願寺再建の際、副棟梁に選ばれた名工匠。新潟県柏崎から弟子２人を連れて増毛に留まり、２年をかけて完成させたと言われています。篠田宗吉が手掛けた神社は新潟を中心に多数存在しますが、増毛厳島神社は北海道では随一の彫刻神社として訪れる人を魅了しています。

ポイント

増毛厳島神社には保食神(うけもちのかみ)と神龍宇賀之霊神(しんりゅううがのみたまのかみ)も祭神として祭られています。また、「天売島に住む白狐が身ごもり、安産祈願のため海路はるばるやってきた」という伝説から、お産の無事を祈って参拝する人もいます。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる　毎年7月12日から14日に開催される「厳島神社例大祭」では、「神輿保存会」の若者たちが神輿を担ぎ、町内を練り歩きます。クライマックスの本祭り夕方には畑中町3丁目通りに子供たちの暑寒太鼓が響き渡り、沿道は熱気に包まれます。

嗅ぐ　ケヤキを使用した本殿内は、荘厳な雰囲気と神社の骨組みを守ってきた古い木材の匂いを嗅ぐことができます。

知る　全国に約500社あるとされる厳島神社の総本社は広島県厳島にあり、通称「安芸の宮島」と呼ばれています。北海道神社庁によると、この厳島神社から分霊を受けた神社は北海道だけで30社ほどあり、留萌管内は特に厳島神社が多い地域とされています。

■基本情報(R7.3)

文化財指定：北海道指定有形文化財
指定年月日：平成30年3月30日
住　　所：増毛郡増毛町稲葉町3丁目38番地
Ｔ　Ｅ　Ｌ：0164-53-2306
拝　観　料：大人300円高校生以下は無料
※拝観希望は社務所へ連絡のこと。
(事前連絡が確実)

るもい風土資産カード

旧商家丸一本間家

明治時代の栄華を今に伝える豪壮なたたずまい

道道増毛港線沿いで、ひと際豪壮なたたずまいを見せる「旧商家丸一本間家」。明治時代に「天塩国随一の豪商」と呼ばれた本間泰蔵（1849年－1927年）が、約20年の歳月をかけて築き上げた建物を修繕・復元したもので、平成15年（2003年）には国の重要文化財（建物）に指定されました。建物は切妻瓦葺きに軟石張り、下屋の大開口が印象的な呉服蔵を中心に居宅部、醸造蔵など５棟あり、広大な内部は平成12年（2000年）から一般に公開されています。

丸一本間家の歴史は、新潟県佐渡の仕立屋の三男に生まれた泰蔵が、増毛で雑貨店を開業した明治8年（1875年）から始まりました。明治13年（1880年）の大火で、一度は家財を失うものの、すぐさま立ち直り、呉服商、鰊漁の網元、海運業、酒造業など事業家としての才覚を発揮。建物も事業に伴って増築され、延べ床面積は1237.83㎡にも及びます。老朽化した文書蔵や木造属舎は撤去されていますが、初期建築が完成した明治35年頃の外観や内装は当時のまま維持され、この頃の再現を念頭に復元保存工事が行われました。

出入口から入って右手にある呉服蔵は本間家所蔵の花瓶や食器などの生活用品をガラスケースに収めた展示室で、左手の呉服店舗から奥には中庭をコの字に囲むように居宅部が続いています。明治時代の息吹を今に伝える呉服店舗には反物が並べられ、茶の間には宮大工が作製した神棚も残されています。３代一世紀にわたって守られてきた丸一本間家は、増毛町はもとより、我が国の歴史的建造物として、大切に保存されています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

聴く 約20年の歳月を掛けて建てられた豪壮な町屋様式の建物。床がぎしぎしと鳴る音を聴いてみてください。

触わる 重厚で美しい石造りの外観に使われているのは、増毛と浜益の海岸沿いにある日方泊産の軟石。淡い黄色みを帯びた軟石に触れると、当時の石工たちの思いが伝わってくることでしょう。

嗅ぐ 初期建築が完成した明治35年当時のまま維持されている内装からは、当時の生活臭が漂ってくるような感覚が味わえます。

知る 丸一本間家が建つ道道増毛港線沿いの通称「ふるさと歴史通り」は、旧JR増毛駅を起点としており、木造3階建て元旅館「富田屋」、映画「駅 STATION」のロケ地となった「風待食堂」（現在は観光案内所）などが点在し、増毛町を代表する観光ガイドコースとなっています。

見どころ

旧商家丸一本間家を象徴する一つが、美しく配列された屋根瓦。その一枚一枚には家紋が彫り込まれ、壁面や門柱には洋風の装飾が施されています。和風の伝統様式に洋風の技術や意匠を取り入れた建物は日本における洋風建築の歴史をたどる上でも重要とされています。

ポイント

居間として使われていた奥の間では、滋賀県出身の書家、巌谷一六（いわや・いちろく、1834年－1905年）が襖に揮毫（きごう）した漢詩を見ることができます。巌谷一六は明治の三筆の一人。美しく、迫力ある襖の墨書はしばし眺めていたい貴重な作品です。

■基本情報（R7.3）

文化財指定：重要文化財/北海道遺産（増毛の歴史的建造物群）
指定年月日：平成15年12月25日/平成13年10月22日
住　　所：増毛郡増毛町弁天町1丁目27番地
Ｔ Ｅ Ｌ：0164-53-1511
開館期間：4月下旬～11月上旬
開館時間：開館10:00～閉館17:00
休 館 日：毎週木曜日（祝祭日は前日）7月・8月は無休
入 館 料：大人400円（団体300円）
　　高校生300円（団体200円）
　　小・中学生200円（団体100円）
　　※団体は10名以上、就学前の幼児は無料

るもい風土資産カード

旧増毛駅前の歴史的建物群と旧増毛小学校

増毛の歴史を今に伝える 明治から昭和初期の木造建築群

増毛の町内には、あちこちに明治から昭和初期に建てられた木造建築が残っており、その時代にタイムスリップしたような不思議な感覚が味わえます。とくに旧増毛駅を起点とする通称「ふるさと歴史通り」には味わい深い建物が数多く点在しています。

増毛町は大正期に、港湾、鉄道の整備が進められ、交通の要衝として栄えました。特にニシン漁の最盛期には貨物輸送の拠点として賑わいましたが、これらの建物は、その恩恵にあずかった商家、旅館、店舗、造り酒屋、住宅などで、当時の栄華の様子がうかがえます。中でも、明治時代に「天塩国随一の豪商」と称された「旧商家丸一本間家」は、ひと際豪壮なたたずまいを今に伝えています。

また、同じ本間家が明治期に創業した「國稀酒造」の建物は、明治15年(1882年)の創業時から10年かけて完成した木造と軟石造りの３階建てで、工場と酒蔵は当時のまま受け継がれています。さらに、日本海を見下ろす高台に建つ旧増毛小学校は昭和11年(1936年)の建築物で、２階建て校舎と体育館は、道内最大規模の木造校舎として、平成24年(2012年) ３月まで使用され、現在はイベント時などに内部公開されています。

他にも「駅(STASION)」のロケ地となった「風待食堂(現・観光案内所)」、昭和８年建築で木造３階建ての「旧富田屋旅館」。昭和７年建築の現役旅館「増毛館」などが歴史的街並みを形成しており、こうした歴史的建物群と旧増毛小学校は、平成13年(2001年)に北海道遺産に選定されました。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる　鰊漁で栄えた明治・昭和初期頃の栄華は、旧増毛駅前周辺の旅館、店舗、造り酒屋、住宅などの建築物に今も垣間見ることができます。豪勢な佇まいの建築物に触れてみましょう。

嗅ぐ　歴史的建造物群の並ぶ街並みを歩くと、國稀酒造からただよう豊かな地酒の香り、古い建造物独特の刻み込まれた歴史を感じる香りなど感じることができるでしょう。

知る　昭和11年に建てられた旧増毛小学校の校舎は、現存する木造校舎としては道内最大規模。原風景的な存在感で迫る木造の校舎は一見の価値あり。

見どころ

「旧商家丸一本間家」の建物内には花瓶や食器など当時の生活用品が展示してあります。國稀酒造の倉庫にはニシン漁に使われた船も展示しています。

ポイント

旧増毛駅前周辺は明治期から昭和初期に建てられた建造物が立ち並び、レトロな雰囲気が味わえます。平成13年(2001年)には駅前通、商家、造り酒屋、旅館と旧増毛小学校の建物全体が、北海道遺産に選定されています。

■基本情報(R7.3)

【旧増毛駅前の歴史的建物群】
文化財指定：北海道遺産
指定年月日：平成13年10月22日
【旧増毛小学校】
住　　所：増毛郡増毛町見晴町120
Ｔ　Ｅ　Ｌ：0164-53-2174

増毛山道

商人が私財を投じて切り開いた貴重な歴史遺産の道

増毛山道は、日本海の海岸部の増毛郡増毛町別苅と石狩市浜益区幌を結ぶ道路です。この山道は、江戸時代末期にロシアの南下政策に備え、当時、増毛の場所請負人の商人であった伊達林右衛門が松前藩の命を受け、自費で開削したもので、「北海道」の名付け親である松浦武四郎が調査で足を踏み入れた際に、「蝦夷地第一の出来映え」と評するほどの完成度だったと言われています。

その後、増毛山道は地域の重要な交易道路として利用され、駅逓も設置されていましたが、交通網の整備が進むと、次第に山道の利用者が減り、昭和43年には地図からも消えてしまいました。

しかし近年、その歴史遺産としての価値が注目されるようになり、「NPO法人増毛山道の会」の活動によって復元作業が進められました。そして、平成28年に平地を除く32kmにわたる山道の全線が復元され、その歴史が甦りました。

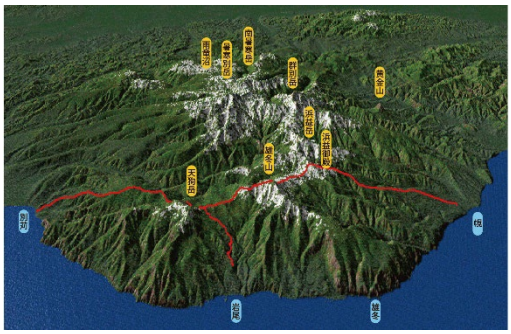
北海道が蝦夷地と呼ばれていた頃に、アイヌの人たちが利用していた道、和人が交易のために利用した道、ロシアの南下に備え整備した道が道内各地にありましたが、時代とともに山道の役割は失われ、維持管理されないまま荒れて失われていきました。そのような中で、山道全線が現在に遺され、復元できた増毛山道は希少な山道であり、歴史的な価値は大きいのです。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる　開削から160年の歳月を経て、その踏み跡も３mを越すクマザサの中に埋没し、この地に生活し道を辿った古老達の多くが亡くなり、増毛山道は記憶の彼方に消え去ろうとしていました。山道の全線復元により、往時の姿のまま現代に遺された貴重な歴史遺産に触れることができるようになりました。

知る　「増毛山道の会」が収集した衛星利用測位システム（GPS）のデータを基に、平成29年に国土地理院電子地図へ増毛山道の位置情報が掲載されました。



増毛山道鳥瞰図

見どころ

平成28年に復元された増毛山道は、現在、一般開放はしていませんが、案内ガイドの同行により、夏期から秋期にかけて体験トレッキングを開催しています。体験トレッキングでは、山道に今も遺る電信柱や水準点などの歴史遺産を実際に見ることができます。

ポイント

明治40年頃、増毛山道には17点の1等水準点が設置されていましたが、約160年を経て復元された山道に、そのうちの９点を発見することができました。北海道内に存在する約2,400点の１等水準点のうち、最も高い位置にあるのが、山道内の浜益御殿（1,038m）頂上付近にあるものです。

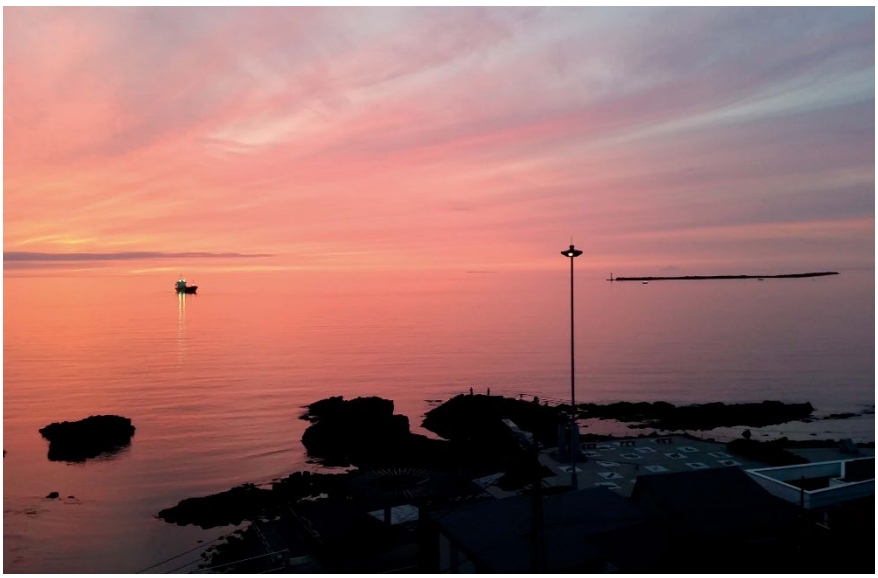
■基本情報（R7.3）

文化財指定：北海道遺産（増毛山道と濃昼山道～近代化に先駆した開拓遺産とその再生）
指定年月日：平成30年11月2日
所 在 地：増毛郡増毛町別苅～石狩市浜益区幌
全　　長：38km
復元完了日：平成28年10月16日

るもい風土資産カード

黄金岬

日本一の落陽が美しい留萌きっての景勝地



留萌で景観の美しい場所といえば黄金岬が有名です。留萌の中心部からも近い、留萌港の南側に位置しています。黄金岬と呼ばれるようになったのは、かつてこの地がニシンの千石場所で、漁期にニシンの見張り台でもあった岬が、郡来（くき＝ニシンの群れが産卵のために海岸に押し寄せること）の時に夕陽に映しだされて、きらきらと黄金色に輝いたことが由来といわれています。

現在は、自然を生かした磯浜の公園で、岩礁から岩礁を渡る桟橋が整備されています。針先にイカを付けた素朴な仕掛けでの磯ガニ釣りや海鳥観察など、大人も子供も磯遊びを楽しむことができます。海岸の道路沿いには、喫茶店や海の家などが立ち並びます。黄金岬キャンプ場も併設されており、シーズン中は家族連れや若者グループなど多くの人で賑わいます。

黄金岬は「日本一の落陽」といわれるほど、夕陽が美しいことでも知られており、平成12年に「日本の夕日百選」に認定されています。クライマックスを迎える時間帯には、日本海の夕陽が黄金色に輝き、変化に富んだ岩礁と波とうに照り返ります。黄金岬の上にあたる場所には、留萌の歴史を紹介する施設「海のふるさと館」があります。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

聴く 日本海に落ちゆく美しい夕日を眺めながら静かに耳を傾けると、海岸に打ち寄せる波の音や風、カモメの鳴き声など、大自然のBGMがせわしない日常を忘れさせ、身も心も癒してくれます。

嗅ぐ 磯の香りただよう海岸では、夏のシーズンになるとキャンプ場に海水浴客が賑わい、バーベキューのおいしそうなにおいも。

知る 折り重なる奇岩と波濤が夕陽を浴びて、叙情的な風景を描き出す絶好のシャッターポイントです。かつては「鰊の千石漁場」「豊饒の海」と呼ばれていました。

黄金岬海浜公園全景

見どころ

クライマックスは夕陽が沈む時間帯で「日本一の落陽」といわれています。岩礁と波とうが美しい輝きを放ち、叙情的なムードに包まれます。また夜間にライトアップされた光景も幻想的です。

ポイント

この地方がかつてニシン漁の千石場所であり、押し寄せる群れは豊かさと富をもたらしたこと。またその光景が、夕日を浴びてきらきらと美しく輝いたことから、いつしか黄金岬と呼ばれるようになりました。

■基本情報（R7.3）

【黄金岬海浜公園】
住　　所：留萌市大町2丁目
駐 車 場：北側20台・南側40台/無料
キャンプ場：有/無料（ゴミはお持ち帰り下さい）
便益施設：水洗トイレ2箇所（多目的トイレあり）
　　炊事場1箇所（開設期間：4月下旬～10月上旬迄）
売店・食堂：4店舗（開設期間：4月中旬～10月中旬）
問い合わせ：留萌市役所経済観光課
　　TEL：0164-42-1840
　　NPO法人留萌観光協会/TEL：0164-43-6817

るもい風土資産カード

留萌の波濤（はとう）

自然のエネルギーが猛威を振るう世界３大波濤のひとつ

留萌沿岸に押し寄せる波濤はインドの「マドラス」、スコットランドの「ウィック」と並ぶ世界３大波濤に数えられています。特に、秋から冬に掛けての激しい波は、強い季節風が西風となって日本海を渡り、そのエネルギーが波となって沿岸部に押し寄せるためで、冬の留萌は北西方向の卓越した季節風と、それによる風雪、波浪という厳しい気象条件下に置かれています。

留萌開発建設部のデータによると、過去最大の波濤は大正9年(1920年)10月8日に観測されたもので、最大波高7.6m、最大波長106m、最大風速毎秒50mを記録。当時、建設中だった留萌港の南防波堤が被災するほどの規模で、重さ2000tもあるコンクリートケーソン2函が破壊、5函が移動するという被害に遭いました。港内で波高を観測するようになってからは、昭和59年(1984年)10月の波高12.07mが最大とされ、ビルのおよそ4階分に相当する波の高さは想像を絶する凄まじさです。

この波濤や台風の影響で、昭和30年頃までは港の構造物の多くが被害に遭い、港湾関係者は波濤との闘いを余儀なくされてきました。留萌港は道北の物流拠点港として重要な役割を担っていることから、昭和34年(1959年)には国内で初めて、25tの大型波消ブロックが採用され、現在の留萌港の防波堤には世界最大級とされる80t型の波消ブロックが投入されています。激浪に立ち向かい、復旧工事を繰り返してきた先人たちの苦労の甲斐もあり、今では世界３大波濤の印象は改善されつつあるものの、冬の日本海の荒波をひと目見ようと、各地から見物に訪れる人も増えています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

聴く　岩礁を打ち砕くほどの波の音、空を切り裂くような風の音、それが波濤の威力であり、自然が秘めた力と言えます。強風で知られる留萌の町はいつも海風が鳴り響き、時には波濤や地吹雪となって、猛威を振るいますが、それこそが留萌の音として生活に溶け込んでいるのです。

触わる　留萌港の防波堤には、世界でも最大級の80t型のテトラポッドが使用されています。沿岸沿いで波しぶきに触れてみましょう。

８０ｔ型テトラポッド

見どころ

留萌市の景勝地「黄金岬」は波濤が出現するスポットとしても知られています。この辺り一体を形作っている岩礁は層雲峡の大函や根室の車石などと同じ種類の石質。この岩礁を打ち砕くほどの波濤が現れると、岩は一瞬にして波に飲み込まれ、迫力満点の光景に包まれます。

ポイント

例年10月から3月の留萌沿岸は1カ月のうち約半分が暴風日となり、特に12月には10mを越す波が押し寄せることもあります。波濤の様子を目の当たりにするには12月以降の冬場が狙い目ですが、くれぐれも海岸には近づかないよう注意してください。

■基本情報(R7.3)

―

るもい風土資産カード

留萌川

古くから交通路として使われていた穏やかな大河

留萌の語源はアイヌ語の「ルルモッペ」で、「静かなる川」という意味です。先住のアイヌの人たちがゆるやかに流れている留萌川をそう呼び、それがいつしか留萌川の河口の辺り、つまり留萌を指すようになったと言われています。

大正初期の留萌川は、天塩山系の南端、空知と留萌との境界を源とし、途中で中幌糠川、チバベリ川などの支流をあつめて西へと流れ、日本海へと注いでいます。当時は、総延長72㎞もあり、その蛇行箇所は400にも上ったといいます。現在は河川の改修などにより延長40㎞程になりました。和人がまだ留萌地方の主役になる前、この留萌はアイヌの人たちの一大中心地でした。現在の元町にコタンがあり、和人との交易が盛んでした。それは、この留萌川の流れが遅く、また深いことから二、三百石程度の船が停泊できる良い港として利用されたからです。さぞかし多くの船が本州や松前などの間を往来していたことでしょう。

留萌川が港として使われていたことは、明治になって留萌港が拓かれる基礎ともなりました。留萌川は内陸への交通路としての機能も持っていました。江戸時代の末にこの地を訪れた探検家の松浦武四郎も、川をさかのぼり奥地へと通じる道をアイヌの人たちが利用していると書き記しています。明治29年（1896年）から開始された内陸部の開拓によって、さらに交通路としての重要度が増し、明治43年（1910年）の鉄道開通まで利用されたといいます。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

聴く

アイヌ語で「海水が静かでいつもあるもの」という意味が示すとおり、緩やかに流れる留萌川。そのせせらぎの音を聴くと、自然と心穏やかになるものです。留萌川は、流域の市民に安らぎと憩いの空間を提供しています。

触わる

山あいを流れる上中流部は豊かな自然環境が残されており、子供たちが川の多様な生き物の観察する体験学習なども行われています。
また、留萌市街地を流れる下流部は施設整備が行われ、散策路やサイクリングロード、毎年開催されている留萌川まつりのイベントの場など、人と川がふれあえるオープンスペースとして親しまれています。

知る

留萌川と留萌の町は密接に関係しています。留萌川から留萌港が生まれ、留萌川に沿って鉄道が走りました。更に2010年には留萌ダムが完成し、今度はそのダムによって留萌川が変わろうとしています。これからも留萌川は、留萌の町と自然を見守っていくことでしょう。

見どころ

留萌川は河川敷があまりないため、多くの洪水被害に見舞われました。昭和35年（1960年）に留萌川改修計画が策定されてから、本格的に工事が始まりましたが、川の改修に当たっては、護岸に装飾を施すといった市民によるユニークなアイデアがいくつも採用されています。

ポイント

留萌の語源は、留萌川を示す「ルルモッペ」（静かなる川）。留萌川河口部は古くから天然の港として、また川筋は上流部の開拓地への交通路としても利用されるなど、留萌の発展の歴史とともに歩んできました。

■基本情報（R7.3）

水　　系：一級水系　留萌川
種　　別：一級河川
延　　長：44㎞
流域面積：270㎢

るもい風土資産カード

留萌港のケアラシ

放射冷却の日に現れる特異な気象現象、蒸気霧

厳寒期の風物詩として知られるケアラシは、冷え込みの激しい日に海面に発生する湯気のような現象を指します。漢字では「気嵐」と書きますが、気象用語では「蒸気霧（じょうきぎり）」と言われ、ケアラシは留萌地方で使われ始めた北海道の方言とされています。

留萌沿岸はこのケアラシが見られることで知られており、黄金岬（留萌川）を中心に北は塩見、三泊、南は瀬越、浜中、礼受の各海岸で見ることができます。発生する条件は気温がマイナス15度前後に冷え込んだ快晴の日で、海水温と気温の温度差が15℃以上あること。風向・風速は東南東の風系が多く、発生前後の風速は3～5m/s。放射冷却により冷え込みが強まると、内陸や山地の空気が冷やされ、その冷やされた空気が暖かい海面上に流れ込むことで、水蒸気が急激に蒸発し、霧（ケアラシ）が発生するわけです。発生する時間は午前5時頃から午前10時頃までが多く、発生してもその後の気温の上昇などの要因により消滅してしまいます。発生場所は海岸より１km～数km程度で、高さは２～３mの小さなものから10m位の大きなものまであります。

留萌では沿岸漁業が盛んな頃、小型船は沿岸の航行や港の出入りの際、ケアラシによる視界不良に悩まされたと言われています。現在は道路拡張工事や護岸工事が進められ、沿岸各所にあった小河川が少なくなったため、昔ほど大規模なケアラシは見られなくなり、発生回数も減少していますが、自然が描き出す幻想的な光景を写真に収めようと、この地を訪れる写真家も少なくありません。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる

ケアラシ同様、11月から2月の厳寒期に見られる「波の花」は海中に浮遊する植物性プランクトンの粘液が荒波にもまれ、石鹸状の白い泡となって生成するもの。強風で舞い上がる波の花はふわふわと白く、幻想的ですが、服に付くとしみになるので注意してください。

見どころ

日本の夕陽100選に選定されている黄金岬は、夕陽はもちろん、ケアラシの撮影スポットとしても人気があります。まるで海全体が温泉になったように霧が立ち込める光景は幻想的かつ神秘的。運のいい人だけが見られる自然現象です。

ポイント

ケアラシは冷え込みの激しい日に海面に発生する湯気のような現象のことで、留萌地方で使われる北海道の方言です。幻想的で美しいこの自然現象目当てに訪れる写真家もいます。

■基本情報（R7.3）

―

るもい風土資産カード

海のふるさと館

黄金岬近くの高台に立つ「遊び・学び・憩い」の多目的施設

平成元年(1989年)にオープンした「海のふるさと館」は、留萌市の景勝地「黄金岬」の高台に位置しています。留萌は江戸時代の末期に庄内藩によって統治され、外海と北前船の停泊する旧留萌川の河口(現在の留萌港)を見渡せる日和山、のろし台として使われた由緒ある場所でもあります。地下1階、地上2階の建物(入館無料)はガラスを多用した開放的な外観が印象的。目の前には、海浜公園でもある黄金岬、天気が良ければ、南に暑寒連峰、北に天売・焼尻島などの雄大あな景色が広がります。

景勝地としての立地を生かし、展望ラウンジ、テラスのほか資料館としての機能をもった「学び・遊び・憩い」の場として、一般市民をはじめ、観光客にも気軽に楽しめる施設となっています。常設展示室(無料)には、留萌と日本海や大陸との関係を示す化石資料、海洋生物、アイヌ文化遺産、北海道縄文文化遺跡、かつてのニシン漁の反映を記録した写真や資料の数々、本州との海上輸送を担った北前船関係の資料や、映像による展示も行われています。

このほか、留萌出身の映画音楽作曲家・故佐藤勝氏の資料コーナーも設置されています。ラウンジではミニコンサートなどのイベントも行われ、黄金岬と日本海を一望できるテラスは「るもい浜焼き」などでの利用も可能となっています。

五感で感じる!風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

聴く 映像展示の「留萌みなと物語」は留萌出身の音楽家・故佐藤勝氏の曲にのせて湯田克衛氏作詞の朗読、留萌市民250人による合唱などで演出された、感動と躍動感あふれる内容になっています。

味わう 5月から9月までの期間は、テラスで「るもい浜焼き」を楽しむことができます。焼き台、テーブルなども準備されているので、自分で食材を持ち込んだり、市内商店に予約してのデリバリーも可能です。

知る 常設展示では「日本海の誕生」から「古代の留萌」、「留萌港の誕生」と、留萌に関わる長い歴史と系譜を辿ることができます。
また、海の生物たちのはく製展示や「留萌港内遊覧シュミレーションるもい号」では、実際の留萌港の映像に向かい操縦することができ、船長体験ができます。

見どころ

日本海と関わってきた留萌の自然と歴史が学べる常設展示室は見逃せません。大画面の映像展示の「留萌みなと物語」は留萌港の誕生の経緯と、建設に尽くした人々のエピソード、留萌の四季折々の自然の姿で構成する感動と臨場感あふれる内容となっています。

ポイント

目前には岩礁地帯をもつ海浜公園、好天時には南に暑寒連峰、北に天売・焼尻島などが眺める景勝地にあります。展望ラウンジ、テラス、レストランのほか、資料館としての機能を持ち「学び・遊び・憩い」の場として利用されています。

■基本情報(R7.3)

住　　所：留萌市大町2丁目
T　E　L：0164-43-6677
開館時間：9:00～18:00
休 館 日：4月下旬から10月下旬までは無休
　　11月上旬から4月中旬まで休館
観 覧 料：無料

※「留萌浜焼き」に関するお問い合わせ
・NPO法人留萌観光協会　TEL:0164-43-6817

るもい風土資産カード

神居岩温泉

泉質と薬湯が湯治客に人気の市内唯一の天然温泉

JR留萌駅から車で約10分。神居岩総合公園の入口にある温泉宿泊施設で、「ホテル神居岩」の建物が緑に囲まれた閑静な場所に建っています。

明治時代に開湯した留萌市唯一の温泉で、2種類の泉質と薬湯が楽しめることから、湯治客にも人気があります。寝風呂にひいているのはナトリウム－塩化物強塩泉。効能はリウマチ性疾患、運動機能障害創傷、慢性湿疹及び角化症などで、湯船に横になりながら、ゆっくりと入浴できます。気泡風呂は単純硫黄冷鉱泉で、神経痛、筋肉痛、関節痛、糖尿病などに効能があります。

独特の香りが漂う浴槽は「漢方皇源薬湯風呂」で、古くから中国皇宮に伝わる８種類の薬草を組み合わせて、特別配合を施した薬湯です。湯船につかると、体に刺激を感じますが、心臓病、肝臓病などの循環器系疾患や運動機能障害、リウマチ、神経痛などに効果があると言われています。このほか、サウナ・うたせ湯も完備しています。

日帰り入浴客用の休憩室もあり、宿泊用の客室は8畳の和室を主体に計17室。大・小宴会場や売店なども整っており、駐車場は120台まで収容できます。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる　天然温泉と8種類の薬草を組み合わせた薬湯が楽しめる神居岩温泉。横になりながらゆっくりと入浴できるのも人気の高いポイントです。

嗅ぐ　「漢方皇源薬湯風呂」は古くから中国皇宮に伝わる、8種類の薬草を特別配合した薬湯です。独特の香りが漂っていて、湯船につかると刺激を感じますが、様々な効能があります。

神居岩の記念碑

見どころ

留萌管内にはいくつも温泉がありますが、留萌市内の温泉は神居岩温泉だけ。近くに神居岩総合公園があり、キャンプ場やフィールドアスレチックが整備されているほか、春は桜、秋は紅葉の名所としても知られています。

ポイント

「漢方皇源薬湯風呂」は体に良いとされる薬草を配合した薬湯で、独特の香りと肌にピリピリと感じる刺激がありますが、天然温泉とは違う効能があり、一度は体験したいお湯です。

■基本情報（R7. 3）

泉　　質：ナトリウム塩化物泉・単純硫黄冷泉
泉　　温：16～21℃

【ホテル神居岩】
住　　所：留萌市大字留萌村字カムイワ495-1
Ｔ Ｅ Ｌ：0164-42-3500
営業時間：10:00～22:00まで（日帰り入浴）
　　：（月・金のみ21:00まで）
休 館 日：年中無休
入 浴 料：大人（12歳以上）500円/小学生150円/幼児80円

るもい風土資産カード

るるもっぺ憩いの森

市民の生活に溶け込む緑あふれる自然公園

「るるもっぺ憩いの森」は昭和63年に完成した、市民のための自然公園です。JR留萌駅から3.5kmほど南方に位置する留萌市礼受町の丘陵地帯にあり、18.6haの広大な面積を有しています。付近には、留萌港を中心に広がる市街地が一望できる「千望台」もあり、雄大な景色とともに森林浴やバードウォッチングが楽しめるハイキングゾーンとして、市民に親しまれています。

大きな特徴は「春の森」「散策の森」「池の森」「郷土の森」など12の森が歩道で結ばれている点で、それぞれ表情の違う森の様子を四季折々に楽しむことができること。山一帯には紫陽花（アジサイ）が植えられており、初夏の開花時には多くの人々がアジサイ鑑賞に訪れます。森林はダケカンバ、ナナカマド、ハンノキなどの天然広葉樹林が中心で、日本海特有の厳しい気象条件にもかかわらず、豊かな緑を形成し、市民に親しまれています。また、樹木ばかりではなく、オオバナエンレイソウ、マイズルソウ、ヤマブキなどをはじめとする多くの植物も鑑賞できます。樹林内には、エゾリスなどが生息しており、ウグイス、クマゲラ、ムクドリなどの野鳥も数多く飛来します。

延長約2800mの遊歩道も整備されており、シーズンには山菜を求める人の姿も見受けられます。緑あふれる自然とふれあいながら、心身の健康をはかる森林浴レクリエーションの場として、市民の暮らしに溶け込んでいます。春の雪解け時には、小鳥たちがアジサイの種を食べに来る「小鳥を呼ぶ山」として道内初の環境庁長官賞も受賞しています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

聴く 12からなる森を散策していくと、木々のざわめきや虫の鳴き声などが心なごませてくれますが、この森には多種多様な鳥が飛来してくるので、バードウォッチングで様々な鳥のさえずりも楽しむことができます。

触わる 山菜のシーズンになると、ヤマブキ・わらび・ギョウジャニンニクなどの山菜に加え、野生の草花カタクリ・ミズバショウ）がいたる所にみられます。

嗅ぐ 緑あふれる自然のにおいをかいで心身の健康をはかるなど、忙しい日常をから離れてリフレッシュするのに最適な森林空間です。

見どころ

中央広場を中心に遊歩道があり、四季折々の美しい自然が楽しめます。広葉樹林の森には多くの草花が見られ、特にアジサイの季節は人気があります。エゾリスやキタキツネなどの動物も生息し、ウグイス・ムクドリ・クマゲラなどの野鳥も飛来します。

ポイント

「池の森」には北海道をかたどった中島のある防火用貯水池があり、水辺でのレクリエーションが楽しめます。木々の間から日本海が眺められるロケーションが人気です。

■基本情報（R7.3）

住　　所：留萌市礼受町680番地の1
Ｔ Ｅ Ｌ：0164-42-8380
（北海道留萌振興局森林室）
0164-42-1837
（留萌市役所/農林水産課）
利用期間：5月中旬～10月下旬冬期間閉鎖
使用時間：終日
休　　日：期間中無休
料　　金：無料
施　　設：トイレ、駐車場、遊歩道、東屋、水道施設有り

るもい風土資産カード

留萌港

世界の貨物船や客船も入港する道北圏の流通拠点港

道北圏の流通拠点港として、国の重要港湾に指定されている留萌港は、昭和8年(1933年)3月、着工から足掛け24年の歳月を経て開港しました。昭和11年(1936年)には国際貿易港に指定され、同年２月に中国汽船永原丸が外国船として、初めて入港。平成８年(1996年)２月25日にはロシア船コリア・ミヤゴチン号の入港で記念すべき3000隻を記録しました。古丹浜地区の－10m岸壁、三泊地区の－12m岸壁は外国からの大型貨物船や客船を受け入れる重要な役割を担っています。

留萌港築港の歴史を振り返ると、そこには地元の人々の熱意と一人の外国人技術者の言葉がありました。明治20年(1887年)、道庁が港湾調査のために招いたイギリス人技師、C.Sメークが報告書の中で述べた「天塩海岸では増毛より留萌はまだ未発達だが、もしも120万円かけて留萌の海岸を修築すればよい港になるであろう」という一文をきっかけに、地元有志が立ち上がり、大日本帝国議会に留萌築港の請願に行ったのが明治24年(1891年)。この請願は議会の解散で水泡に帰しましたが、その中の一人、地元の資産家として知られた五十嵐網治と網治の養子、五十嵐億太郎がその後、築港へ大きな影響力をもたらしました。億太郎は志半ばで病に倒れた網治の「鉄道も港湾もこれからだ。私の考えていたことを立派にやり遂げてくれ」との遺志を継ぎ、築港実現に向け、あらゆる手を尽くしたのです。当時、増毛との争奪戦となっていた留萌に築港が決定したのは明治43年(1910年)。私財を投げ打ってまで留萌の発展に寄与した五十嵐家は留萌港の歴史を語る上で、欠かせない存在と言えます。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

嗅ぐ

日本海有数の漁業の町、留萌では一年を通して、さまざまな魚介類が水揚げされます。エビ、タコ、イカ、ニシン、カレイ、ホッケ、アワビ、ウニ…冬はコマイやタラ、ハッカクなど、港の周辺はいつも磯の香りに包まれています。

知る

留萌港が一望できる留萌市礼受町の千望台には五十嵐億太郎翁立像が建っています。昭和59年10月に建立された「五十嵐億太郎翁彰徳碑」には億太郎翁の功績が記され、港の完成を待たずにこの世を去った億太郎翁の像が高台から留萌港を見守っています。

令和２年７月、留萌港を中心とした地域の振興に向けて「みなとオアシスるもい」が登録されました。代表施設である船場公園(るしんふれ愛パーク)は「道の駅るもい」も登録されており、留萌港と陸地が一体となった地域の活性化が期待されています。

見どころ

留萌港大町地区には世界的にも珍しいブロンズ像のデザイン灯台「波灯の女(ひと)」が建っています。6.65mの高さから14カンデラの光を沖合5kmにわたって照らすこの灯台は平成19年7月に市民によって寄贈されたもので、観光モニュメントとしての役割も果たしています。

ポイント

24年の歳月を掛けた留萌港築港の裏には、きっかけとなった一人の外国人技術者の言葉と、地元の人々の熱心な働きかけがありました。

■基本情報(R7.3)

港　　格：重要港湾
港湾管理者：留萌市

るもい風土資産カード

留萌の塩カズノコ

おせち料理に欠かせない黄色いダイヤモンド

おせち料理に欠かせない塩カズノコはニシンの卵巣（メスの卵）を丸ごと塩漬けにした加工品で、留萌市は国内ナンバーワンの塩カズノコ生産地として知られています。製品は主に関西や中部、関東地方などに出荷され、国内生産量の約50％を占めています。

現在、原料となるニシンの卵巣はアメリカやカナダ、ロシアからの輸入品が中心となっていますが、日本海沿岸では昭和20年代後半まで、オスの精子で海が乳白色に染まるほどニシン漁が盛んでした。ところが、昭和30年（1955年）を境に、ニシンの水揚げ量が激減、翌年には全く姿を見せなくなってしまいました。それまで大量のニシンを身欠きニシンや干しカズノコなどに加工していた水産加工業者は、原料確保のため奔走し、昭和35年（1960年）からはソ連（現在のロシア）産ニシンの輸入が始まりました。ところが、当時のソ連産ニシンは塩蔵だったため、卵は血液や内臓で真っ黒の状態で、塩カズノコの加工にはむかないものでしたが、昭和38年（1963年）に留萌市内の水産加工会社が過酸化水素を使用した漂白技術を独自に開発。抱卵冷凍ニシンを使った塩カズノコの生産が本格的にスタートしたのです。ポリポリとした歯ごたえとプチプチ弾ける食感、ほのかな苦みと塩味が特徴の塩カズノコは黄金色の美しさから、かつては「黄色いダイヤモンド」と呼ばれたほど。年末年始の贈答品としてはもちろん、食卓を華やかに彩る留萌の代表的な水産加工品となっています。

五感で感じる！風土資産の魅力

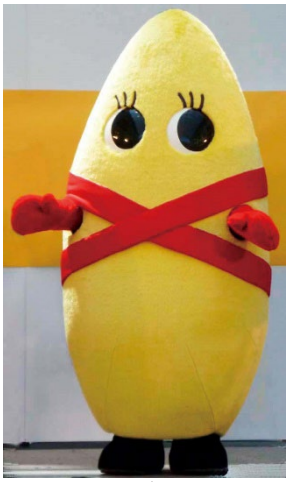
聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

味わう

カズノコは、美味しいだけではなく身体に良い食品です。カズノコには青魚やオリーブオイルにも含まれているDHAやDPAが多く含まれており、コレステロールを下げ、心筋梗塞や脳梗塞など心血管系の合併症リスクを下げる効果が期待できます。カズノコは塩分が多いので、塩ぬきした料理を味わうのが健康のコツです。

知る

留萌のカズノコゆるキャラ『KAZUMOちゃん』は、携帯ストラップやコンビニおにぎりのパッケージになるなど、留萌ならではのキャラクターとして活躍の場を広げています。



KAZUMOちゃん

見どころ

一時は日本海沿岸から姿を消したニシンですが、最近、再びニシンの群れが訪れるようになりました。ニシンは鰊や春告魚と書かれるように、3月から6月にかけての春が旬。沿岸ではカズノコに加工される前のニシンが見られるかもしれません。

ポイント

塩カズノコは保存食として製造されているため塩分が強く、塩抜きが必要です。真水ではなく、2%程度の塩水に6～8時間浸し、薄い膜を取り除いてから、再び塩水に6～8時間漬けるとおいしく食べられます。

■基本情報（R7.3）

問い合わせ：留萌水産物加工協同組合/TEL0164-42-1392

るもい風土資産カード

道の駅「るもい」

親子や家族連れも楽しめる北北海道のゲートウェイ

道の駅「るもい」は、留萌管内7番目の道の駅として令和2年(2020年)7月11日、「るしんふれあいパーク(船場公園)」にオープンしました。同年3月に高規格道路として道内では初めて全線開通路線となった「深川・留萌自動車道」の終着地となる留萌インターチェンジに近接し、また、国道231号、232号、一般国道233号の交通結節点に隣接しており、留萌地域や稚内市を含めた北北海道のゲートウェイとして地域の情報発信を行っています。

また、「≪道の駅るもい≫船場公園(るしんふれ愛パーク)」を代表施設とする「古丹浜ふ頭-10m岸壁」「南岸壁」「黄金岬海浜公園」の4つのエリアは、『みなとオアシスるもい』として、令和2年(2020年)7月26日に道内12番目のみなとオアシスに登録され、観光資源や地域の情報発信、地域住民の交流促進など地域の魅力向上につながる取り組みが行われています。

さらに、親子や家族で時間を過ごせるくつろぎの「空間」と、地元特産品などの「魅力」を発信する道の駅の新たな「交流拠点」として、屋内交流・遊戯施設『ちゃいるも』が令和4年(2022年)4月29日に供用となり、地元ファミリーをはじめ、市外からの交流人口の増加も期待されます。なお、施設内には地場産食材を多く使用したカフェ、地元の特産品などを販売している道の駅のアンテナショップもあり、ゆっくり買い物や休憩ができます。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

聴く　ＪＲの留萌本線の始発着駅である留萌駅の背後地であることから、１日７往復始発着列車を間近で見ることもできます。ディーゼル車両のエンジン音は、ノスタルジックな気分にさせます。

味わう　施設に併設されているチャレンジショップでは、地元食材を用いたテイクアウト品を販売していますので、留萌の味覚を気軽に味わうことができます。

知る　船場公園敷地は旧国鉄羽幌線などの跡地を買い取り、新たな留萌の顔として整備した公園です。留萌駅～幌延駅間を運行していた旧国鉄羽幌線は、羽幌町の炭礦閉山などによる沿線の人口減少により、1987年(昭和62年)3月30日に国鉄最後の廃止路線となりました。

見どころ

屋内交流・遊戯施設『ちゃいるも』は「親子や家族連れをターゲットとした、遊びの空間の創出」をコンセプトにしており、「バランス感覚」「体力」「想像力」を育み、安心・安全に遊ぶ空間となっています。（利用は予約制となっているため、事前予約をお勧めします。）

ポイント

留萌港や市街地に隣接しており、7.8haの開放的な芝生広場やパークゴルフ場、１周500メートルのジョギングコース、ドッグラン、虹のガーデンなどを整備しています。園内で遊ぶ遊具は幼児から一般用まで様々取り揃え、管理棟で無料で貸し出しています。

■基本情報(R7.3)

住　　所：留萌市船場町2丁目114
ＴＥＬ：0164-43-1501(るしんふれあいパーク管理棟)
営業時間：9:00～18:00(5月､9月)
　　9:00～19:00(6月～8月)
　　9:00～17:00(10月～4月)
　　※アンテナショップ､チャレンジショップ、カフェの営業時間は公式ＨＰで確認してください。
　　https://web.michinoeki-rumoi.info/
休 館 日：年末年始(12月31日～1月5日)
　　※トイレは24時間年中利用可能)

るもい風土資産カード

小平藥川

小平ダムに注ぎ込む二級河川

小平町滝下地区にある小平ダムは高さ42.4m、総貯水容量3,322万立方メートルの多目的ダムで、ダム下流域の水害を防除するとともに、下流既得用水の補給および河川環境の保全等のための流量を確保するために建設されました。ダム本体コンクリートの打設にはベルトコンベアー打設という新工法が採用され、ダム地点の計画高水流量1000㎥/sの洪水を調整する機能が施されています。また、ダム下流地区に特定かんがい用水、小平地区および達布地区に水道用水の供給も行っています。

ダム工事の着工は昭和51年(1976年)、昭和62年(1987年)にはダムに架かる滝見大橋、中記念別橋が完成、平成2年(1990年)7月11日に堤体が完成し、翌年11月に試験たん水が始まりました。完成式は平成4年(1992年)9月25日に行われ、計画から完成まで20数年に及ぶ事業が終わりを迎えました。

二級河川小平藥川を利用した小平ダムの貯水池は「おびらしべ湖」という名称の人工池として、観光スポットとしての一面も持っています。湖にかかる「滝見大橋」は湖上橋として全道一の長さを誇ります。また、ダム公園にはクビナガリュウのモニュメントなどがあり、森と湖に囲まれた空間は訪れた方々にやすらぎを与えてくれます。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

聴く　小平町の語源はアイヌ語の「オピラウシペツ」o-pira-us-pet(河口に・崖・ある・川)で、町の中央を流れる小平藥川に由来しています。

触わる　おびらしべ湖ダム公園では「森と湖に親しむ旬間」にちなみ、「森と湖に親しむつどい」が毎年開催されています。水資源の貴重さや治山・治水の大切さをレクリエーションや見学会を通して、楽しみながら感じてもらうことを目的としたイベントになっています。

見どころ

ダムサイトの下側に広がるダム公園は、クビナガリュウのモニュメントがシンボルの憩いの広場です。ドライブ途中の休憩スポットとして、四季折々の風景に浸り、記念写真を撮るのもいいでしょう。

ポイント

おびらしべ湖に架かる滝見大橋の全長は900m。北海道にある湖上橋としては最も長い橋で、秋の紅葉シーズンのドライブルートとしてお勧めです。

■基本情報(R7.3)

水　　系：小平藥川
種　　別：二級河川
延　　長：61.7km
流域面積：465.2㎢
貯水池名：おびらしべ湖

るもい風土資産カード

天狗の滝

岩肌を2段になって水しぶきを上げる秘境の飛瀑

小平町滝下地区にあるおびらしべ湖の南西側にそびえる天狗山は、断崖の岩肌をむき出しにした標高376mの小高い山。周囲の山々からひと際高くそびえる姿が天狗の鼻のように見えたことから名前が付けられたと言われています。荒々しい岩肌を見せる断崖は落差約100mもあり、急激な造山運動による隆起によって誕生したことを表しています。

この天狗山の中腹で、岩肌に沿って水しぶきを上げる飛瀑が、景勝地として知られる天狗の滝。落差30mの滝が2段になって岩壁にぶつかり、扇状に広がって滝つぼへと流れ込む独特の形状を見せています。滝が流れる岩肌は木も苔も生えないむき出しの岩盤で、この辺りがアイヌ語で「カムイハッタリ（魔神の淵）」と呼ばれていたことからも秘境の名瀑であることがうかがえます。

おびらしべ湖駐車公園から天狗の滝までは約3kmの遊歩道が整備されていますが、途中には上り下りの階段や険しい小道もあり、汗をぬぐいながら天狗の滝にたどり着いたときの感動はひとしおです。天狗の滝は平成5年（1993年）に日本海百選、天狗山は昭和60年（1985年）に北海道自然百選に選定され、四季折々の自然の景観を楽しませてくれます。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

聴く

大天狗山滝の沢を源流にし、落差30mもあろうかと思われる豪快な流れは、2段になった岩崖にぶつかり扇状に広がって壮観です。迫力のある水音にも耳を傾けてみましょう。

知る

天狗山では四季折々の豊かな自然に触れることができ、訪れる行楽客を楽しませています。
また山頂からは、天気のよい日は日本海や暑寒別岳を望むこともできます。

見どころ

天狗の滝はおびらしべ湖畔にあるおびらしべ湖駐車公園から約3km。遊歩道を30分ほど歩くと、たどり着きます。夏場は一面緑に覆われ、鳥のさえずりと風のざわめきが心地良い自然の中で、天狗の滝の水音が豪快に鳴り響いています。

ポイント

天狗の滝の岩肌には、よく見ると小さくくり抜かれた穴があり、中に仏像が祭られています。その昔、滝に打たれて難行を繰り返した若い修行者が滝の神様として祭ったものだそうで、天狗の滝もパワースポットとして注目を集める日が来るかもしれません。

■基本情報（R7.3）

問い合わせ：小平町経済課商工水産係/TEL0164-56-2111

るもい風土資産カード

天応寺の一本藤

存在感と風格漂う樹齢百数十年の一本藤

小平町鬼鹿田代の天応寺境内にある一本藤は樹齢百数十年。一本藤は明治24年（1891年）に天応寺が建立された頃、後に２代目住職となった橋本玄真上人によって植えられ、丹精込めて育てられました。そのかいあって美しい花が咲くようになり、永く参詣の村人の心を癒してきました。

藤の花が満開を迎えるのは毎年６月中旬で、薄紫色の風情あふれる花の房は甘い香りを漂わせ、大きいものでは長さが40㎝にもなるものもあります。その絢爛と見事に咲き誇る華麗な姿はいつしか広く世に知られるようになり、多くの人々が見物に訪れる花の名所となりました。

小平町の開拓の歴史とともに歩んできた一本藤は圧倒的な存在感を放ち、昭和53年（1978年）12月、小平町開基百年記念保護樹林に指定されました。一本藤を末永く保存管理し後世に伝えていくことを目的として、昭和54年（1979年）には天応寺一本藤保存会も結成され、地道な保存活動に取り組んできましたが、平成18年を最後に保存会の活動も終了し、現在は天応寺で保存活動を行っています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる　満開時の一本藤は圧倒的な存在感を放ち、その姿は見るものに気品と風格を感じさせます。

嗅ぐ　見事に咲き誇る様子もさることながら、天応寺の境内にはその芳醇な甘い香りが立ち込めて、訪れる人々を楽しませています。

見どころ

棚の広さは畳100畳分、花の房は40㎝にもなるといい、薄紫の花の風情溢れる姿は、長い歴史を生き抜いてきた圧倒的な存在感に満ちています。

ポイント

樹齢百数十年といわれる一本藤は町民だけでなく、町外から鑑賞に訪れる人も多い花の名所です。昭和30年代には旭川から小平町鬼鹿まで、臨時列車が運行するほどの賑わいだったほどで、開花時期は写真撮影スポットとしてもお勧めです。

■基本情報（R7.3）

文化財指定：小平町開基百年保護樹林
指定年月日：昭和53年12月25日
住　　所：留萌郡小平町字鬼鹿田代天応寺境内
推定樹齢：約130年
ＴＥＬ：0164-57-1706

るもい風土資産カード

最北の登り窯「北創窯」

住民の想いが創り上げた道北唯一の登り窯

登り窯とは陶磁器などを大量に焼成するために、炉の内部を各間に仕切り、斜面などの地形を利用して、重力による燃焼ガスの対流を利用し、炉内を一定の高温に保つように工夫された窯のこと。焼き物の本質的な色合いや風合いを引き出すには最適で、もっとも生産効率のよい窯と言われています。しかし、建設費が高額なこともあって、北海道では札幌など5ヵ所にしか存在していません。そのうちの一つが、平成10年（1998年）に完成した小平町の「北創窯」。場所は小平町市街の北を流れる小平藁川の河口近くで、付近にはゆったりかん、ゆうゆうそう等宿泊施設もあります。

北創窯の実現に尽力したのは昭和59年（1984年）に発足した留萌管内の市町村に存在する会員でつくる「留萌地方陶芸の会」。小平町のメンバーが中心となり、登り窯実現のための活動に取り組みました。その切実な願いに小平町がこたえ、道北唯一の登り窯として、北創窯がオープンしたのです。

窯の構造はレンガ造りで、煙道でつながる5部屋が並んで斜面を登る連続窯です。全長は10m、各部屋の高さは3mで、数千点もの陶芸を一度に焼くことができます。北創窯に併設されている陶工房「おびら」は木造平屋建てで、小・中学校などの団体や多くの陶芸愛好者に利用されており、個人での利用も可能です。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる　一度作り出すとやめられなくなる、という奥の深い陶芸。工房内にはその世界に魅せられ、額に汗を浮かべながら粘土に触り作品作りに励む町民でいつも賑わっています。

味わう　近くにある「ゆったりかん」に併設されるレストラン「黄陽」では、小平産の「タコ」や「ホタテ」、「小平牛のハンバーグ」など地元の食材を味わうことができます。

嗅ぐ　登り窯は土・炎・灰の反応で、電気窯では出せない様々な風合いの焼き物が焼きあがり、より土の匂いが感じられる作品を創りだす事ができます。

見どころ

北創窯に併設されている陶工房「おびら」は北創窯利用時の休憩仮眠室のほか、電動ロクロ、電気窯などが設置され、初心者でも気軽に陶芸が体験できます。陶芸施設運営委員会が主催する6月と10月の登り窯焼成事業に向けて、作品づくりに取り組んでいる愛好家も多いようです。

ポイント

日本国内にある登り窯では滋賀県の信楽焼、岡山県の備前焼、佐賀の唐津焼などが主な産地として知られています。道北唯一の登り窯である北創窯は、留萌地方の陶芸愛好家念願の施設として、オープン以来、数多くの作品を生み出しています。

■基本情報（R7. 3）

【陶工房「おびら」】

住　　所：留萌郡小平町字小平町
ＴＥＬ：0164-59-1144
使 用 料：9:00～12:00、13:00～16:00
18:00～21:00の３時間帯
（時間帯毎/200円（団体1, 500円））
全日/600円（団体 4, 500円）
※粘土代別途（700円/kg）

るもい風土資産カード

光明石温泉「ゆったりかん」

美しい日本海を眺めながらゆったりした時間をどうぞ

都市部から訪れた人々と地元住民の交流拠点としての期待を担って、平成10年（1998年）にオープンしたのが小平町総合交流ターミナル施設「ゆったりかん」です。小平町市街の北、小平藻川の河口近くにあり、周辺には全18ホールの小平町国際パークゴルフ場をはじめ、初心者でも気軽に陶芸が楽しめる陶工房「おびら」、小平市街地を眼下に見下ろし、日本海も一望できる「小平町望洋台キャンプ場」などがあります。

「ゆったりかん」は鉄筋コンクリート3階建てで、宿泊施設（客室15室、定員最大53名）のほか、研修室2室、入浴施設、レストランなどを備えています。大浴場にあふれるお湯は「光明石（こうみょうせき）温泉」。お湯は無色透明、無味無臭で、疲労回復、神経痛、腰痛などの効能があります。お湯の性質がやわらかく、保湿性が高いのも特徴です。入浴後は肌がしっとりとして、ツルツルになることから「活性の湯」とも呼ばれています。上がり湯を使わずに、そのままタオルで軽くふき取ると、さらに効果的とされます。浴槽のほかには、サウナ、ジャグジーバスも整っています。レストランでは地元で獲れた新鮮なウニ、ホタテ、タコ、ヒラメなど季節ごとの海鮮料理や、小平産黒毛和牛使用のハンバーグなどが味わえます。野菜や山菜などの食材もほとんどが小平産を使っています。日本海を茜色に染め上げ、ゆっくりと沈む夕陽を眺めながら入浴したり、食事が楽しめるのも魅力の一つです。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる　光明石温泉には大浴場の他、シャグジーバス、サウナ、休憩室があり、一日中ゆったりのんびりとした気分で入浴が楽しめます。

味わう　ウニ、ホタテ、タコ、ヒラメ、黒毛和牛、そして野菜や山菜と、食材のほとんどが小平産です。
また、特産品販売コーナーでは、小平町の特産品やお土産品などを販売しています。

嗅ぐ　鮮度のよさが自慢のレストランでのお食事は外せません。地元産食材を使用した美味しそうな料理の匂いが、食欲をそそります。

見どころ

日本海に沈む美しい夕陽を眺めながら入浴したり、地元の食材を生かした食事が楽しめるのが「ゆったりかん」の魅力。吹き抜けのロビーには、タッチ式大型モニターテレビが設置され、小平町のイベントや見どころなど、さまざまな情報を知ることができます。

ポイント

光明石温泉は掘削による天然温泉ではなく、天然鉱石を利用した温泉で、この石は温泉と同様の成分を含んでいます。効能は疲労回復、美肌、保湿効果、冷え性、神経痛、痛風、リウマチ、肩こり、五十肩、腰痛、関節炎など。

■基本情報（R7. 3）

住　　所：留萌郡小平町字小平
Ｔ Ｅ Ｌ：0164-56-9111
営業時間：10:00～21:00（日帰り入浴、受付は20:30迄）
※毎月第3火曜休館日
入 浴 料：大人500円/小人300円（4歳以上小学生以下）
回数券:5, 000円（11枚綴り）
入浴メンバーズカード:6ケ月　23, 000円
1年　41, 000円
レストラン：営業時間　昼 11:30～14:00（Lo. 13:30）
夜 17:00～20:00（Lo. 19:30）
※休館日は変更の場合があります。

るもい風土資産カード

道の駅「おびら鰊番屋」

鰊料理が楽しめるオロロンラインの休憩スポット

小平町字鬼鹿広富の国道232号沿いにある道の駅「おびら鰊番屋」は、札幌市と稚内市のほぼ中間に位置し、日本海オロロンラインのドライバーの休憩と観光ポイントとして知られています。敷地内には道の駅の駅舎と、日本最北端の国指定重要文化財である旧花田家番屋があります。明治から大正にかけて北海道西海岸ではニシン漁が全盛を極めており、「鰊番屋」は明治後期にニシン定置網を経営していた花田伝作氏によって建てられました。番屋は、地方から出稼ぎにきていた漁夫の生活の場でした。現在は郷土資料館に、当時のニシン漁の様子や全盛期の網元の栄華を今に伝えています。

平成8年（1996年）4月にオープンし、平成27年（2015年）4月にリニューアルした道の駅の駅舎は、鰊番屋に調和するよう古い木造風の建物に仕上げられ、特産品の販売や歴史文化保存展示ホールなどを有している「観光交流センター」、日本海の海の幸が楽しめるレストランが人気の「食材供給施設」が立ち並んでいます。「食材供給施設」の2階は団体客向けに広い板の間になっており、大人数の会食にも対応できます。毎年5月下旬には敷地内で「鰊番屋まつり」も開催され、郷土芸能や各種ゲームなどのイベントも行われ、多くの来場者でにぎわいます。国道を隔てた向かい側の海辺にある「にしん文化歴史公園」には遠い昔、小平町を訪れた探検家・松浦武四郎の銅像が設置されています。夕陽をイメージしたモニュメントには、武四郎が詠んだ短歌（西蝦夷日誌に記述）が刻まれています。日本海に沈む夕陽が美しく、撮影ポイントとしても人気があります。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

味わう　道の駅内には鰊料理や旬の刺身など、小平町ならではの日本海の海鮮を取り揃えたレストランがあり、日本海オロロンラインの旅の醍醐味を味わえると、ドライブ客に人気です。

嗅ぐ　明治から大正にかけて北海道西海岸でニシン漁が全盛を極めていました。国指定重要文化財である旧花田家番屋では、当時の栄華を感じることができるでしょう。

知る　「北海道」の名付け親である松浦武四郎翁は安政4年・1856年に日本海沿岸探索をした際、この地に立ち寄りました。その時に鬼鹿を詠んだ歌が資料により今も残っています。

見どころ

日本最北端の国指定重要文化財である旧花田家番屋は郷土資料館として、当時のニシン漁の様子や全盛期の網元の栄華を今に伝えています。毎年５月下旬には敷地内で「鰊番屋まつり」も開催され、郷土芸能や各種ゲームなどのイベントも行われています。

ポイント

日本海オロロンラインは北海道の西海岸、小樽から石狩、留萌を経て稚内まで続く約332㎞の沿岸ルートで、「おびら鰊番屋」はそのほぼ中間地点にある道の駅です。日本海沿岸を走る長距離ドライブの休憩地点としても最適で、地元の海の幸を求めて立ち寄る人も少なくありません。

■基本情報（R7.3）

住　　所：留萌郡小平町字鬼鹿広富35番地の2
Ｔ Ｅ Ｌ：0164-56-1828（観光交流センター）
　　0164-57-1411（レストラン）
営業時間：9:00～18:00（4月～10月）
　　9:00～17:00（11月～3月）
　　レストラン　10:30～16:00（5～10月）
　　10:30～15:00（11～4月）
休 館 日：年末年始
　　レストランは毎週月曜日
　　※7月1日～8月第2月曜まで無休

るもい風土資産カード

小平町の化石

愛好家により発見された貴重な歴史的遺産たち

小平町の小平藁川流域は、アンモナイトや恐竜の化石が発掘されることで知られています。町内の地質は約1億1千万年～六千万年以前の白亜系、約3000万～200万年以前の新第三系と第四系があり、アンモナイトは白亜系の地層から数多く産出されています。小平藁川で発見されたアンモナイトは渦巻きが美しく、品種も多種にわたっていることから、道内はもちろん、全国からも研究者や化石愛好者が採集に訪れる化石スポットでもあります。

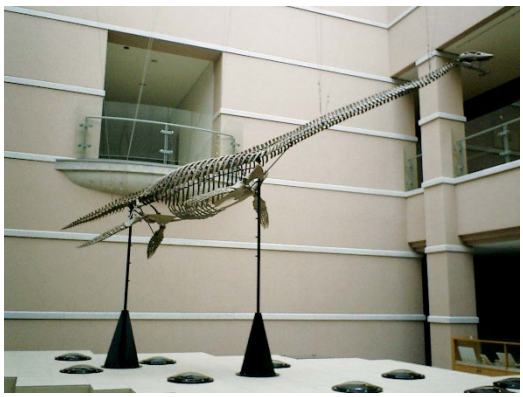
1987年（昭和62年）には、札幌在住の男性が小平藁川の上流にある更生橋の近くで動物らしい化石を発見し、町の教育委員会に届け出たところ、専門家による発掘調査が実現し、合計236個のクビナガリュウの化石が見つかりました。約8500万年前の白亜紀後期の上部蝦夷群地層から発見されたクビナガリュウの化石は福島県いわき市、北海道穂別町に次ぐ国内3種目となるもので、その後、香川大学によって復元保存されています。

ほかにも、1991年（平成3年）には旭川市の男性が発見した骨が、鑑定の結果、カモハシリュウという恐竜の化石であることがわかり、北海道初の発見として話題となりました。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

知る　新第三系の地層がある小樽子川流域ではスロドケウィッチホタテという冷たい海で生活するホタテガイが発見され、今から1100～1300万年前ごろの「小平」は、オホーツク海とつながる冷たい海の中であったことがわかりました。



見どころ

小平ダムの公園には等身大のクビナガリュウのモニュメント等があり、また、令和2年（2020年）には、これまで小平ダムに設置されていた等身大のカモノハシリュウのモニュメントが、小平町総合交流ターミナル施設「ゆったりかん」前の「おびまる広場」に移設され、いずれも化石の町のシンボルとなっています。クビナガリュウの全身骨格模型、アンモナイトなどの化石類は、小平町文化交流センターで見学することができます。

ポイント

恐竜の化石が北海道で発見されたのは小平町が初めて。カモハシリュウは中生白亜紀に生息していた体長数メートルの恐竜で、小平町で発見される化石は太古の地球の研究に大いに役立っているのです。

■基本情報（R7. 3）

地質時代：中生代白亜紀
発見地域：北海道小平町

【小平町文化交流センター】
住　　所：留萌郡小平町字小平町356番地の2
T　E　L：0164-56-9500
休 館 日：年末年始
公開時間：9:00～22:00
観　覧　料：無料

るもい風土資産カード

鰊番屋（旧花田家番屋）

鰊文化を今に伝える
日本最北の国指定重要文化財

日本最北端の国指定重要文化財として、現存する鰊番屋では最大規模の建物とされる「旧花田家番屋」。小平町鬼鹿の国道232号沿いに建ち、道の駅「おびら鰊番屋」が隣接しています。木造平屋（一部2階）の寄棟造（玄関は入母屋造）で、建物面積は約906㎡。玄関を入り、中央の土間から左側には親方の住居（帳場・茶の間・客間など）、右側は漁夫たちの生活空間、突き当りには広い炊事場が配置されています。建物に使われている木材はすべて地元大椴の山から切り出し、三半船で海上を運び、木挽の手によって製材されたもので、木材を惜しみなく使った豪壮な造りは圧巻そのもの。この貴重な古民家建築物を後世に伝えるため、小平町では昭和46年（1971年）に建物を買収し、3年の歳月と約1億9000万円の費用を投じて、解体修復を実施、平成15年度にも大規模改修工事を行いました。解体調査の結果、創立は明治38年頃とされ、周囲には船倉、米蔵、網倉など100棟以上の付属施設が建ち並んでいたそうです。

花田家の先祖は安芸の国の人と言われ、二代伝七の頃より北海道にわたり、鰊漁を始めました。その後、テントカリ（現在の小平町広富）に移って本格的に鰊漁場を経営したのは三代伝七の次男、伝作で、最盛期には18ケ統の鰊定置網を経営。雇っていた漁夫は500人を超え、番屋にはこのうち5ケ統の漁夫の外船大工や鍛冶職、屋根職など総勢200人を収容していました。漁夫の寝台（ねだい）を２階に備えて３段とするなど機能性、合理性に富んだ構造には一部、洋風も取り入れるなど興味深い造りとなっています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる　旧花田家番屋の前に建つ「モッコを背負う女」像は彫刻家尾崎英道氏の作品。東京で暮らす小平町出身の東京鬼鹿会が平成10年9月に寄贈したもので、ニシンで群来るふるさとの情景を忘れられない人々の思いが込められています。

味わう　道の駅おびら鰊番屋のレストランではにしんの三平汁やにしんそばなど、地元の郷土料理が味わえます。海産物加工品や特産品の販売コーナーもあり、ドライブ途中の休憩ポイントとして多くの観光客でにぎわっています。

知る　毎年5月の最終日曜日には鰊番屋の前庭を会場に、春の一大イベント「鰊番屋まつり」が開催されます。地元の若者が作り上げた太鼓「麓龍」が鳴り響き、沖揚げ音頭や鬼鹿松前神楽の舞などが披露されるほか、グルメコーナーもあり、道内外からの来場者で賑わいを見せています。

見どころ

現存する鰊番屋では道内最大級の旧花田家番屋は間口39.390m、奥行22.722mで、広い板敷きの居間には３つの囲炉裏が切られています。太い柱や欄間の透かし彫り、色ガラスをはめた洋風便所など、和洋折衷の装飾は見どころにあふれています。

ポイント

旧花田家番屋は道の駅おびら鰊番屋の敷地内にあり、国道を挟んだ向かい側にはにしん文化歴史公園があります。公園には小平町を訪れた探検家・松浦武四郎の銅像があり、日本海に沈む夕陽の撮影スポットとしても人気を集めています。

■基本情報（R7.3）

文化財指定：重要文化財
指定年月日：昭和46年12月28日
住　　所：留萌郡小平町字鬼鹿広富35番地の2
Ｔ　Ｅ　Ｌ：0164-57-1411
営業時間：9:00～17:00（5月～10月）
　　9:00～16:00（11月～4月）
　　※冬期間（12月～3月）は臨時休館の場合あり。
休　館　日：毎週月曜日
　　（6月第3月曜～8月第2月曜まで無休）
観　覧　料：大人400円小人150円
　　20人以上の団体300円

るもい風土資産カード

ローソク岩

萌州北街道から望む自然の力により形を変える奇岩

日本海沿岸の増毛町から幌延町までの9市町村のエリアは通称、萌州（ほうしゅう）と名付けられ、そのルートは萌州北街道と呼ばれています。萌州エリアのほぼ中間点に位置するのが苫前町で、日本海を眺めると、天売・焼尻の2島が間近に迫り、夕暮れ時にはこの2島の間に夕陽が沈んでいく、ドラマチックな光景に出会うことができます。

ローソク岩は国道232号を北へ向かい、小平町から苫前町に入るとすぐに見えてくる奇岩で、かつてはローソクのように細長い形状をしていましたが、波に削られ、少しずつ姿を変えるうちに、現在のような短いローソクの形になってしまいました。岩を削るほどの波の力、自然の威力を知る上でも貴重な奇岩と言えるでしょう。

波に削られた自然のオブジェとしてのローソク岩を眺めるなら、夕陽が沈む時間帯がおすすめです。空がオレンジ色に染まり、手前に横たわるローソク岩の岩盤、海とのコントラストは絶好の写真撮影スポットとなっています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

聴く　打寄せる波に削られ、かつての細長い形状から少しずつ姿を変えるうちに、現在のような短いローソクの形になったローソク岩。力強く打寄せる波の音を聴こう。

嗅ぐ　海岸線オロロンラインをドライブしながらのローソク岩観賞は、潮の香りを感じてとても爽快。

知る　波に削られた自然のオブジェとして、人気の景勝地となっているローソク岩。夕暮れ時には観光客や写真愛好家が訪れるビュースポットになっています。

見どころ

ローソク岩と呼ばれる奇岩は全国各地にあり、北海道では積丹半島の余市町のローソク岩が有名です。苫前町のローソク岩はそれより北に位置し、同じ日本海のローソク岩でも自然が作り出すオブジェの違いを見ることができます。

ポイント

ローソク岩周辺の国道232号はカーブが続く一本道で、ドライブコースには最適ですが、脇見運転は禁物です。ローソク岩の撮影には駐車帯を利用し、途中、国道239号との合流点があるので注意してください。

■基本情報（R7.3）

問い合わせ：苫前町役場
ＴＥＬ：0164-64-2211

るもい風土資産カード

岩見の一本松

開拓の歴史とともに育ち、樹齢八〇〇年を超えるイチイの木

苫前町古丹別市街から国道239号を東に約2㎞進んだ橋の手前を右に入ると、牧草地の中に見事な枝ぶりの松の木が立っています。地元の人たちが愛着をもって「岩見の一本松」と呼ぶこの木は、苫前町岩見地区に立つイチイの木で、樹齢800年以上、高さは12m。枝が伸びている範囲は直径約10mに及び、幹の太さは約320cmという圧倒的な存在感を見せています。

このイチイの木は、明治29年（1896年）に開拓者が入植したときから確認されており、昭和20年代にはすでに現在の大きさにまで成長していたそうです。800年という樹齢から推定すると、鎌倉時代から存在している木であることが想像できます。

岩見の一本松は昭和49年（1974年）3月、北海道自然環境等保全条例に基づき、記念保護樹木に指定され、さらに昭和55年（1980年）9月には苫前町の記念物にも指定されました。北海道の記念保護樹木は「由緒・由来のある樹木又は住民に親しまれている樹木のうち、郷土の記念樹木として保護することが必要なもの」という条文のもと、将来にわたって保護されるもので、留萌管内では唯一、岩見の一本松が指定されています。

苫前町岩見地区は明治29年（1896年）に奈良県や伊勢地方、北陸各県から入植した先人たちによって開墾の鍬が入れられ、平成7年（1995年）に開拓100年記念式典が行われました。地域の人たちは、岩見の一本松に「先人の艱難辛苦（かんなんしんく）の歳月を見つめ、長く後生を守ってもらいたい」という願いを託し、心のより所にしているのです。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

知る 岩見地区は平成7年に開拓百年記念式典を挙行しています。明治29年に奈良県や伊勢地方、北陸各県から開拓の志を抱いて入植した先人たちによって、肥沃な農業地帯に発展しました。その開拓の歴史を静かに見守ってきたのがこの岩見の一本松なのです。

見どころ

広大な牧草地にポツンとそびえ立つ岩見の一本松は、どこから見ても圧倒的な存在感を醸し出しています。離れて全体の姿を写真に収めたり、近づいて枝ぶりを眺めると、「優しい気持ちになる」という人も多いようです。（私有地につき、立入には所有者の許可が必要となります。）

ポイント

イチイはイチイ科イチイ属の常緑針葉樹で、北海道や北東北ではオンコの木という方言で親しまれています。北海道内では樹齢1,000年を超える名木も少なくありませんが、岩見の一本松は横に広がる枝ぶりが特徴で、見る人たちをとりこにするようです。

■基本情報（R7.3）

文化財指定：記念保護樹木・町指定記念物
指定年月日：昭和49年3月30日（記念保護樹木）
　　昭和55年9月18日（町指定記念物）
住　　所：苫前郡苫前町字岩見

るもい風土資産カード

三毛別羆事件復元跡地

7人が犠牲となった獣害史上最大の悲劇を復元

大正4年(1915年)12月9日、10日の両日、苫前町三毛別(現在の三渓)の集落で、一頭のヒグマが女性や子供7人を殺害、3人が重傷を負うという痛ましい事件が起きました。獣害史上例のない大惨事となったこの事件現場付近に、当時の開拓小屋やヒグマのレプリカなどを再現した「三毛別羆事件復元跡地」が完成し、開拓の悲話を後世に伝える観光スポットとして、平成2年(1990年)から公開されています。

事件は冬眠の機会を逃した「穴持たず」と呼ばれるヒグマが太田家に現れ、女性と子供を食い殺したことから始まりました。恐怖におびえた住民は近くの明景家に避難していましたが、ヒグマは翌日の夜、太田家の通夜に再び現れた後、明景宅を襲い、さらに5人が犠牲となりました。激しい物音と地響きとともに、窓の辺りを凄まじい勢いで打ち破り、囲炉裏を飛び越えなだれ込んできたヒグマは大鍋をひっくり返し、焚き火を蹴散らし、次々に女性たちを襲ったといいます。このヒグマは事件発生から6日目の14日、地元のマタギの手によってあえなく最期を遂げました。体長2.7m、体重約380kg、金毛を交えた黒褐色のオスで、袈裟がけの7、8歳と言われています。

復元跡地に向かう途中にある三渓神社の境内には「熊害慰霊碑」が建っています。これは事件当時、少年だった地元の大川春義氏が昭和52年(1977年)7月に建立したもの。被害者の霊を弔うために100頭の熊撃ちを始めた大川氏が、40数年がかりで悲願を達成し、三渓部落会の協賛を得て、犠牲者の名前を刻んだ慰霊碑を建立しました。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

知る 三毛別羆事件は吉村昭の小説「羆嵐(くまあらし)」をはじめ、多くの作家が小説にし、舞台や漫画、映画の題材としても取り上げられています。中でもノンフィクション作家、木村盛武氏の「慟哭の谷 TheDevil'sValley」は1994年の初版から現在も読み継がれている貴重なドキュメンタリーです。

山渓神社脇に建てられた熊害慰霊碑

見どころ

復元跡地は古丹別市街から道道1049号を南へ約16kmの場所にあり、その道のりはベアーロードと名付けられています。跡地には当時の生活を再現した家屋と事件を解説する看板、民家に襲いかかろうとするヒグマの像があり、事件の悲惨さがつぶさに伝わってきます。

ポイント

ヒグマに襲われた苫前町三毛別の集落は事件後、一人また一人と村を去り、やがて無人の地となりました。苫前町が町おこしの一環で、現地を復元したのは事件から75年を経た平成2年(1990年)。森林に囲まれた薄暗い場所で、今でもヒグマが出現しそうな雰囲気が恐怖と悲しみを感じさせます。

■基本情報(R7.3)

【熊害慰霊碑】
住　　所：苫前郡苫前町字三渓
建　　立：昭和52年7月5日

るもい風土資産カード

とままえ温泉「ふわっと」

様々な設備が揃う、風車にちなんだ多目的複合施設

苫前町を訪れると、巨大な風力発電の風車が立ち並んでいるのに驚かされます。とままえ温泉「ふわっと」はこの風力発電の関連施設として平成12年(2000年)にオープンした温浴施設。「ふわっと」という名称は、「風＋ワット」という意味で、風力発電にちなんだものです。海岸の高台にあって、白いドーム屋根が連なる近代的な建物はひときわ目を引きます。

施設内には温泉浴場だけでなく、宿泊や研修のための施設、レストラン、喫茶、パソコンが利用できるラウンジなど、さまざまな設備が整っています。温泉は、自噴温泉(46.5度)で、毎分110ℓの豊富な湯量を誇ります。泉質はナトリウム－塩化物強塩泉(高張性中性高温泉)。保温効果が高く、神経痛や慢性関節リウマチ、腰痛、打ち身、冷え症などに効くといわれています。

浴場には大浴槽のほかに、露天風呂、ジャグジーバス、サウナ、リラックスルームなどがあります。露天風呂からは手前に漁港、遠くに天売島、焼尻島を望み、その向こうに沈む夕陽を眺めながらの入浴は最高です。レストランでは地元でとれる鮮度のよい魚介類や農産物を使った郷土料理など、豊富なメニューが味わえます。２階は27室ある宿泊施設で、ツイン、ラージツイン、和室、ロフト付き和室、特別室のほか、個人宿泊ニーズに応えるべくキャビンタイプシングルを設置するとともに、子育て支援の充実を図るため、施設内に授乳室も設置しています。令和５年には２４時間トイレ、地元水産物等を扱う直売所「よってけ屋」を正面玄関横に増築し、同年４月２８日にリニューアルオープンしました。随所にバリアフリーを採用し、お年寄りや車椅子を使用する人も安心して利用できます。多目的ホールは、300人規模の結婚祝賀会をはじめ、各種会議、研修会、パーティー、イベントなどにも利用できます。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる 温泉の大浴場は吹き抜けになっており、天井からも採光されています。湯船は全て石造りで、石垣があったり、ジャグジーはお湯の下から光を照らしたりと趣向を凝らした作りになっています。

味わう レストランでは苫前の郷土料理、豪快な料理、繊細な料理など美味しいものが盛りだくさん。地元で獲れる鮮度の良い魚介類や農産物を使って調理しています。

嗅ぐ 泉質はナトリウム塩化物強塩泉で、見た目は黄色で薄く濁っています。温泉ボーリングによって、約47度の温泉が毎分110ℓ自噴しています。

見どころ

掘削ではなく自噴する温泉は北海道でも貴重な存在で、豊富な湯量と恵まれた泉質は温泉愛好家の間でも人気があります。露天風呂からは天売島、焼尻島も眺めることができ、その向こうに沈む夕陽を眺めながらの入浴は格別です。

ポイント

外観は雲をイメージしたテント張りの白いドーム屋根が特徴です。近くには夕陽ヶ丘オートキャンプ場もあり、キャンプシーズンには疲れを癒しに訪れる、キャンパーや家族連れでにぎわいます。

■基本情報(R7.3)

住　　所：苫前郡苫前町字苫前119番地の1
Ｔ　Ｅ　Ｌ：0164-64-2810
営業時間：10:30～22:00
　　(受付は21:30まで)
よってけ屋：8：00～18：00
休 館 日：無休
入　浴　料：大人500円/小人250円

るもい風土資産カード

上平グリーンヒルウインドファーム

「凧あげを通して風と関わる」風の町苫前を象徴する牧場

国道232号を北に向かって走り、苫前町に入ると、大きな風車群が見えてきます。これは自然の浜風を利用した国内最大級の大型風力発電施設で、約300haもある上平共同利用模範牧場敷地内に建てられています。牧場では馬や牛たちがのんびりと草をはみ、その上空で巨大な風車のプロペラが力強く回転している光景が「上平グリーンヒルウインドファーム」の持ち味で、「風の牧場」と呼ばれる所以となっています。

夕暮れ時の景色が美しいことでも知られており、夕陽をバックに、茜色に染まる風車がゆっくりと回る牧歌的な風景はまるで絵ハガキのようです。苫前町は風の街です。冬期にかけ当たり前のように吹き荒れる強風は“厄介者”でしたが、この風を地域の大きな財産と再認識するようになりました。そのきっかけの一つが凧あげです。苫前町は、明治初期からニシン漁で賑わいを見せ、これに従事するため青森地方から出稼ぎ労働者として来たヤン衆たちの中には、漁期の終了後も当地に根付く人が数多くいました。ヤン衆たちは、特有の浜からの強い風を利用して津軽凧（たこ）をあげ、故郷を偲んだといいます。大空いっぱいに広がる大凧や連凧の妙技は迫力満点で見る者を魅了し、やがて冬場の一大イベントの「凧あげ大会」へと発展しました。凧あげを通して、地域住民は風との関わりを一層深め、官民挙げて風力発電に取り組むという発想へとつながったというわけです。

運転開始から20年が経過し高経年化が進んだため、2020年10月から順次リプレース工事が開始され、リプレース後の風車は、大きいものでタワーの高さが約98m、三枚羽根のブレードの直径は約117mで、地上から羽根の先端までの高さは約157mもあります。ここから生み出される総発電出力は5万600kW。これは平均的な一般家庭が使用する１年間の電力消費量に換算すると約3万1000戸分に相当します。発生した電力は電力会社に販売されています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

聴く　なだらかな丘陵地帯に広がる牧場に、白いモダンな風車の森が新しい景観美を見せてくれ、風を切るダイナミックな風車の音が印象的に耳の奥に残ります。

知る　自然環境との共生を積極的に進めてきた集大成が風車の森「ウィンドファーム」。観光の町として弾みとなっただけでなく、環境問題の意識啓発を通して「風のまち」として誇れるまちづくりが実現しました。交流とクリーンエネルギーの、21世紀型の町・苫前町は全国から注目されています。

見どころ

300haの牧場内に、地上から羽根の先端まで高さが約157ｍもある風車が立ち並ぶ姿は迫力満点です。夕暮れ時の景色が美しいことでも知られています。夕陽をバックに、茜色に染まる風車がゆっくりと回る牧歌的な風景は絵ハガキのようです。

ポイント

国道沿いの丘は、天売焼尻の離島と風車を一望できる絶景ポイントとなっています。町内では風車の絵をあしらったコーヒーカップやキーホルダーなどを販売しており、風車めぐりのお土産に最適です。

■基本情報（R7.３）

住　　所：苫前郡苫前町字上平23番地
　　（上平共同利用模範牧場内）
Ｔ　Ｅ　Ｌ：0164-64-2315
　　（苫前町建設課風力発電係）

るもい風土資産カード

苫前町水田発祥の地

道北の農業史に輝く藤田万助翁の偉業をたたえる石碑

苫前町で初めて米の収穫に成功したのは、明治17年（1884年）のこと。当時、誰も成し得なかった道北での水稲栽培に立ち向かい、その偉業を成し遂げた開拓者、藤田万助翁の功績をたたえ、苫前町香川の古丹別川のそばに「水田発祥之地」と記された石碑が建てられています。国道そばの高台にひっそりとたたずむ石碑は明治40年（1907年）に建立され、昭和43年（1968年）に修復再建された後、昭和59年（1984年）に現在地に移設されたもので、国道232号と239号の交差点から古丹別川に架かる苫前橋を渡り、苫前市街地方向に100mほど進んだ山側に建てられています。

苫前地方の農業は幕末にまでさかのぼり、庄内藩が農業移民の入植によって水稲栽培を試みましたが、成果を上げることはできませんでした。文政5年（1822年）に岩手県盛岡市で生まれ、幕末の安政年間に古丹別川尻で農耕を始めた藤田翁は明治14年（1881年）、水田を開き、水稲栽培を試みます。ところが、当時の北海道は石狩地方でさえ米は試作の段階で、上川や北空知地方では稲作を手掛ける農家すらいない時代。道北という寒冷の荒野の中で、一人手製の農具で水田を作り、わずかな種もみで稲作に立ち向かった藤田翁の努力は並々ならぬものがありました。

何度も失敗を繰り返す中、その苦労が報われたのが明治17年（1884年）。収量はわずかでしたが、開拓者とともに「白い飯」を腹いっぱい食べ、喜びをかみしめたと伝えられています。藤田翁の功績をたたえる石碑は翁の13年回忌にあたる明治40年に地元農家の有志によって建てられ、現在も道北の農業史に輝く偉業として伝えられています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

知る　石碑はオロロンラインを走行するドライバーには気付かれにくく、ひっそりと建っていますが、毎年農協青年部による清掃が行われており、その功績に対する住民の畏敬の念が感じられます。

見どころ

昭和43年（1968年）に修復再建された石碑は高さ約3.5m。そこには建立当時に書かれていた漢文の碑文が今も記されています。内容は「道北地方でも米が作れることを証明した苫前地方の農業の先駆者」というもので、藤田翁の農業にかけた思いをたたえています。

ポイント

現在、苫前町ではななつぼし、ゆめぴりか、おぼろづきなどの品種が栽培され、タンパク値が低く、粘りのある良質の米として評価されています。これも不屈の精神で、稲作に挑んだ藤田翁の功績の賜物であることは言うまでもありません。

■基本情報（R7.3）

文化財指定：町指定記念物
指定年月日：昭和55年9月18日
住　　所：苫前郡苫前町字香川

るもい風土資産カード

苦前くま獅子舞

不屈の開拓精神を後世に伝える三毛別羆事件の郷土芸能

一頭のヒグマに10人が殺傷された三毛別羆事件を題材に創作された郷土芸能「苦前くま獅子舞」は日本で唯一、熊をモチーフにした獅子舞として、昭和57年（1982年）、苦前町文化財保護条例に基づく「苦前町無形文化財」第1号に指定されました。また、昭和61年には文化財の保護と保護思想の普及が認められ、「苦前町くま獅子舞保存会」が北海道文化財保護功労賞を受賞しています。

獣害史上、最大の惨事となった三毛別羆事件は大正4年（1915年）12月の事件以降、人々の口から語られることはありませんでしたが、開拓時代の精神を後世に残そうと、昭和48年（1973年）2月に保存会が発足。きっかけは、古丹別神社の氏子関係者が、昭和45年に閉山した羽幌炭砿の一つ、築別炭砿の神社からお輿と獅子頭2つを譲り受け、古丹別の獅子舞を作り出そうとしたもので、郷土に根ざした趣のある獅子舞にしようと、三毛別羆事件が題材に選ばれました。獅子頭をヒグマの頭に変え、笛、太鼓、舞の振り付けすべてを会員たちが創作。週3回、一年で160日余りの練習を重ね、町民手づくりの苦前くま獅子舞が完成しました。第三章からなるストーリーは第一章が「開拓の夜明け」、第二章の「熊騒動」は「犠牲」「凱歌」「熊嵐」で構成され、第三章の「豊かなふるさと」でエンディングを迎えます。

平成９年に町内小中学生による「苦前町くま獅子少年団」が結成されましたが、平成19年に休団され、高齢化や過疎化によって会員が減少し、後継者の確保も困難となり、現在は活動が滞りがちですが、保存会員一同、不屈の開拓精神を後世に伝えるため、価値ある郷土芸能を継承しています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

聴く　笛と太鼓の演奏で神楽風に仕上げられた獅子舞を聴くと、当時の開拓民の姿を表現しようと創意工夫した会員の方々の想いが伝わってきます。

知る　苦前くま獅子舞は昭和54年に北海道教育委員会の留萌管内教育実践表彰を受け、昭和57年に町の無形文化財に指定。その後も北海道文化財保護功労者賞を受賞するなど、多数の表彰を受けています。

見どころ

入植した開拓民の姿や喜び、冬将軍の到来と同時に訪れたクマとの闘い、悲劇の後も希望を捨てずに立ち上がる開拓民の姿が表現された苦前くま獅子舞は、笛と太鼓の演奏で神楽風に仕上げているのが特徴。クマに模した頭や独特の面、舞などすべて町民の創意工夫によるものです。

ポイント

第三章から構成される苦前くま獅子舞のクライマックスは巨熊が住民を殺傷し、さらにヒグマが射殺され、その直後、「羆風（くまかぜ）」という大暴風雪が吹き荒れる第二章の「熊騒動」。笛や太鼓の音色とともに迫力ある舞が見る人の感動を誘っています。

■基本情報（R7. 3）

所　在　地：苫前郡苫前町字古丹別
指定内容：苫前町無形文化財
指定年月日：昭和57年3月1日

るもい風土資産カード

小説「羆嵐」

三毛別羆事件を題材に野生の熊と人間の闘いを描いたドキュメンタリー小説

作家吉村昭氏(1927－2006)の書き下ろし長編小説「羆嵐(くまあらし)」は昭和52年(1977年)5月、新潮社から第一巻が発行されました。地道な資料整理と現地調査、関係者からの聞き取りを重ね、緻密なノンフィクション作家として著名な吉村氏が、大正4年(1915年)12月に起きた三毛別羆事件を見事な筆力で書き下ろした作品で、恐怖におびえる住民と、ただ一人沈着にヒグマと対決する老練な猟師を浮き彫りにした読みごたえのある長編です。初版の帯にはこのような説明が書かれています。

「羆の原野を切開こうとする人間と、その開拓村を襲う一頭の羆。どちらが闖入者(ちんにゅうしゃ)だったのか？日本獣害史上最大の惨事は大正四年十二月に起こった。冬眠の時期を逸した羆がわずか二日間に六人の男女を殺害した(実際は七人)。鮮血に染まる雪、羆をひそめた闇、人骨を契る不気味な音…。恐怖におののく人間の愚かしくも滑稽な姿と、ただ一人沈着に羆と対決する狷介(けんかい)な老猟師の孤絶の姿を迫真の筆に描き出す」

小説「羆嵐」は苫前の開拓の歴史を振り返る意味でも貴重な一冊として話題を集め、昭和55年(1980年)には倉本聰氏によってラジオドラマ化(出演：高倉健、倍賞千恵子ほか)されました。さらに、同年にはテレビドラマ「恐怖！パニック!!人喰熊史上最大の惨劇羆嵐」(降旗康男演出、三國連太郎主演)にもなり、三毛別羆事件は一躍全国的に知られる事件となりました。小説の中にもありますが、「羆嵐」とは瞬間風速40mとも50mとも言われる暴風で、地元では熊を仕留めると、この風が吹くと言われています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

知る 吉村昭氏が小説「羆嵐」の参考にした事件の報告書「獣害史最大の惨劇苫前羆事件」(昭和39年)は当時、旭川営林局農林技官だった木村盛武氏が4年の歳月をかけてまとめたもので、後に「慟哭の谷TheDevil's Valley」として出版され、事件を知る上で重要な資料として今に伝えられています。

見どころ

地道な資料整理と現地調査、関係者からの聞き取りを重ね、見事な筆力で書き下ろされた作品です。

ポイント

ノンフィクション作家として著名な吉村氏が、大正4年(1915年)12月に起きた三毛別羆事件を見事な筆力で書き下ろした作品。史実に基づいた内容は話題を集め、ラジオドラマやテレビドラマ化されました。

■基本情報(R7.3)

『羆嵐』(新潮文庫吉村昭)
人気作家、吉村昭氏が三毛別羆事件を題材に、猛威を振るう自然と人間との闘いを描いたドキュメンタリー長編。

るもい風土資産カード

焼尻島オンコの荘

天然記念物に指定される圧巻の生命力を放つ自然林

日本海に浮かぶ焼尻島は、羽幌港から24kmの沖合いにあります。島の形がクサビ型をした周囲12kmの小島で、イチイの北海道での呼び名であるオンコの島として知られています。国の天然記念物にも指定されている焼尻島の自然林は、この島の中央部からほぼ東半分に広がっています。オンコをはじめ、ミズナラを主体にイタヤカエデ、キハダ、シナ、ホウ、ナナカマド、ハンなど約50種類に及ぶ樹木が確認されており、その中には樹齢300年ともいわれるアカエゾマツの巨木もあります。

焼尻島の森はいわゆる普通の森とは趣を異にしています。一部の樹木は上へと延びずに、上から押しつぶされたように広がっているのです。なかでも、一般的には高さ15mほどに成長するオンコが、ここでは高さわずか1.5mほど。それにもかかわらず、その枝の広がりは直径10mを超えるほどで、地を這うように成長して、独特の風景を作りだしているのです。実際に見るとその大きさに驚かれることでしょう。

こうした樹木は「希有性森林相」と呼ばれています。なぜこのような形になったかは、大陸からの強く激しい季節風や、雪の重みによるものだといわれ、また、森が深いために若木は木漏れ日を探しながら成長したためだともいわれています。そんな奇妙な形をしたオンコが、1 ha約600本もあるのが焼尻島の「オンコの荘」です。「オンコの荘」では自然が持つ圧倒的な力と、樹木の生命力を素直に感じることができます。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる　10mもの枝を広げる老樹である「オンコの荘」。その大きく独特な形をした枝に触れると、自然の持つ圧倒的な力を感じることができるでしょう。

嗅ぐ　普通だと高さ15mほどに成長するオンコが、上から押しつぶされたように枝を横に広げているため、より近くに木々のにおいを嗅ぐことができます。

見どころ

国の天然記念物にも指定されている焼尻島の自然林は、オンコをはじめ約50種類に及ぶ樹木が確認されており、その中には樹齢300年ともいわれるアカエゾマツの巨木もあります。島は野鳥や野生の花の宝庫でもあり、訪れる人を楽しませてくれます。

ポイント

上から押しつぶされたように枝が横に広がった「匍匐型樹形」や風圧に押されたように風下に傾いて成長した「風衡型樹木」など、極めて珍しい姿で生長した樹木が生える焼尻島の森林は「稀有性森林相」と呼ばれる貴重な森を形成しています。

■基本情報（R7.3）

記念物指定：国指定天然記念物（焼尻の自然林）
指定年月日：昭和58年8月30日
住　　所：羽幌町大字焼尻

るもい風土資産カード

ウミガラス（オロロン鳥）

絶滅が危惧されている 天売島でしか見られない海鳥

ウミガラスは、鳴き声が「オロロン」と聞こえたところから「オロロン鳥」とも呼ばれています。北太平洋や北大西洋の亜寒帯海域に広く分布する全長40cmあまりの海鳥で、スタイルがペンギンによく似ていることでも知られています。これまで世界で5～7亜種が確認されていますが、日本で子育てする種類は日本からロシア、ブリティッシュコロンビアにかけて分布しています。

昭和13年（1938年）、『天売島の海鳥群集』が国の天然記念物の指定を受けたときには４万羽以上いたとされ、ほかの島でも繁殖していました。しかし、その後数が激減し、現在日本では天売島だけとなりました。環境省のレッドデータブックでは、ごく近い将来に絶滅の危険性が極めて高い絶滅危惧１Ａ類に指定されています。激減の理由の一つとしては1960年代から70年代にかけて島周辺で盛んに行われたサケ・マス流し網漁業による混獲が指摘されています。ウミガラスは潜水の名手です。そして、水中で両翼を羽ばたかせながら水中飛翔して魚を追います。そのため海鳥の中でもっとも漁網にかかりやすかったのです。

ウミガラスは海に面した断崖の岩棚に群れをつくって集団営巣します。ウミガラスの絶滅をくい止めるため、かつての繁殖岩にウミガラスの鳥模型（デコイ）を設置し、ウミガラスの鳴き声を流して誘因作戦を展開した結果、平成６年（1994年）に初めてデコイ設置場所でウミガラスの繁殖が確認されました。現在、赤岩対岸で見られます。好運に恵まれれば、海上からの観察も可能です。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

知る

ウミガラスは主にコウナゴ（イカナゴの稚魚）、イワシ、ギンポ、カジカ、ニシン、イカなどを捕食します。水中を飛ぶように泳ぐ「水中飛翔」をして魚を獲ります。ウミガラスの求愛行動は一味変わっており、オス・メスが相互に「おじぎ」を行います。

見どころ

天売島最西端にある赤岩展望台からは、海抜48mの垂直岩「赤岩」や多数の海鳥が観察できます。5～7月の繁殖期にはウトウやウミネコなどの子育ての様子を見ることもできます。ウミガラスは赤岩の対岸などが繁殖地で、運が良ければ海上からその姿を見ることができます。

ポイント

鳴き声が「オロロン」と聞こえたところから「オロロン鳥」とも呼ばれ、スタイルがペンギンによく似ています。環境省のレッドデータブックでは、ごく近い将来に絶滅の危険性が極めて高い絶滅危惧１Ａ類に指定されています。

■基本情報（R7.3）

和　　名：ウミガラス
学　　名：Uria aalge
種　　名：チドリ目／ウミスズメ科
寿　　命：20年以上
絶滅指標：絶滅危惧種

るもい風土資産カード

天売島の海鳥繁殖地

約一〇〇万羽の海鳥が乱舞する国内屈指の『海鳥の楽園』

羽幌町の西の沖合約30㎞に浮かぶ周囲約12㎞の小島、天売島。高さ50～百数十メートルに及ぶ断崖絶壁が続く北西海岸は、海鳥の繁殖地として、国の天然記念物に指定されています。最西端にある赤岩や屏風岩、カブト岩などが浮かぶその場所は海鳥コロニー（集団営巣地）と呼ばれる“海鳥の楽園”。天売島の人口約280人（令和3年1月1日現在）に対し、8種、約100万羽の海鳥が繁殖する世界的にも珍しい島として知られています。

天売島で繁殖する海鳥は、国内では絶滅の危機に瀕しているウミガラス（オロロン鳥）や世界的にも希少なケイマフリをはじめ、ウトウ、ウミウ、ウミネコ、ヒメウ、ウミスズメ、オオセグロカモメの8種類。このうち、最も繁殖数が多いのは、地中の穴で子育てをするウトウで、ウミガラス、ヒメウ、ウミスズメの3種は国内では天売島だけで繁殖が確認されています。約80万羽とも言われるウトウが夕暮れ時、一斉に小魚をくわえて帰巣する光景は圧巻で、ウトウウォッチングツアーも行われています。

姿かたちがペンギンに似たウミガラスは海に面した断崖の棚に群れを作って集団営巣する大型の海鳥で、昭和13年（1938年）には約4万羽が生息していましたが、オオセグロカモメなど天敵の増加や流し網漁の混獲などで激減し、平成22年（2010年）にはつがいを含め19羽が確認されるだけになりました。このため、島の人々は島を代表するウミガラス復活のため、大型デコイやミラーボックスを設置するなど回復作戦を行い、国内唯一の繁殖地としての環境を後世に伝えるための努力を続け、令和元年（2019年）には62羽が確認されるまでに回復しています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

知る　4～8月にかけて文字どおり海鳥の楽園となる天売島ですが、6～7月の最盛期（繁殖期）における大群の乱舞は壮観です。これらの海鳥の多くは北方の孤島で繁殖するのが普通で、このように集落や漁港を持つ小島に大集団で繁殖期をつくることは、極めてめずらしいと言われています。

赤岩

見どころ

海鳥の繁殖が観察できるのは4月から8月まで。繁殖の最盛期は6～7月で、大群の乱舞は壮観の一言です。島内の観察スポットは赤岩展望台、観音崎展望台、海鳥観察舎などで、海鳥観察舎では50倍の無料望遠鏡を設置しています。

ポイント

天売島へのアクセスは羽幌港から船で90分（高速船は60分）。周囲約12㎞の島内は徒歩約3時間で周遊できます。レンタサイクルやレンタルバイクも人気があり、人間と自然、海鳥が共生する島の魅力が体感できます。

■基本情報（R7. 3）

文化財指定：天然記念物
指定年月日：昭和13年8月8日

るもい風土資産カード

羽幌町郷土資料館

ニシン漁の時代炭鉱の時代など歴史を伝える資料館

羽幌町郷土資料館は、昭和57年（1982年）、当時閉校となっていた築別中学校校舎を利用して開館しましたが、「市街地から遠い」との理由で、平成元年（1989年）に町内の旧裁判所を改築し、移転オープンしました。羽幌町の開拓の歴史、生活の歴史が一目でわかる資料や町内で発掘された貴重な化石類が、約1700点展示されています。

羽幌町は慶長年間から江戸時代にかけて松前藩の場所制度に組み入れられ、漁場や砂金採集を目的に和人が訪れるようになりました。明治に入ると、漁民や農業移住者も集まりだし、人口が急速に増えていきます。明治20年代からニシン漁が始まり、浜からニシンが消える昭和30年代まで、漁業が羽幌の経済を支えていました。昭和14年（1939年）からは羽幌炭鉱が本格的に操業し、ピーク時には1万人を超える労働者が働く炭鉱のまちに成長しましたが、石炭から石油に転換するエネルギー革命に飲み込まれ、昭和45年（1970年）に閉山してしまいます。「羽幌町郷土資料館」ではこうしたニシン漁の時代、炭鉱の時代などの隆盛を伝える資料の数々を展示しています。

また、佐渡の資産家で明治26年（1893年）に羽幌へ移住した本間家が酒造業を営んだ当時の資料や、貴重な生活用品の一部も展示されています。化石関係では、奥羽幌から産出される白亜紀層の化石「アンモナイト」や世界に数例しかない裸子植物「ハボロハナカセキ」、世界的な新種新属として発表されたイルカの化石「ハボロ・フォカエナトヨシマイ」など、学術的に重要な展示品もあります。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

知る 白亜紀以降の地層が分布する羽幌には、状態の良い化石が多数埋蔵していると言われ、学術的に重要な資料となっています。

見どころ

2階の展示室には町内で採掘されたアンモナイトや動植物の化石が展示されています。「ハボロハナカセキ」は1億年前のものと推定される貴重な花の化石のレプリカで、現物は学術機関に貸し出されていますが、化石に興味がある人には興味深い展示物の一つです。

ポイント

羽幌の地名は、アイヌ語のハブル（柔らかいところ）、ハポロペツ（広大に流れ出る川）によると言われています。旧裁判所を利用した館内は1階と2階に分かれ、希望者は1階の事務室横で、昔の羽幌の映像を視聴することもできます。

■基本情報（R7.3）

住　　所：苫前郡羽幌町南町20番地の1
ＴＥＬ：01646-2-4519
開館期間：5月1日～10月31日
開館時間：10:00～16:00
休 館 日：月曜日（変更される場合があります。）
入 館 料：220円（高校生以下無料）

るもい風土資産カード

北海道海鳥センター

海鳥の神秘的な生態を学ぶ日本で唯一の海鳥専門施設

道の駅「ほっと・はぼろ」に隣接して建つ「北海道海鳥センター」は日本で唯一の海鳥専門施設として、環境省と羽幌町の運営のもと、平成9年(1997年)にオープンしました。天売島を中心とした海鳥類の調査・研究、絶滅危惧種のウミガラス(オロロン鳥)などの護増殖事業を進めるとともに、海鳥を中心とした海洋環境の保全をテーマに普及・啓発(環境教育)事業を行っています。

羽幌町の沖合にある天売島は、日本で唯一のウミガラスとウミスズメの繁殖地です。またウトウは約30万つがいが生息する世界最大の繁殖地でもあり、世界的に見ても人間と海鳥が共存する貴重な海鳥の楽園として、注目を集めています。センター内の「海鳥繁殖地のジオラマ」は、天売島西海岸にある海鳥繁殖地の崖面をリアルに再現したもので、巣やひなを育てている様子を、海鳥の模型と音響・照明演出により観察できるようになっています。「鳥の卵の模型」は天売島で繁殖する8種類の海鳥の卵を、ほぼ実物大・実物の重さで展示しています。また、「海鳥生態の紹介コーナー」はパネルやぬいぐるみ、羽などで海鳥の生態を紹介し、五感を使って、海鳥の神秘的な生態を感じることができます。このほか、「ウミガラス・ケイマフリ・ウトウの生息状況」、「オオウミガラスの悲劇」と題した模型などの展示があり、野鳥や天売島の生き物について調べられる「パソコンコーナー」、自然写真などの「掲示コーナー」、「読書コーナー」などの学習施設も整っています。館内の展示物についてはスタッフが説明してくれますので、気軽に声をかけましょう。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

聴く　常設展のさえずりや(二号店)では、『バードボイスペン』という機械を使ってメニューをタッチするだけで、羽幌町で聞くことのできる旬の鳥の声を聴くことが出来ます。
このさえずりや、本店は東京港野鳥公園ネイチャーセンターに、三号店は春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンターにあります。

触わる　天売島は、世界的に見ても人間と海鳥が共存する貴重な海鳥の楽園と言われています。
神秘的な野鳥の生態に触れることで、自然・野生動物への理解と興味が深まることでしょう。

知る　野鳥や天売島の生き物について調べることができる「パソコンコーナー」、自然写真などの「掲示コーナー」、「読書コーナー」など学習施設が揃っているので、様々なツールで野鳥の生態を学ぶことができます。

見どころ

「海鳥繁殖地のジオラマ」の海鳥の模型は札幌在住の北尾久美子さんの作品で、完成度も高く、道内外からバードカーバーが見学に訪れるほど。また、ウミガラス・ケイマフリ・ウトウの生息状況の海鳥の模型は、日本における鳥類模型製作の第一人者、内山春雄さんの作品です。

ポイント

「さえずりや(二号店)」ののれんが掛かるコーナーでは羽幌町内に生息する旬の鳥たちの生の声を聞くことができます。「バードボイスペン」という機械を使った施設で、本店は東京港野鳥公園(東京都大田区)、三号店は春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター(根室市)にあります。

■基本情報(R7.3)

住　　所：苫前郡羽幌町北6条1丁目11番地
Ｔ Ｅ Ｌ：0164-69-2080
開館時間：(4月～10月) 9:00～17:00
　　(11月～3月) 9:00～16:00
休 館 日：月曜、祝日の翌日、および年末年始
入 館 料：無料

るもい風土資産カード

はぼろバラ園

世界中のバラを観賞できる道北地方最大級のバラ園

国道232号沿いにある道の駅「ほっと・はぼろ」に隣接する「はぼろバラ園」は道北地方最大級のバラ園として、平成10年(1998年)に開園し、5月上旬から10月下旬まで営業しています。園内には北方系のバラを中心に、本州にはなく北海道でも稀なバラの品種である「フェアリープリンス」など、世界のバラ約300種、2000株が植えられ、色とりどりのバラを鑑賞することができます。

開花の最盛期は7月上旬から中旬頃で、約3500㎡の敷地一面が、カラフルに彩られ、辺り一面が豊かな香りに包まれます。園内には、清らかな水の流れが心地良い「せせらぎの丘」、ウエディングセレモニーが開かれるホワイトカラーの「チャペル」が建ち、豪華な気品にあふれています。チャペルでは、「愛の鐘」と称される鐘を鳴らしながら、カップルが愛を誓うセレモニーが恒例となっています。さらにバラ園の前に広がる約7000㎡の「芝生公園」は、ドライブ途中の休憩スポットやはぼろ甘エビまつりなどのイベント会場として利用されるなど、多目的な交流広場として親しまれています。また、温泉と多目的交流プラザ「はぼろ温泉サンセットプラザ」、絶滅のおそれがある野生生物の保護や研究を進める施設「北海道海鳥センター」なども併設しています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる 世界中から集められた色とりどりのバラの観賞、ウェディングセレモニー、ドライブの休憩スポットなど多様な用途に利用される施設です。

嗅ぐ 豪華な雰囲気と芳醇な香りがたちこめる園内にある『せせらぎの丘』には噴水があり、バラの花が最高潮となる夏、きらきらと輝くその躍動は涼しさを運んでくれます。

見どころ

世界のバラ約300種類が咲き誇る「はぼろバラ園」では、ここでしか鑑賞することができないといわれる「フェアリープリンス」や「チェシャー」、「オイティン」などの珍しい品種も揃い、ガーデニングファンやバラの愛好家たちをも魅了しています。

ポイント

北海道には岩見沢市や秩父別町など十数カ所にバラ園がありますが、「はぼろバラ園」は道北最大級の規模を誇ります。

■基本情報(R7.3)

住　　所：苫前郡羽幌町北5条1丁目
数　　量：2,000株、約300種
開園期間：5月上旬～10月下旬
　　(鑑賞期間は、6月中旬～10月下旬)
入 園 料：無料
施設内容：トイレ、売店施設
駐 車 場：無料(100台)

るもい風土資産カード

道の駅 ほっと♡はぼろ

温泉・バラ園・海鳥センターが一度に楽しめる複合施設

道の駅「ほっと♡はぼろ」は国道232号、通称「オロロンライン」の中継点にあり、温泉宿泊施設、バラ園、海鳥センターが集積した複合施設です。メイン施設の多目的交流プラザ「はぼろ温泉サンセットプラザ」は真っ白な豪華客船をイメージした天然温泉リゾートホテルで、大浴場、露天風呂、サウナなどを備えています。温泉の泉質は「ナトリウム塩化物強塩泉」で保温効果が高く、神経痛、関節痛、筋肉痛、婦人病、皮膚病、冷え性などに効能があります。レストランでは新鮮な山海の幸を使用した創作料理や、羽幌特産の甘えびやタコをふんだんに使った料理が味わえます。ホテル７階の展望ラウンジからの眺めは抜群で、天売島、焼尻島など日本海が一望でき、夜はバーラウンジ、パーティールームとしてもくつろげます。

隣接の「はぼろバラ園」では、フェアリープリンスやチェシャー、オイティンなど珍しいバラをはじめ約300種類約2000株が観賞できます。「北海道海鳥センター」には、天売島のウミガラス（オロロン鳥）などの海鳥の生態が分かる展示室や研究施設があります。道の駅のトイレはバラ園の入口に建っており24時間使用できます。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる 多目的交流プラザ「はぼろ温泉サンセットプラザ」は温泉大浴場、露天風呂、サウナが楽しめる天然温泉リゾートホテルです。週末は、多くの家族連れで賑わいます。

味わう 新鮮な食材をふんだんに使った料理が楽しめるレストランや、眺めの良いホテル7階のラウンジがあります。また、羽幌町ご当地グルメとして「羽幌えびタコ焼き餃子」「羽幌えびしおラーメン」も食べることができます。

嗅ぐ 隣接のバラ園では、神経強壮作用、アンチエイジング効果など様々な効能があるとされるバラの香りをかいで、心身ともにリフレッシュできます。

見どころ

ホテル7階の展望ラウンジからの眺めは抜群で、天売島、焼尻島など日本海が一望できます。隣接する「はぼろバラ園」では、約300種類約2000株のバラが鑑賞できます。「北海道海鳥センター」には、天売島の海鳥の生態が分かる展示室や研究施設があります。

ポイント

温泉、バラ園、海鳥センターが集積した道の駅です。メイン施設の天然温泉リゾートホテル「はぼろ温泉サンセットプラザ」には、大浴場、露天風呂、屋外プールなどがあり、レストランでは、羽幌特産の水産物をふんだんに使った料理が味わえます。

■基本情報（R7. 3）

住　　所：苫前郡羽幌町北3条1丁目
ＴＥＬ：0164-62-3800
営業時間：7:00～21:00（売店）
　　10:00～22:00（日帰り入浴）
休 館 日：無休
入 浴 料：大人600円/子供300円（4歳未満無料）

るもい風土資産カード

羽幌炭砿

重要産業として良質な炭を掘り昭和初期に栄華を誇った

羽幌町の歴史を語る上で欠かせないのが羽幌炭鉱です。北海道の北西部は古くから「留萌炭田」と呼ばれる産炭地として知られ、各地に炭鉱がありました。羽幌炭砿もその一つで、羽幌町市街から23kmほど東部の築別川と羽幌川の上流部に、今も炭鉱町の跡が残っています。

羽幌炭砿は北から築別坑、羽幌坑（本坑）、上羽幌坑（二抗）の３鉱区で採炭していました。明治期に鉱脈が発見されたものの輸送手段がないため、炭鉱開発が本格化するのは、昭和に入ってからでした。昭和15年（1940年）、炭鉱と鉄道の両事業を行う会社として、羽幌炭鉱鉄道株式会社が設立され、築別抗を開抗して採炭が始まりました。翌年の昭和16年（1941年）に国鉄羽幌線築別駅～築別炭鉱（約16km）が開通し、その後、羽幌坑、上羽幌坑も相次いで開鉱して戦後復興の原動力として躍進していきました。３地区での年間生産量は、最盛期には100万トンを超え、国内有数の優良炭鉱として脚光を浴びました。また、羽幌の石炭は煙や灰が少なく、「煙突掃除の嫌いなお父さんには羽幌炭」というキャッチフレーズで人気があったといいます。

炭鉱で働く人々の暮らしも豊かで、炭鉱地区の人口は1万人を超えていました。スポーツも盛んで、野球部、男女バレー部、スキー部ジャンプチームは国内トップクラスの実力を誇りました。しかし、昭和30年代後半の石炭から石油へのエネルギー革命以降は、他の炭鉱と同じく斜陽化していき、昭和45年（1970年）閉山に至りました。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

知る　昭和32年に高松宮ご夫妻が羽幌鉱山に来山されました。それを契機に鉱山周辺の住宅や施設がきれいに整備されたり、催し物が行われ、その豪華さは外来者を驚かせるほどだったといいます。
まさに栄華を誇った羽幌鉱山の全盛期でした。

見どころ

当時の炭鉱地区には、巨大な採炭施設や火力発電所、炭鉱住居跡や消防署、診療所、小学校校舎などが廃墟として残っており、敷地内や建物には入れませんが外観から当時の状況をうかがい知ることができます。また、羽幌町郷土資料館では、炭鉱の時代の隆盛を伝える資料の数々を展示しています。

ポイント

全盛期の羽幌炭砿は運動部の盛んな会社で、スキージャンプ部ではオリンピック金メダリストの笠谷幸生の兄、昌生や松井孝などの選手が活躍していました。当時としては札幌の大倉山シャンツェに次ぐ規模のジャンプ台もあり、大会も行われていました。

■基本情報（R7.3）

住　　所：苫前郡羽幌町
開 鉱 年：1940年（昭和15年）
閉 山 年：1970年（昭和45年）

るもい風土資産カード

旧小納家住宅（羽幌町焼尻郷土館）

小納家の栄華を伝える和洋複合の木造住宅

明治33年（1900年）に建てられ、道指定有形文化財に指定されている旧小納家は羽幌町の沖合に浮かぶ焼尻島のフェリーターミナルに近い小高い丘の上にあり、焼尻郷土館として開放されています。洋風建築を取り入れたモダンな木造建築で、木造平屋一部2階建て、建物の面積は土蔵を含め1,569平方メートルという存在感のある建物です。

小納家は石川県塩屋村から焼尻に渡り、ニシン漁のほか、呉服業や雑貨商を営み、郵便・電信局の許可も受けていました。建物は二代目宗吉氏が建てたもので、ヒノキ材や黒檀をふんだんに使い、屋根の亜鉛鉄板はイギリスから輸入したものと伝えられています。水平下見坂や上げ下げ窓、六角の郵便局の入り口は洋風建築を取り入れたもので、正面の1階は和風店舗、2階が洋風という造り。天井の梁は基盤ができるほどの太さの木材が使用されるなど、栄華を極めた時代を思い起こさせるものです。

郷土館として開館したのは羽幌町が建物の修復を行った昭和52年（1977年）で、同町の文化財に指定された後、昭和54年（1979年）に北海道教育委員会によって有形文化財に指定されました。内部はほぼ当時のまま保存され、小納家の生活用具や調度品、郵便・電信の珍しい通信機器も展示され、焼尻島を代表する観光スポットとなっています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる

見事な洋風木造建築の中には、小納家で使用されていた生活用具や調度品、郵便・電信の珍しい通信機器などが展示されています。
当時の生活に触れることができる、貴重な文化財となっています。

知る

中央の表玄関をくぐると仏壇まで、3室の座敷と上段が一直線に続いています。奥の間には座敷構えを備え、砂利敷き土間の土縁（板縁と土間で構成する縁側）を廻し、接客用の格式空間を演出しています。
「のざや」で結ばれた土蔵の漆喰細工や錠の装飾も必見です。

見どころ

羽幌港から焼尻島行きのフェリーに乗船し、焼尻港に近づくと、小高い丘の上に矛状の屋根飾りを付けた大きな寄棟屋根が見えてきます。上陸後は、明治時代にタイムスリップするような感覚で、旧小納家の資料館を見学しましょう。

ポイント

街路に面した母屋は洋風の2階建てで、郵便局や主玄関、店舗、電信局、客用宿泊室があり、局員宿泊室や居間、仏間へと続きます。天井の広々とした空間は初期洋風建築を知る上で興味深く、土蔵の漆喰細工や錠の装飾も豪華です。

■基本情報（R7.3）

文化財指定：北海道指定有形文化財
指定年月日：昭和54年11月27日
住　　所：苫前郡羽幌町大字焼尻字東浜183番地
ＴＥＬ：01648-2-3392（開館期間中）
　　0164-62-1178（羽幌町教育委員会）
開館期間：5月1日～9月30日
開館時間：9:00～16:00
休 館 日：期間中無休
入 館 料：大人 330円　高校生以下無料
　　15名以上の団体は1名 260円

るもい風土資産カード

金比羅岬

鳥居と夕景の美しさで知られる絶好の記念撮影スポット

豊岬（とよさき）漁港の南、公園全体が道の駅に指定されている「みさき台公園」の先端にある「金比羅岬」は、海の中に建っている金毘羅神社の鳥居と夕景の美しさで知られています。鳥居に重なるように落ちる夕陽はまさに絶景で、記念撮影の人気ポイントとなっています。

「金比羅岬」と「金毘羅神社」の由来については諸説ありますが、「北海道の口碑伝説」には、それまでの「日本海岸初山別村字イナウシナイ風連岬」が「金比羅岬」と呼ばれるようになったことについて、「今から40～50年前のある日、この風連岬に一枚の金毘羅神社の御札が漂着し、それを奥瀬酉松という漁夫が発見したことによる」と記されています。奥瀬酉松はこのままではもったいないと、あらためて御札を海に流しましたが、翌朝になると再び同じ場所に漂着したといいます。こんなことが3、4回繰り返されたので、何かこの地に不思議な因縁があるに違いないと思い、付近の岩の上に祀りました。元々この辺りは波が高いところで、幾度となく船が遭難していましたが、この金毘羅様を祀ってからはほとんど事故がなくなったので、いつしか風連岬を「金比羅岬」と呼ぶようになったそうです。

大正15年（1926年）には奥瀬酉松らが金毘羅宮発起人となり御堂を改築。昭和28年（1953年）にもコンクリート造りの御堂などを新築しました。これらの経費は村民の寄付金によってまかなわれました。神社に感謝するお祭りも毎年夏に開催され、さまざまな行事が岬周辺で行われています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

聴く みさき台公園には様々な施設があります。中でもキャンプ場は人気があり、打ち寄せる波の音とともに、見事な夕日を眺めながらのキャンプは格別です。

味わう 日本海を一望できるレストラン「北極星」では、めずらしい「ふぐだしスープ」を使用した麺類や軽食などを提供しており、道の駅「☆ロマン街道しょさんべつ」では特産品も販売されています。

知る 星がきれいなこの岬には天文台が設けられ、気軽に天体観測が楽しめます。星に名前をつける「マイスターズシステム」もあり、天体望遠鏡を通して宇宙の神秘を知ることができるでしょう。

金比羅神社

見どころ

国道232号の海側に広がる約20万㎡のみさき台公園は、公園全体が道の駅「☆ロマン街道しょさんべつ」に登録されています。この公園から眺める金比羅岬の夕景は美しく、水平線の向こうには利尻島や天売、焼尻島の姿を見ることもできます。

ポイント

金比羅岬はその昔、風連岬と呼ばれていましたが、この岬に流れ着いた金比羅様の御礼を漁師が祀った後、この付近での海難事故が減ったことから「金比羅岬」と呼ばれるようになりました。現在も毎年夏には金比羅様に感謝する盛大な祭典を行っています。

■基本情報（R7.3）

問い合わせ：初山別村役場
ＴＥＬ：0164-67-2211

るもい風土資産カード

ひがしやま湖（有明ダム）

エゾヤマザクラの桜並木が続く水と緑の憩いの場

日本海沿いを走る国道232号の初山別村有明市街地から道道708号を山に向かって約10㎞進むと、辺り一面緑に包まれたひがしやま湖が見えてきます。ひがしやま湖は昭和46年（1971年）12月に完成した有明ダムによってできた人造湖で、流域面積は19.5平方キロメートル。昭和42年（1967年）に制定された補助治水ダム制度を利用した北海道で初めてのダムで、茂築別川（もちくべつがわ）を利用した治水ダムとして、地域住民の暮らしを支えています。

湖畔には自然豊かな公園「東山樹園」が整備され、バーベキューコーナーやキャンプができるスペースもあり、春には桜やつつじ、秋には湖面に映る紅葉の景色が楽しめます。

ひがしやま湖へ向かう道路は「桜ロード」と名付けられ、道道708号（道道有明天塩停車場線）7線沢から有明ダムに至る約7㎞の沿線に約1800本のエゾヤマザクラが植えられています。高さ4㎞ほどに成長したこの桜は平成4年（1992年）から地域住民の手によって整備されたもので、毎年5月中旬にはピンク色に染まる桜並木に多くの見物客が集まります。桜ロードの桜は約2週間にわたって楽しめる初山別村の新名所となっています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

聴く　四季折々に様々な表情を見せてくれる有明ダム・東山樹園では、様々な鳥のさえずりが耳を楽しませてくれます。

触わる　ひがしやま湖の周辺は緑一色の抜群の自然環境を誇ります。有明ダムへ向かう道の両側には桜の木が植えられており、一斉に咲き誇る姿は壮観です。静かな湖面、辺り一面の緑。森林浴を楽しむのがオススメです。

見どころ

桜ロードに植えられているのは、北海道はおなじみのエゾヤマザクラ。平成4年（1992年）から10年をかけて植樹されたもので、道北を代表する桜の名所となるよう、毎年秋にはせん定などの手入れが行われています。

ポイント

ひがしやま湖の名称は昭和60年（1985年）9月に初山別村の村民の公募によって決まったもので、この地区が東山地区と呼ばれていたことに由来します。静かな湖畔は、森林浴の絶好のポイントで、四季を通してさまざまな景観を楽しむことができます。

■基本情報（R7.3）

水　　系：茂築別川水系茂築別川
問い合わせ：留萌建設管理部地域調整課
TEL 0164-42-8352
【有明桜ロード】
住　　所：苫前郡初山別村字有明
問い合わせ：初山別村観光協会
TEL 0164-67-2211

るもい風土資産カード

しょさんべつ天文台

月着陸宇宙船をモデルにした日本最北の天文台

環境庁が主催する「星空コンテスト」で、美しい星空のひとつに選ばれた初山別村。平成元年(1989年)にオープンした「しょさんべつ天文台」は日本最北の天文台で、通常観測のほか教育目的で一般公開されています。日本海を見下ろす美しい自然に囲まれた「みさき台公園」にあり、アメリカのアポロ計画で使われた月着陸船をモデルにした、ユニークな外観が目印。前年2月に開催された「青年サミット・イン留萌」において、広域的な文化施設の建設が提案され、各関係機関による検討の結果、留萌地方の活性化、子ども達の科学する心を育てる学習の場及び道内天文愛好者の活動の場として初山別村に建設することが決定されたものです。

ドームは直径6mの鉄骨造り。ドームの回転やスリットの開閉は電動式で360度回転します。誰でも気軽に星空が楽しめるよう、館内には口径65cmの望遠鏡をはじめ、口径20cm、7.6cmの望遠鏡が備えられ、夜間は天体観測のプログラムが用意されています。また、日中でも天候が良ければ、太陽の表面の観察や条件次第では3等星くらいまでの星を観望することができます。

特徴のひとつである「マイ・スターズ・システム」は、約26万個あるといわれている5.5等星以上の名もない星に、好きな名前などが付けられる独自のシステム。結婚記念、誕生日など個々の思い出にと名付けられた星の登録数は、令和2年4月で1万件に達しています。登録した人には登録書やIDプレート、星図などが送付され、星の名前は永久に保管されます。TVドラマの舞台ともなり、一躍有名スポットになりました。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる　65cm反射式天体望遠鏡は15等級までの星を見ることが可能です。倍率は対象の天体や大気の状態によって使い分けられます。肉眼で見るだけでなく写真を撮影することや、ビデオカメラを取り付けて映像撮影することもできます。実際に操作してみましょう。

知る　人気ドラマ「白線流し」の舞台になり、町おこしにも一役買ったしょさんべつ天文台。
マイ・スターズ・システムにはドラマの登場人物の7人の名前も登録してあるので、探してみるのも良いかもしれません。

見どころ

月着陸船をモデルにした鉄筋3階建て、直径6mのドーム型の天文台には肉眼の8600倍の集光力を誇る65cm反射式天体望遠鏡も備えられ、国内はもちろん、中国、韓国、米国など海外からもたくさんの天体愛好家が訪れています。

ポイント

「マイ・スターズ・システム」の登録した人に送られる登録書は音楽CDになっています。IDプレートを持参して来館すると、入館料が無料になるほか、自分で名前をつけた星を天文台の専門員がナビゲートしてくれます。

■基本情報(R7.3)

住　　所：苫前郡初山別村字豊岬130-1 みさき台公園内
ＴＥＬ：0164-67-2539
開館時間：14:00～21:00(4月～9月30日)
　　12:00～19:00(10月～3月31日)
　　(水曜日は10:00～17:00)
休 館 日：毎週火曜日、水曜日
　　冬季休館12月1日から2月末日まで
入 館 料：高校生以上200円/小・中学生100円/幼児無料

るもい風土資産カード

しょさんべつ温泉・岬の湯

ゆったりとした空間と自慢の温泉で心身ともにリフレッシュ

国道232号に面した日本海沿いの道の駅「☆ロマン街道しょさんべつ」の「みさき台公園」内にある公共宿泊温泉施設で、平成13年(2001年)12月、温泉設備などを拡張し、リニューアルオープンしました。大浴場には主浴槽以外に、気泡風呂(ジャグジー)、打たせ湯、水風呂、サウナ、家族風呂があり、日帰り入浴にも対応しています。露天風呂から見える日本海のパノラマは絶景そのもので、眼下には豊岬漁港が広がりシンボルの赤灯台が灯る様子も旅情を誘う風景です。遠くには夫婦島の天売島・焼尻島、洋上にくっきりと稜線を見せる利尻富士が眺望できるのも魅力となっています。

温泉の泉質は、塩分を含んだナトリウム-塩化物泉(高張性弱アルカリ性温泉)で、神経痛、慢性消化器病、五十肩、慢性湿疹、リウマチ性疾患、皮膚病、腰痛などの効能があります。ほんのりとした黄色みを帯びながら、透明感のあるお湯は特有の臭素臭が心地よく、温泉ファンにはたまらない泉質として人気を集めています。

「みさき台公園」内にはTVドラマのロケ地となった「しょさんべつ天文台」や海水浴場もあり、夏の海水浴や夜の星空観測で冷えた体を温めるのもいいでしょう。露天風呂に浸かりながら眺める星空も格別の美しさです。宿泊施設はバリアフリー設計で、車椅子でも安心して利用できます。地元の素材を使った料理も自慢で、特産のフグ料理やタコ料理が名物です。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる 家族風呂は、浴室・浴槽の手すりや段差等に配慮したバリアフリー設計で、専用の車椅子も備え付けられているので、介護の必要な方も安心してお湯に浸かる事ができます。4～5名まで入れる大きめの浴室と2つの洗い場があり、窓からは日本海を一望できます。

味わう 岬センターの中にあるレストラン花みさきでは、日本海で獲れた海の幸を味わうことができます。初山別沖で獲れたふぐからだしをとったこだわりのふぐそば、初山別天然真ふぐの照り焼き丼などがあります。

嗅ぐ 宿泊する際の食事は充実しており、朝食は潮風の香り漂う岬の風景を楽しみながら、落ち着いた雰囲気の中で食べることができます。
夕食は通常のコースの他、オプションとして2つの夕食プランから選ぶことができ、どのコースも初山別前浜で獲れた新鮮な海の幸を堪能することができます。

見どころ

大浴場や露天風呂から眺める景色は実際に入浴した人だけが体感できる特別な風景です。水平線に浮かぶ利尻富士が秋には黄金色の夕陽と重なり、冬には冠雪した姿を望むことができるなど、四季を通して表情豊かな景色を楽しませてくれます。

ポイント

星空が美しいことで知られる初山別村らしく、新館の客室は星座の名前がつけられています。ルームキーのキーホルダーもかわいらしい星型で、ロマンチックな気分に浸ることができます。

■基本情報(R7.3)

住　　所：苫前郡初山別村豊岬153
T E L：0164-67-2031(岬センター)
営業時間：11:00～21:30(日帰り入浴)
休 館 日：無休
入 浴 料：大人500円/子供250円
　　家族風呂(1時間)1,000円(要予約)

るもい風土資産カード

みさき台公園

日本海が一望できる多彩なテントサイトのキャンプ場

国道232号の海側に広がる「みさき台公園」は公園全体が道の駅「☆ロマン街道しょさんべつ」に指定されています。広さは約20万平方メートル。敷地内には温泉宿泊施設「岬センター・岬の湯」やしょさんべつ天文台、パークゴルフ場やゴーカート場が整備され、ロケーションに恵まれたキャンプ場は家族連れからベテランのキャンパーまで、多くのアウトドアファンで賑わいます。

キャンプ場にはログハウス型のバンガロー（利用期間は5月1日～10月31日）が9棟あり、バーベキュー用の炉や駐車スペース、炊事場や水洗トイレなどが完備されています。芝生のフリーサイト（利用期間は4月下旬～10月下旬）は天文台横とレストラン北極星の下にあり、いずれも眼下に豊岬漁港、その奥に日本海が広がる眺めの良さが評判です。

平成16年（2004年）には新たにオートキャンプ場が開設され、キャンピングカーが駐車できるキャンピングカーサイト3サイトと、駐車スペースの横にテントが設営できるスタンダードカーサイト30サイトが6月中旬から9月下旬まで利用できます。キャンピングカーサイトは15Aの電源と炊事台が完備され、センターハウスには水洗トイレや自動販売機も用意されています。

キャンプ場から豊岬海水浴場へは連絡通路（階段）が整備され、海水浴の後は温泉で汗を流し、夜は星空観察という楽しみが詰まったキャンプ場です。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる

みさき台公園キャンプ場の魅力は、なんといっても多彩なアクティビティにあります。
夕時にはサイトから日本海に落ちる美しい夕陽を眺めることができ、併設する天文台では天体観測が楽しめます。
キャンプ場と隣接する岬センター前にはゴーカートやパークゴルフ場があり、家族で楽しめるのも嬉しいところ。汗をかいたら岬センター内のお風呂がオススメ。浴場から眺める日本海と利尻富士が絶景です。

公園内のバンガロー

見どころ

みさき台公園キャンプ場は日本海が一望できるロケーションの良さが魅力で、晴れた日には天売・焼尻島や利尻富士まで見渡すことができます。また、夕日と星空の美しさも初山別ならでは。ロマンチックな気分に浸ることができます。

ポイント

キャンプ場のそばに建つしょさんべつ天文台は平成8年（1996年）に放送されたドラマ「白線流し」にも登場し、一躍話題となりました。オートキャンプ場は天文台の天体観察のため、必要最小限の照明になっているため、ランタンや懐中電灯を持参しましょう。

■基本情報（R7. 3）

住　　所：苫前郡初山別村字豊岬
Ｔ　Ｅ　Ｌ：バンガロー予約0164-67-2031
　　ｵｰﾄｷｬﾝﾌﾟ場予約0164-67-2077
開設期間：5月初旬～10月末
使　用　料：サイト/無料、
　　ログハウス型バンガロー
　　5, 200円～（9棟/4～5人用）
　　オートキャンプ場/スタンダードカーサイト
　　3, 500円/電源付き、
　　3, 000円/電源なし（炊事台付き30区画）
　　キャンピングカーサイト
　　3, 500円（電源15A、炊事台付き3区画）
　　フリーサイト500円（駐車場24台）
施設･設備：管理棟（岬センター）、北極星内に売店･食堂、炊事場（炉付き）、水洗トイレ

るもい風土資産カード

最北の木下りんご園

1本に4種のリンゴが実る日本最北のりんご園

初山別村豊岬市街から約8㎞進んだ山あいの明里地区にある「木下りんご園」は、日本最北のりんご園。リンゴをはじめ、ナシとプルーンを育てているのは初代木下善平さんから数えて3代目にあたる木下喜代次さん、幸代子夫妻。開拓民として明治37年（1904年）頃に入植した善平さんが、荒れた農地の開拓に苦慮していたところ、ある僧侶に「石ころの土地はリンゴが生る」と教えられたことが、リンゴ農家となるきっかけとなりました。一時は周辺で10戸ほどがリンゴを作っていましたが、収入のいい水田に切り替える農家が相次ぎ、明里地区でリンゴ農家は木下家だけになってしまいました。2代目の二三次さんは当時、1ヘクタールだったリンゴ畑を2倍に広げ、水耕栽培と合わせて営農していましたが、昭和61年（1986年）に3代目へと引き継がれています。

リンゴはレッドゴールド、ふじ、つがる、スターキングなど10種類を栽培し、接ぎ木によって、1本に4種類の実が生る珍しいリンゴの木や1本に2種類の実が生るナシの木もあり、たわわに実ったリンゴを求め、リンゴ狩りに訪れる人も少なくありません。ナシは長十郎、千両、日面紅（ひめんこう）など、プルーンはスタンレー、シュガーなどの品種で、プルーンはジャムに加工するのもお勧めです。

一時は1,000本を超えるリンゴの木があった木下りんご園も、木の老化や虫食いによる除伐、台風による倒木などの被害を受け、今では100本ほどに減ってしまいましたが、中には樹齢80年を数える木も毎年、赤い実を付けています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

味わう　木下りんご園ではりんごの他にも、季節によってさくらんぼ、なし、プルーンなども味わうことができます。

嗅ぐ　5～6月のリンゴの花が咲く時期には、農園内の木々にも可愛らしく花が咲き、爽やかで甘酸っぱい香りを嗅ぐことができるかも知れません。

知る　木下りんご園は北海道で推進している「ふれあいファーム」制度に登録しています。
農作業体験や農業者の方々との語らいを通して、日頃接する機会の少ない農場の実際に触れ、農村の魅力を感じてもらうための交流拠点としての役割を果たすべく、農業・農村についてのPRや啓発活動に取り組んでいます。

見どころ

木下りんご園の営業期間は例年7月～10月。リンゴやナシ狩りは9月中旬から始まり、北限のリンゴは甘く、ジューシーで、直売や地方発送も行っています。

ポイント

平成22年（2010年）に開設100周年を迎えた木下りんご園は明治43年（1910年）に初代、木下善平さんがリンゴを植え、代々、接ぎ木をしながら大切にリンゴの木を守っています。1本に数種類のリンゴがなるのは先祖代々の思いが実を結ぶからにほかなりません。

■基本情報（R7.3）

住　　所：苫前郡初山別村字明里
TEL/FAX：0164-67-2542

るもい風土資産カード

有明獅子舞

富山県入善町から伝わった獅子と天狗の迫力ある舞

初山別村茂築別（現在の有明地区）に伝えられ、昭和60年（1985年）には村の無形文化財（民族芸能）第一号に指定された。「有明獅子舞」は富山県下新川郡入善町から集団入植した中の一人、上田勇左エ門氏が、郷里の獅子舞を継承するために伝えられたと言われています。現在も大切に保存されている獅子一式や天狗面、衣装などは明治36年（1903年）に一度郷里を訪れた上田氏が現地で購入して持ち帰ったもので、明治39年（1906年）9月に部落の若者を集めて組織が作られ、以来100年を超える長きにわたって、伝承されています。

有明獅子舞は「獅子起こし」「傘踊り」「長棒踊り」「大天狗舞」など11種類の踊りで構成され、獅子のいびきに驚いた天狗が立ち木から飛び降り、獅子と格闘する場面が特徴です。手踊りもあり、一連の踊りで2時間半の構成。毎年9月14日に行われる有明八幡神社宵宮祭に奉納され、収穫の秋の祈願と悪魔払いの祈祷が行われています。

開墾のかたわら、上田氏が中心となり、踊りや笛の習得鍛錬に励んだ獅子舞のメンバーは当初の若手から青年団へ受け継がれ、戦時中は継承が困難だった時期もありましたが、昭和40年（1965年）には有明獅子舞保存会が発足。現在も地区ぐるみで伝承・保存に努めています。平成15年（2003年）には伝承100年を記念して、保存会のメンバーが初めて富山県入善町上田地区を訪問し、同地区の神社境内で本家の獅子舞との競演を果たしています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

知る

毎年、行われていた有明神社祭の宵宮祭では、有明小の児童と大人たちが村無形文化財の「有明獅子舞」を披露します。児童たちは神社境内で、提灯の明かりの下、小天狗舞や草刈舞を披露し、元気で軽快な動きに会場から大きな拍手がわきます。また、同保存会のメンバーが豊作を祝う十人舞、大天狗や小天狗による八人舞、ユニークな手踊りなどを演じ、会場をわかせました。平成21年の有明小学校の廃校や保存会メンバーの高齢化などにより、継承者追従が難しくなり、この年を最後に活動を休止することとなりましたが、村の地域おこし協力隊が中心となり、有明獅子舞有志の会を平成26年（2014年）に発足させ、有明獅子舞を復活させました。

見どころ

有明獅子舞には11種類の踊りがあり、「獅子起こし」は天狗が飛び降りた音に驚いた獅子が目を覚まし、にらみ合って動き回るという筋書きです。他にも色鮮やかな衣装の小天狗が子供の遊びを表現した「小天狗舞」、農作業が題材の「草刈舞」などがあります。

ポイント

有明獅子舞は昭和44年（1969年）9月、秋田県の秋田市民会館で開かれた第11回北海道・東北ブロック民族芸能大会に北海道代表として出場しました。文化的遺産としての評価は高く、昭和60年（1985年）には初山別村の無形文化財に指定されています。

■基本情報（R7.3）

所在地：苫前郡初山別村有明　有明八幡神社境内
文化財指定：初山別村無形文化財
指定年月日：昭和60年7月24日
問い合わせ：初山別村教育委員会
TEL：0164-67-2136

るもい風土資産カード

しょさんべつ海牛の化石

ほぼ完全な形で復元された日本で最も古い海牛類化石

昭和42年(1967年)に村内・明里で発見された「しょさんべつ海牛」の化石。その一部は発見後、村内の豊岬小学校に保管されていました。平成2年(1990年)、この化石が大変貴重なものであることが分かり、5年間かけて化石の取り出しと復元作業が行われました。ほぼ完全な形で復元されたものとしては、日本で最も古い海牛類化石とされています。

ショサンベツカイギュウは1200万年前に生息していた海牛です。海牛は海草を主食とする水棲(せい)ほ乳動物でジュゴンやマナティーの仲間です。この海牛は出産直前だったようで、体内の赤ちゃん海牛の化石と一緒に発見されました。妊娠中の海牛化石は世界初の貴重な発見です。日本ではこれまで30点ほどの海牛類化石が発見されていますが、そのほとんどは冷たい海を好む海牛でした。ところが、ショサンベツカイギュウは、一緒に発見された珪藻(けいそう)化石や花粉化石などの分析によって、暖かな時代の暖かな海に棲んだ海牛であることが分かりました。また、頭の特徴からアメリカで発見される海牛化石よりヨーロッパで発見される海牛に近いことも分かりました。つまり、ヨーロッパから暖かな海を伝わって北海道までやってきたということになります。

当時、北海道周辺もショサンベツカイギュウたちが棲みやすい暖かな環境だったのかもしれません。この海牛のレプリカが、初山別役場に近い「自然交流センター」に展示されています。親子が寄り添う姿は、ほほ笑ましさとともに見学者を太古のロマンへといざなってくれます。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

知る

海牛は、約5000万年前にほ乳類の有蹄類の仲間が、外敵から逃れるなどの理由で水中生活に適応したものと考えられています。
海草などを食べる草食動物で、現在は暖かい海に棲むジュゴン1種とマナティー3種しかいません。陸上動物では、象に近縁とされています。

見どころ

ショサンベツカイギュウのレプリカは、初山別役場に近い自然交流センターに展示されています(館内での催事がない場合は土、日、祝日休館)。樹脂製のレプリカは母親が長さ5m、幅1.5m、赤ちゃんは長さ1.6m、幅0.4mのサイズで、迫力ある姿を見せてくれます。

ポイント

1200万年前に生息していた海牛の化石が、ほぼ完全な形で復元されたものとしては、日本でもっとも古いものです。体内の赤ちゃん海牛の石も一緒に発見されましたが、妊娠中の海牛化石は世界初の貴重な発見です。

■基本情報(R7.3)

地質年代：1200万年前
発 見 年：1967年
発見地域：苫前郡初山別村明里

【初山別村自然交流センター】※レプリカ所在地
住　　所：苫前郡初山別村字初山別155番地1
T E L：0164-67-2136
開館時間：9:00～22:00
休 館 日：毎月第2・第4日曜日、年末年始

るもい風土資産カード

ルベシの大山松

アイヌの伝説が宿る樹齢八〇〇年のイチイの巨木

遠別町市街地から約12㎞離れた中央地区の民有地に、樹齢800年と推定されるイチイ（オンコ）の巨木が立っています。樹高約19m、幹の周囲は最も太いところで約3.2m、樹冠幅（枝）は南北10m、東西10.3mにまで成長した巨木で、昭和59年（1984年）には遠別町教育委員会が町の文化財として保護することを決めています。

ルベシの大山松（だいせんまつ）と命名されたこのイチイの木は、山で木を伐採する杣人（そまびと）と呼ばれた職人達が、大正時代から冬山伐採の安全祈願のために立ち寄った神木で、山の神である大山神（女神）が祭られています。ルベシとはこの地区の通称で、稲作地帯として発展した遠別川沿いの北側の地域がルベシと呼ばれていたことから、ルベシの大山松と呼ばれるようになりました。

このルベシの大山松は遠別がアイヌ語で「ウエン・ベツ」と呼ばれていた江戸後期以降の時代に一つの伝説が残されています。「ウエン・ベツ」とはウエン=悪い、ベツ=川という意味。流域の地形が変わるほどの暴れ川の河口にアイヌのコタン（集落）があり、ウエン・ベツアイヌは天塩や上川の人々との交流にウエン・ベツ上流を利用し、通称ルベシを主道としていました。ある時、蝦夷地全域で天然痘が流行し、ウエン・ベツコタンでも発病者が出たため、コタンの酋長は天塩アイヌに薬草の譲渡を請うため、若者ポロカセを使者に命じます。決死の覚悟で出発したポロカセの恋人ジュカイはルベシの丘に立つイチイの木にアツシ織の衣を吊して、恋人の無事を祈り続けました。その願いが通じ、ポロカセは薬草を持ち帰り、二人はその後、晴れて夫婦になったそうです。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

知る 昔のきこりの大切な守り神が祀られた由緒ある木。その昔、木こりたちは冬山伐採を行う前に必ずこの木に立ち寄り、山の神である「大山神」（女の神様）に冬山造材事業の安全を祈願したと言われています。

見どころ

高さ20m近くにまで達するルベシの大山松は、イチイならではの円錐型の樹形を保ち、どっしりとした迫力ある姿を見せてくれます。その大きさも幹の太さもまさに巨木。由緒ある木として、町のシンボル的存在となっています。

ポイント

ウエン・ベツアイヌの伝説に登場する勇敢なポロカセと健気なジュカイは、ルベシの大山松を「カムイ（神）の宿る木」として大切に守り続けたそうです。

■基本情報（R7.3）

住　　所：天塩郡遠別町字中央545-1
問い合わせ：遠別町教育委員会
Ｔ　Ｅ　Ｌ：01632-7-2353

るもい風土資産カード

遠別町郷土資料館

閉校した木造校舎を利用した遠別の開拓の歴史を伝える資料館

遠別町の開拓の歴史や生活、農林漁業で栄えた町の様子などを紹介する郷土資料館は、昭和57年（1982年）3月に閉校した旧丸松小学校の校舎を改修して、昭和59年（1984年）9月に開設されました。校舎は昭和12年（1937年）に建てられた木造平屋で、延べ床面積は約406平方メートル。建物そのものが貴重な郷土資料となっています。

館内には展示室、収蔵庫、事務室などがあり、展示室は「えんべつの開拓と歴史」「えんべつの交通・通信」「えんべつの開拓と産業（農・林・漁業）」「えんべつの自然」「えんべつの防災」などのコーナーに分かれています。「えんべつの開拓と歴史」コーナーに展示されている「おがみ小屋」と呼ばれる開拓小屋は、明治30年（1897年）に入植した愛知県からの集団が建てた笹葺小屋を再現したもので、風雪に耐え、苦難を乗り越えてきた開拓者の暮らしが実感できます。

また、「えんべつの交通・通信」コーナーでは旧国鉄羽幌線の開通から廃止までの歴史を紹介。主力産業だった農林漁業の用具や町内に生息する動物のはく製なども展示されているほか、明治44年（1911年）に発足した私設消防組の用具も展示しています。

遠別町は明治30年（1897年）に開墾が始まり、平成9年（1997年）に開基100年を迎えました。約6000点の歴史資料が展示された資料館は、遠別町の歴史そのものであり、開拓時代の先人の苦労をしのぶ貴重な施設となっています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる　昭和12年建設の旧丸松小学校校舎を改修して開設されており、遠別町の開拓と生活、そして産業（農・林・漁業）で栄えた町の様子が事細かに展示されています。建物からも当時の風情に触れることができるでしょう。

知る　遠別町は、日本海と雄大な山野に抱かれた風光明媚な町です。この豊かな大自然に囲まれた本町に生息する動物、町の主産業として大きなウエイトを占めている農・林・漁業などについて展示しています。

見どころ

昭和57年（1982年）に廃校となった旧丸松小学校は当時、町内の学校で一番古い校舎で、その歴史的価値の高さから、資料館として利用されることになりました。木造平屋の趣のある建物の外観から内部まですべてが貴重な展示物です。

ポイント

地元住民と行政が共同で作った手づくりの資料館です。
大きな見所としては、地元ボランティアの手により再現された開拓小屋（おがみ小屋）があります。これは、本州からの開拓者が入植した際に建てられた笹葺小屋を再現したものです。

■基本情報（R7.3）

住　　所：天塩郡遠別町字丸松163番地
開館期間：5月1日～10月31日
　　（職員が常駐していませんので、利用の際は見学の3日前までに下記の問い合わせ先まで連絡して下さい。）
開館時間：9:00～17:00
入 館 料：無料
問い合わせ：遠別町教育委員会
Ｔ　Ｅ　Ｌ：01632-7-2353

るもい風土資産カード

旭温泉

人から人へと伝えられてきた湯治に最適な「湯の地」。

山あいの一軒宿として、秘湯の雰囲気を漂わせる旭温泉。日本海オロロンラインの留萌と稚内の中間地点に位置する遠別町旭の国道232号沿いに「旭温泉」の看板があり、そこから６kmほど東の山間部に、木造２階建ての建物がひっそりとたたずんでいます。建物の外観には地元産出のトドマツ材を使用、えび茶色のトタン屋根も印象的です。

旭温泉は、昭和47年（1972年）に北海道立地下資源調査所が発掘調査した結果、地下約301mのところから天然ガスと温泉（25度～34度）が噴出して開業しました。道北では珍しい間欠泉で、温泉水から分離して得た天然ガスで浴用泉を加熱しているユニークな温泉です。浴場棟は平成17年にリニューアルし、古びた外観とは対照的に清潔感あふれる近代的な造りとなっています。浴場は和風風呂と洋風風呂に分かれていて、日替わりで男湯と女湯に入れ替わりとなっています。両浴場にサウナと露天風呂があり、山間の自然を満喫しながら温泉を楽しむことができます。

浴室にはオレンジ色をした鉄泉の旭の湯と、黒褐色の富士見の湯の、泉質の異なる2種類の浴槽があり、旭の湯はナトリウム－炭酸水素塩・塩化物泉（低張性中性高温泉）で、富士見の湯はナトリウム－炭酸水素塩・塩化物泉（低張性アルカリ性高温泉）となっており、さまざまな効能があることでも知られています。

宿泊施設もあり、湯治にも最適です。食事は、地元産の旬の食材を使った料理が提供されます。四季折々の表情で心を和ませてくれる周囲の自然も魅力です。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる　泉質の効能は実に多彩で、地元住民はもとより、管内外から多くの人々が訪れます。

味わう　食事は地元産の旬の食材をたっぷり使った料理を堪能できます。

嗅ぐ　自然あふれる環境で自然の息吹を感じながらリラックスできる温泉。山間の小さな湯宿ならではの魅力にあふれています。

見どころ

旭温泉周辺は自然の宝庫。春には、雪解けと同時にフキノトウやミズバショウが芽をふき、５月には桜、６月には国道沿いの海岸線にエゾカンゾウやヒョウギアヤメが咲きます。秋には、ヤマブドウやコクワの実がなり、紅葉が見られるなど、四季折々の表情で訪れる人の目を楽しませてくれます。

ポイント

道北では珍しい間欠泉で、温泉水から分離して得た天然ガスで浴用泉を加熱しています。オレンジ色をした鉄泉の旭の湯と、黒褐色の富士見の湯があります。それぞれ、多彩な効能があり、効能を確認しながら湯船のはしごが楽しめます。

■基本情報（R7.3）

住　　所：天塩郡遠別町字旭294番地2
ＴＥＬ：01632-7-3927
営業時間：9:00～21:00（20:30最終受付）
休 館 日：年中無休
　　（施設点検等により休館する場合があります。）
入 浴 料：大人600円／子供250円
宿　　泊：1泊2食付7,200円～

るもい風土資産カード

金浦原生花園

国道沿いの海岸を黄色いエゾカンゾウが埋め尽くす

国道232号と日本海の海岸沿いに広がる金浦（かなうら）原生花園は、エゾカンゾウを中心とした固有植物が群生する天然のお花畑。昭和55年（1980年）に原生花園として町が指定しました。

６月～７月にかけては約５万8000㎡の広さに、２万5000本から３万本といわれるエゾカンゾウの花が咲き誇り、黄色いジュータンのような光景が広がります。晴天時には背景の日本海や利尻富士とのコントラストが見事で、訪れる人を魅了します。

金浦原生花園の「金浦」にはいわれがあります。かつてこの海浜はニシン漁業者によって村落が形成され、昭和20年代頃には数軒の大網元が君臨していました。ニシンが産卵のために浜に押し寄せる群来（くき）の季節には、内地（本州）方面からヤン衆と呼ばれる労働者を多数雇い入れ、陸（おか）働きのモッコ背負いの人夫として、近隣の若い男女も昼夜をいとわず働いていました。ヤン衆は１日４回の食事をしながら、海面が盛り上がるほどのニシンの大群に挑み、親方（網元）は一晩にして大金を手にしました。遠別町史によると、昭和14年（1939年）に地名改正で金浦となったとありますが、当時は笑いの止まらないほどニシンの大漁の日々が続き、町の経済を支えてきたことが背景にあるようです。ニシンが姿を消してから40数年の歳月が過ぎ去った今、無人の地域となってしまった浜に、カズノコの黄金色のようなエゾカンゾウの花が咲き乱れるのも、何かの縁なのかもしれません。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる　エゾカンゾウの和名は蝦夷甘草。茎の先端に黄色のラッパ状の花をつけます。山地や高山、海岸の草地に群生するポピュラーな花で、北地では海岸沿いの草地や湿った平地に生えています。
絨毯のように一面に咲く可憐な花に触れてみましょう。

嗅ぐ　海岸線沿いに広がる原野。
エゾカンゾウの咲き誇る6月から7月にここを通過する誰もが、その美しい風景と、海から運ばれる潮風に心を奪われることでしょう。

エゾカンゾウ

見どころ

６月～７月にかけて、見頃を迎えるエゾカンゾウには「憂いを忘れる草」という意味があります。ユリ科の多年草で、正式和名はゼンテイカ（禅庭花）。朝方に花を開くと、夕方にはしぼんでしまうため、鑑賞は午前中がお勧めです。

ポイント

珍しい固有植物が群生する金浦原生花園は海岸沿いにあることから、花と海が織り成す撮影スポットとしても人気があります。黄色いエゾカンゾウの花の向こうに青い海と利尻富士を望む風景は絶好のシャッターポイントとなっています。

■基本情報（R7. 3）

原生花園指定年：昭和55年
住　　所：国道232号と日本海の海岸沿い
見 頃 時 期：春（6月中～7月上旬）

るもい風土資産カード

富士見ケ丘公園

道の駅の裏手に広がる緑豊かなレクリエーションゾーン

国道232号沿いにある道の駅「えんべつ富士見」の裏手に広がる「富士見ヶ丘公園」は、緑豊かな一大レクリエーションゾーンです。日本海とその洋上に浮かぶ秀峰利尻富士を見渡す丘の上にあり、約10haの敷地内には、バーベキューハウスやケビンを備えたキャンプ場、18ホールのパークゴルフ場２コースなど、アウトドアを存分に楽しめる施設が整備されています。

また、公園周辺の森林88haは鳥獣保護区に指定されており、散策コースとして人気があります。森林内には31種に及ぶ鳥類やウサギやリスなどが生息しており、バードウォッチングや小動物の観察も楽しめます。キャンプ場はテント１張１泊500円で、バーベキューハウスは無料で使用でき、家族や友人と楽しむことができます。ケビン（有料）は３、４人で利用できるログハウス風の造りとなっています。

森林センターには、12畳と10畳の２部屋と自炊用のキッチンがあり、団体の研修などに利用できます（有料）。パークゴルフ場は日本海や遠別市街の眺望も楽しみながらプレーできます。毎年、５月第３日曜日に道の駅南側の農村公園で富士見ヶ丘公園開き・山菜まつりが盛大に開催され、町民をはじめ通りすがりの方も立ち寄って楽しんでいます。また、桜の名所でもあり、春には多くの花見客が訪れ、町民に愛されている公園です。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

聴く 鳥獣保護区に指定されている公園周辺の森林には、31種の鳥類などが生息しているとされています。バードウォッチングや小動物の観察をして、自然の音に耳を傾けてみましょう。

触わる 公園内にある「ちゃぷちゃぷ池」は、夏場は小さな子どもの水遊びスペースとして最適です。

嗅ぐ 緑豊かな富士見ヶ丘公園は、春には桜の名所になり、夏には緑の芝が気持ちよいキャンプサイト、秋には紅葉が美しく色づきます。四季を通じて木々の匂いをかぐことができます。

見どころ

公園は高台にあり、日本海とその洋上に浮かぶ秀峰利尻富士などの雄大な景色が見渡せます。桜の名所で春には多くの花見客が訪れます。枝をいっぱいに広げた「シナの木」は公園を象徴する大木で、恋の絆の樹とされています。

ポイント

約10haの敷地内には、バーベキューハウスやケビンを備えたキャンプ場、18ホールのパークゴルフ場が２コース、野鳥観察小屋などの施設があり、バードウォッチングや野生の小動物の観察にもおすすめです。

■基本情報（R7.3）

住　　所：天塩郡遠別町字富士見
Ｔ Ｅ Ｌ：01632-7-2115
　　（遠別町経済課商工水産係）
利用料金：公園入場無料
　　テント1張1泊/500円、
　　ケビン1棟1泊/2,000円
　　パークゴルフ貸出用具1式/300円、
　　パークゴルフ場1日/100円
施 設 等：富士見ヶ丘公園パークゴルフ場2コース、
　　出会いの広場（キャンプ場）、ケビン、ちゃぷちゃぷ池、バーベキューハウス

るもい風土資産カード

遠別町のもち米

日本最北の米どころで作る全国でも高い評価を受けるもち米

遠別町は日本最北の水稲栽培地域です。米の生育には決して適した環境ではありませんが、古くから米作りが盛んに行われてきました。

遠別町での米作りは、大正７年（1918年）から本格的に始まりました。北緯44度という北に位置する町ながら、米が作れるのには訳がありました。水田に利用される遠別川の水源のピッシリ岳は、南の羽幌町とほぼ同じ位置にあります。そこから流れ出る水の水温が高いことに加え、日本海を流れる対馬暖流の影響で、収穫期の天候が良好であること、また、極端に寒くなる日が少なく、近隣と比べて比較的温暖な気候が米栽培を可能にしたのです。以前はうるち米生産が主でしたが、昭和57年（1982年）を機に、寒冷による影響を受けにくく、より安定経営が期待できるもち米へと転換しました。そして、地元農家の努力により、現在では道内屈指のもち米生産地として知られるようになりました。

町で収穫されるもち米の中心的品種である「はくちょうもち」は、もち菓子用に適しそのまま赤飯にしてもベタつかないなど、その品質は全国でも高い評価を受けています。地酒の「北吹雪」の原料も自前のもち米です。平成10年（1998年）には総事業費約７億をかけ、米穀乾燥調整施設「北限夢工房」が完成。コンピューター制御された２段乾燥方式により、味、品質とも優れた上質米が出荷されています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

味わう　中心的品種「はくちょうもち」はもち菓子加工に適し、そのまま赤飯にしてもベタつかず、固くなりにくい特性を持っています。優れた品質が認められ、全国的に高い評価を受けています。

知る　遠別町で作られるもち米の比率は100％。うるち米も育ちますが、うるち米を作ると、混入といって染色体が違うもちとうるちで稲の花が咲くときに花粉が飛んで、混ざってしまう現象が起こります。そのような混入を防ぐために、抜き穂という作業をしています。こうした徹底した品質管理により、町全体で「遠別のもち米」を守っています。

日本最北の米栽培地の碑

見どころ

毎年９月下旬から10月に町内の水田が黄金色に輝き、「はくちょうもち」の収穫が始まります。のどかな風景を眺めながら、ドライブを楽しみ、道の駅「えんべつ富士見」の特産品直売所などで、はくちょうもちをお土産に購入するのもいいでしょう。

ポイント

「はくちょうもち」は粘りとやわらかさが長持ちするのが特徴で、赤飯やおこわ、もち、大福、おはぎなど、さまざまな料理に適しています。もち米を原料にした口あたりのよい地酒の純米酒「北吹雪」も限定醸造されています。

■基本情報（R7.3）

品　　種：はくちょうもち、風の子もち
昭和58年・もち米生産団地指定

るもい風土資産カード

遠別水稲発祥地の碑

先人のたゆまぬ努力が築いた日本最北の稲作地帯

日本最北の稲作地帯として知られる遠別町共栄地区には水田を背に「水稲発祥之碑」が建てられています。この碑は昭和32年（1957年）に発足した遠別町稲作経営研究会が創立20周年の記念に、遠別の稲作の礎を築いた南山仁太郎氏の功績をたたえて建立したものです。

遠別町の稲作の歴史は明治30年（1897年）に試作をした中村亀吉氏が起源とされますが、越前からの入植者、南山氏が明治34年（1901年）に遠別川の水を引いて田を作り、上川産の種子で収穫に成功したことが稲作発展の契機となりました。南山氏は当初、福井県から取り寄せた種子で３反歩ほどの耕作をしましたが、気候が合わずに失敗。翌年にもやはり本州から種子を取り寄せたものの、これも失敗に終わり、３度目にして耐寒性のある上川産の種子と出会い、成功を収めるに至ったのです。これをきっかけに、各地で水田熱が高まり、大正10年（1921年）には土功組合の設立で灌がい工事が進み、水稲栽培が本格的に行われるようになりました。南山氏をはじめ、入植者達が「この地でなんとか米を作ってみたい」という夢を捨てなかったことが、「稲作北限のまち」へとつながったのです。昭和24年（1949年）には、石黒初明氏が米作日本一表彰競作大会で反収11俵という驚異的な収量を上げて入賞したことも、遠別稲作の金字塔として歴史に刻まれています。

昭和30年代後半からは米の生産過剰で水田利用再編対策が取られ、水田の約半分にあたる660haが転作を義務付けられて流通性の良いもち米に転換。昭和58年にはもち米生産団地に指定され、日本最北の稲作地帯は今も健在。見渡す限りの原始林を切り開き、笹や雑草を刈って農耕に励んだ先駆者達の努力は遠別町産のおいしいお米へと引き継がれています。

見どころ

遠別町の水田は北緯44度45分、東経141度52分に位置し、水稲としては世界最北とも言われています。遠別より北の地域でも稲作は行われていますが、多くは自生種や陸稲（おかぼ）のため、遠別町の水稲が日本、そして世界最北になるわけです。

ポイント

遠別川流域で発展した遠別町の稲作は現在、もち米を中心に生産されています。もち米を使った特産品もあり、もち米100％の純米酒「北吹雪」やもち米と地元の小豆、白花豆を使った「たわら最中」は道の駅などで購入できます。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

知る 昭和26年に発売された遠別名産「たわら最中」は、あんの中に入った白玉粉がもちを連想させ、北限の米どころを象徴する銘菓として人気です。

つぶあんと白あんの２種類があります。
お買い求めはハヤシ屋野村まで。

■基本情報（R7.3）

―

るもい風土資産カード

北浜遺跡

畑地で発見された擦文時代の土器や竪穴住居跡

遠別町市街地から北に300mほどの小高い丘陵地で発見された「北浜遺跡」は1万1000平方メートルに及ぶ畑地で、昭和54年（1979年）に埋蔵文化財包蔵地として指定されました。遺跡の発見者は土地を所有する坂川照雄さんで、自家用野菜を栽培している畑で深耕した際、表土に混じって土器のうち２片を発見。土器とは知らずに保存していたところ、当時、高校生だった坂川さんの長男と次男が学校祭で展示されていた天塩川遺跡の土器を見て、「うちにもこれと同じものがある。」と教師に話したことが、遺跡確認のきっかけとなりました。

調査の結果、発見された土器片の一つは縦7.5cm、横10cm。貼付文（てんぷもん）と呼ばれる深鉢の口縁部（鉢の上部）で、粘土を別に細工した模様の擦文式土器の中でも珍しいものであることが分かりました。もう一つは刻線文（刻み込んだ模様）のある縦10cm、横６cmの深鉢胴部で、このことから1000年前の擦文時代にも遠別に人が住んでいたことが証明されたのです。

その後、昭和58年（1983年）10月には、ほぼ全体の形が分かる擦文土器が発見され、３基の竪穴住居跡も確認されました。これらの発見により、北浜遺跡は擦文文化期に40～50戸の集落があったと見られ、江戸後期における蝦夷地探検踏査の紀行類によると、北浜遺跡周辺は初山別豊岬～天塩間の休憩所があったところで、地理的な好条件に恵まれていたと推定されます。

北浜遺跡から出土した出土品は、遠別町郷土資料館に展示されています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる 擦文土器や竪穴式住居跡、縄文土器などは遠別川を遡上するサケ、マスの捕獲に便利だったり、土地の移動に便利な地理的条件に恵まれたところで見つかり、数千年前に人間の生活が営まれていた証として、当時の生活に触れるための貴重な資料となっています。

知る 遠別町の地名はアイヌ語の「ウェン・ベツ」（「悪い川」あるいは「相話する川」の意）に由来し、明治時代に本州から越前団体、愛知団体が開拓入植したことにより開基しました。また町内の北浜・北里地区においては縄文・擦文遺跡の存在が確認されており、古来からも居住があったことを物語っています。

見どころ

遠別では北浜遺跡のほか、北里遺跡も発見され、擦文土器や縦穴式住居跡、縄文土器、縄文時代の石斧などが出土しています。これらは旧遠別川流域が、サケ・マスの捕獲や他の土地への移動が便利な場所だったことを示しています。

ポイント

土地の所有者である坂川さんが土器片を発見し、それを２人の息子さんが捨てずに保存していたことが北浜遺跡発見のきっかけとなりました。留萌管内では初山別村、苫前町などで遺跡が発見されていただけに遠別町初の遺跡発見は当時、大きなニュースとなりました。

■基本情報（R7.3）

住　　所：天塩郡遠別町字北浜
問い合わせ：遠別町教育委員会
Ｔ Ｅ Ｌ：01632-7-2353

るもい風土資産カード

天塩川

天塩町の発展と共に歩む日本最北を流れる大河

天塩川は日本の最北を流れる大河で、国内では珍しく、北に向かって流れる一級河川です。長さは約256km（北海道第２位）、流域面積約5590平方キロメートル（北海道第３位）。石狩川に次いで北海道では２番目、全国でも４番目の長さを誇ります。

天塩川は、北見山地の天塩岳（1557m）にその源を発し、士別市、名寄市、美深町を北に流れ、音威子府村、中川町を経て留萌管内に入ります。士別で剣淵川、名寄で名寄川、管内では問寒別川、雄信内川などの支流と合流しながら、天塩町に到着し日本海に注ぎ込みます。流れはおおむね緩やかで、わずかに音威子府から中川の間のみが険しい程度です。魚類も豊富で、幻の魚として保護されている大型淡水魚のイトウをはじめ、ヤマメ、ニジマスなど50種類ほどの生息が確認されています。

天塩川は町の発展とともに歩んできた河川でもあります。河口は江戸時代に北前船の港として開かれ、名産のシジミ貝やサケ漁、ニシン漁で賑わいました。そして、明治期には奥地から切り出された木材を筏（いかだ）流しによって、港へと送りました。木材によって、たくさんの労働者が集まり町は栄えました。大正初期の人口は7000人以上で、これは現在の約２倍です。川は奥地との交通の役目も担いました。明治33年（1900年）に天塩川航路が開設され、河口と上流部を結んでいました。乗客や生活物資、郵便物などを運び、昭和24年（1949年）頃まで運航していました。現在は日本一長いカヌーの旅ができる川として知られ、本州からも愛好者が訪れています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

聴く　曲がりくねった河川を直線化することで、河川から切り離された部分が三日月状の湖水となり、これを三日月湖と呼びます。
天塩平野にある三日月湖は渡り鳥の餌場となっており、３月中旬～５月初旬には白鳥・カモ類、春～秋にかけて青鷺を観ることができます。野生の鳥の鳴き声を聴くことができるかもしれません。

触わる　天塩町内を流れる川からの眺めは絶景で、川を下りながらのんびりと自然を満喫するカナディアンカヌーのメッカとして知られています。地元の愛好家はもちろん、全道各地から雄大なロケーションを求めてカヌーイストたちが訪れます。

知る　天塩川本流・支流で水揚げされるシジミは食味がよく、中でも鮮緑色に包まれた天塩独特のシジミは高級品として珍重されている逸品です。
この貴重な資源を守り育てるため、生息調査に基づいた漁獲制限や禁猟区域、作業時間などの設定に努め、現在では大型サイズのシジミ貝が水揚げされるに至りました。

見どころ

河口近くに、擦文時代（８世紀後半～中世）を中心とする竪穴住居群の跡が発見された川口遺跡があります。林の中に遊歩道が設けられ、竪穴住居を復元したものを数基配置しています。

ポイント

全国でも４番目の長さを誇る大河。河口部は江戸時代に北前船の港として開かれ、ニシンなどの水産物や木材の集積地として栄えました。河口と名寄間を結ぶ天塩川航路も開設され、鉄道が開通する大正期まで活躍しました。

■基本情報（R7.3）

水　　系：一級水系天塩川
種　　別：一級河川
延　　長：約256km
流域面積：約5,590㎢

るもい風土資産カード

天塩川歴史資料館

旧役場庁舎を整備した「赤レンガ」の名称で親しまれる資料館

「天塩川河川資料館」は「赤レンガ」という愛称で親しまれていた昭和26年（1951年）建築の旧役場庁舎を整備し、平成元年（1989年）に開館しました。酷寒の地で長く耐えてきた堂々たる風格の建物は、歴史資料館にふさわしい佇まいです。

展示されている資料は約2000点で、「川と海のくらし」「原野のくらし」「街のくらし」などの歴史的展示、「知を啓（ひら）き、時代を拓く」とした教育・文化資料、天塩町の姉妹都市であるアメリカ合衆国アラスカ州ホーマー市関連の「北方圏への夢」と、テーマ別に分けられています。この中で、ひと際目を引くのが「長門船」の展示です。明治33年（1900年）初春、約40万石（米に換算して約100俵ほど）積みの船１艘を造り、長門丸と命名し、運航させたのが起源で、それから天塩川を運航する舟は、すべて「長門」と呼ぶようになりました。道路や鉄道が整備されていない時代、天塩川は貴重な交通路であり、下りには農産物、薪炭、上りには米、味噌、酒、呉服、雑貨などの生活物資、移住民の荷物を積んで上流部との往復をしていました。上流は士別市を起点とし、当時日本で一番長い河川航路ではなかったかと言われています。昭和24年（1949年）頃まで運航されていましたが、陸路の発達とともにその使命を終えることとなりました。現在、展示されているものは２分の１に復元されたものです。

このほかにも、天塩川を知る上で興味深い展示が数多くあり、その一つ一つから先人たちの思いが伝わってきます。また、同館には特別展示室があり、定期的に絵画や写真展なども行っています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

知る 同館の特別展示室には、定期的に絵画や写真展などを計画し、住民の目を楽しませています。年間2,000人以上が来館する天塩川歴史資料館は、天塩の歴史を振り返り、そして明日を考える「学び舎」として多くの人々に親しまれています。

見どころ

天塩川の河口と上流部の開拓地を、貨客を乗せて往来した「長門船」を、２分の１の大きさで復元し展示しています。天塩川は漁業や木材などの町の産業とも深い関わりがありました。天塩川とともに発展してきた当時の町の繁栄の様子がうかがえます。

ポイント

「川と海のくらし」「原野のくらし」「街のくらし」など、テーマ別に2000点を超える資料を展示しています。資料のすべては天塩町内住民から提供されたもので、その一つ一つから先人たちの思いが伝わってきます。

■基本情報（R7.3）

住　　所：天塩郡天塩町新栄通6丁目
Ｔ Ｅ Ｌ：01632-2-2071
開館期間：毎年4月20日～10月31日
開館時間：午前10時～午後5時（最終入館午後4時30分）
休 館 日：基本月曜日（5・6月の第1・3週、7～9月、振替休日の場合を除く）
入 館 料：200円（高校生以下無料）
問い合わせ：天塩町教育委員会（01632-2-1026）

るもい風土資産カード

てしお温泉・夕映

町民の保養と健康増進、観光振興に寄与する温泉宿泊施設

北海道の秀峰として知られる利尻富士を望む日本海に面し、夕陽を眺めることができる温泉宿泊施設。鏡沼海浜公園を見渡せる場所にあり、町民の保養と健康増進、観光振興に寄与するため平成12年(2000年)に建てられ、地域の保養センターとして、地元町民をはじめ、多くの観光客にも利用されており、平成30年(2018年)にリニューアルされました。

泉質はナトリウム-塩化物強塩泉。黒っぽい色の湯は、塩分濃度が海水の３倍もあります。炭酸水素イオンに富み、湯上がりは肌がつるつるになるなど、美肌効果とマッサージ効果にすぐれています。また、独特の香りがするのも特徴です。効能効果は神経痛、筋肉痛、関節痛、打ち身、くじき、痔疾、慢性消化器病、慢性皮膚病、慢性婦人病、切り傷など。炭酸水素イオンに富み、美肌効果やマッサージ効果が期待できます。

浴場は洋風風呂と和風風呂の２種類あり、１日おきに男湯と女湯に入れ替わります(月末31日と月始め１日は同じ)。和風風呂には高温風呂、低温風呂、露天風呂、薬湯、打たせ湯、サウナ内風呂。洋風風呂には高温風呂、低温風呂、露天風呂、薬湯、ジャグジー、サウナがあります。大きくゆったりとした露天風呂は眺めも良く、爽快な気分を味わうことができます。レストランでは天塩産や近海の海の幸をふんだんに使ったメニューが味わえます。特に天塩産しじみをふんだんに使った特製しじみラーメンが人気です。宿泊施設は全17室で和室と洋室があります。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

味わう

「てしおChuChuプリン」(税抜き320円)は、てしお温泉夕映の料理長が生み出し、2008年に販売を開始しました。
見た感じはマヨネーズのようですが、その正体はプリンです。テレビ番組にも取り上げられ、天塩町の名物として、ふるさと納税の返礼品にもなっています。

嗅ぐ

夕映の湯は炭酸水素イオンに富み、美肌効果やマッサージ効果に優れた効能があります。
また、独特の変わった香りがこの温泉の大きな特徴となっています。

てしおChuChuプリン

見どころ

お風呂、宿泊施設、レストランなどから日本海に浮かぶ利尻富士と雄大な天塩川の自然が一望できます。天塩川や鏡沼を中心とした海浜公園に隣接し、公園西側の丘には、ハマナス100万本を目標にボランティアが植栽活動を進めています。

ポイント

平成12年(2000年)に建てられ、地域の保養センターとして、また多くの観光客にも利用されています。独特の香りがする黒っぽい色の湯は、塩分濃度が海水の３倍もあり、湯上りは肌がつるつるになるなど、美肌効果とマッサージ効果にすぐれています。

■基本情報(R7.3)

住　　所：天塩郡天塩町字サラキシ5807
Ｔ Ｅ Ｌ：01632-2-3111
営業時間：平　日/11:00～22:00(受付21:00)
　　土日祝/10:00～22:00(受付21:00)
休 館 日：無休
入 浴 料：大人(中学生以上)600円
　　小人300円
　　回数券(10枚綴)5,100円　(50枚綴)24,400円

るもい風土資産カード

てしおこもれびの森

自然とのふれあいや健康づくりに役立つ町民の憩いと学びの場

天塩市街地の東側に広がる36haの森は、自然環境の保全と住民の憩いと学びの場として整備された「てしおこもれびの森」。平成９年（1997年）に町が旧国有保安林を購入し、平成10年度から３年をかけて整備を行ったもので、町単独事業のほか、道の生活環境保全林整備事業を活用して整備され、防風保安林の役割も担っています。

広大な森の中には野球場やテニスコート、パークゴルフ場や多目的広場を備えた運動公園もあり、運動公園を含めると総面積は約50ha。約３kmの遊歩道を歩くと、ヤチダモ、ミズナラ、イタヤカエデ、ハンノキ、シラカバなどの天然広葉樹を中心に、30種類以上の樹木と140種類以上の草花が観察できます。春にはエゾヤマザクラやチシマザクラが花を咲かせ、秋の紅葉も楽しめるほか、ミズバショウやカタクリ、エゾタンポポなど野生の草花が一年を通して可憐な姿を見せてくれます。また、森の中には昆虫や野鳥も数多く生息し、町民を対象としたバードウォッチングや小中学生の森林教室も開かれるほか、シイタケやナメコなどキノコの収穫も楽しめます。

施設はこのほか、管理棟やあずまや、ベンチやトイレ、街灯などが整備され、観賞池の周りでのんびりと森林浴を楽しむ人も少なくありません。開設期間は５月１日から10月末までですが、冬期間は歩くスキーコースも開設され、一部施設が利用できます。平成22年（2010年）10月には森の中に「植樹の森」も整備され、自然とのふれあいや健康づくりが楽しめる施設として、地域住民に親しまれています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

聴く

約36haの広さを有するてしおこもれびの森は、豊かな町有林を使用した21世紀の「街の中の緑」といえる快適で潤いのある場です。
総合スポーツレクリエーションの場として、また森林浴、様々な鳥の声や緑のささやきとともに憩える場として、多くの方に利用されています。

触わる

こもれびの森は市街地の東側にあり、一週約３kmの散策路を歩くと、道北地方特有の白生木を観賞することができ、さながら原生林の中にいるような雰囲気を味わうことができます。また、森の中に生息する昆虫や鳥の生態も観察でき、森林学習の場としても活用できます。

見どころ

一年を通して、さまざまな植物が観察できるこもれびの森で確認されているのは、30種以上の樹木と140種以上の草花。毎年、撮影を行っている人々の協力で、新しい植物が発見されていますので、ごみなどのマナーを守って観察しましょう。

ポイント

こもれびの森の中にある「植樹の森」は天塩町の開基130周年を記念して整備されたもので、広さは約1500㎡あります。

■基本情報（R7.3）

住　　所：天塩郡天塩町字川口
利用期間：5月1日～10月31日
問い合わせ：天塩町役場教育委員会
Ｔ　Ｅ　Ｌ：01632-2-1026

るもい風土資産カード

天塩の鮭

豊かな漁場に恵まれた天塩地方の発展に寄与した鮭

天塩地方は豊かな漁場に恵まれ、漁業が盛んな地域でした。その中心だったのはニシン漁とサケ漁で、初期の発展に大きな役割を果たしてきました。近世末より、漁は天塩川の河口地帯を中心に行われ、天塩場所の場所請負人栖原（すはら）屋や、庄内藩、水戸藩、などの手によって隆盛を極めました。「天下の副将軍」水戸黄門で知られる水戸藩は明治４年（1872年）の廃藩置県までの２年間、天塩地方を支配しました。当時の藩主自らがおもむいて、サケの増産のために、水戸から漁民を60人ほど呼んで、天塩川の河口に大量に堆積していた流木などのゴミを取り除いたといいます。その甲斐あって、翌年には大漁に恵まれたといわれています。

明治・大正期には「天塩モノ」、「天塩鮭」として世間でもてはやされ珍重されました。しかし、明治30年（1897年）、天塩川における川漁が禁止され、以後、海面における建網漁業が中心となっていきますが、ニシン漁同様、自然にまかせた漁業は先細りとなり、明治の中期以降は停滞の途をたどることとなります。その後、大正11年（1922年）に、天塩水産組合によって天塩川の中川郡中川村大字安平志内字ペンケナプシュケプル川支流ペンケオクナイにサケ・マスふ化場が設置され、これをもってサケのふ化事業が開始されます。こうした努力が結実するのは、昭和50年代後半のことでした。

現在の漁獲量は、平成26年の900トンを境に、令和元年までは650トン前後となっていましたが、令和２年は１千トンを超える豊漁年となりました。金額でもシジミ貝やカレイ、カスベなどをしのぐ漁獲金額となっています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる　毎年９月に行われる「てしお味覚まつり」はサケをメインとしたお祭りで、特製のイケスに放ったサケのつかみ取り、サケのさばき方の実演コーナーなど、じかにサケに触れることができるダイナミックなお祭りです。

味わう　天塩川で生まれ、日本海の荒波に育まれた天塩の鮭は別名「アキアジ」とも呼ばれています。漁期は８月下旬から10月初旬で、脂ののりが良く逸品として知られています。

見どころ

毎年９月に開催される一大イベント「てしお味覚まつり」はサケをメインとしたお祭りです。特製のイケスに放ったサケのつかみ取り、サケのさばき方の実演コーナーやイクラづくりなどのイベントが楽しめます。

ポイント

天塩のサケは味が良いことから、「天塩モノ」、「天塩鮭」として珍重されていました。一時は衰退しましたが、大正時代に人工ふ化事業に着手。長い年月を経て成功へと導き、現在は再び天塩地方の主要水産物の一つとなっています。

■基本情報（R7. 3）

漁　　期：9月
問い合わせ：北るもい漁業協同組合天塩支所
　　（01632-2-1113）
イベント：天塩町役場商工観光課
問い合わせ　（01632-2-1001）

るもい風土資産カード

天塩のシジミ貝

天然もので品質が良く味と粒の大きさでは日本一!?

天塩のシジミの歴史は先史時代にまでさかのぼります。天塩川の河口付近の遺跡からはシジミ貝の貝塚が発見されており、まさに天塩地方の歴史とともに歩んできたといえます。天然もので品質が良く、味と粒の大きさでは日本一とも言われます。江戸時代後期の文化・文政期(1804年～1829年)の書物にも、“大きくて美味しい”、“名物”という言葉で紹介されていて、「蝦夷の三絶」、つまり厚岸の牡蠣(かき)、十勝川の鮭(ふな)とともに、ベストスリーに入る味覚と称されました。

天塩に生息する種類はヤマトシジミで、漁場は天塩川の本流と支流、及びパンケ沼です。シジミ貝といえば、貝殻が黒いというイメージですが、天塩川の本流では、黒いシジミに交じって、同じ種類でありながら貝殻の色が淡い緑色のシジミが獲れます。生息する川底の性質やエサの関係ではないかといわれていますが、味が濃厚で、高級品として定着し、「青貝」や「青シジミ」と呼ばれ、黒いシジミより高く取り引きされていますが、漁獲量が極端に少ないため、地元のみで販売される貴重なものとなっています。

シジミ全体では、かつて600トンの水揚げを誇っていましたが、令和2年(2020年)は31トンと大きく減少しています。天塩町のシジミ漁は、輸入に頼った稚貝を放流せずに完全な天然養殖の環境を保つため、年間の漁獲量を厳密に制限して漁を行っています。また、平成26年からはパンケ沼でのシジミ漁は原則禁漁となっており、パンケ沼シジミ資源保護対策事業を行っています。具体的にはシジミが生息しやすい環境とするため「覆砂事業」を行い、底質環境を改善し、シジミ資源の回復に向けた取組が行われています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

味わう　天塩の名物メニューとして定着している「しじみラーメン」は、塩味をベースに大粒でうまみ成分濃厚な天塩産しじみ本来の味が最大限に引き出された名物メニューです。道の駅「てしお」をはじめ、町内の各飲食店で工夫を凝らした一品が味わえます。また、お土産用にインスタント袋麺も人気で、道の駅や町内の商店などで購入できます。

嗅ぐ　天塩産のしじみは「泥臭さは全く無く、味は濃い」という特徴があります。天塩産のしじみの味を堪能したい方は、そのまま塩のみの味付けをした「潮汁」がオススメです。泥臭さが全く無いため、味噌等の強い味の調味料を使わなくてもしじみ本来の匂いと旨みの出汁が楽しめます。

しじみまつり

見どころ

鏡沼海浜公園を会場に、毎年７月の第１土、日曜に開催されている「鏡沼しじみまつり」は、沼にシジミをまいての「シジミ狩り」や、シジミの即売会、シジミ汁コーナーなどが人気で、毎年約３万5000人の観光客が訪れる天塩町の一大イベントです。

ポイント

古くから天塩町の名産で、品質が良く、味と粒の大きさでは日本一ともいわれます。ヤマトシジミという種類で、通常は黒い貝殻ですが、その中で貝殻が淡い緑色のシジミは、「青貝」や「青シジミ」と呼ばれ、黒いシジミより高く取り引きされています。

■基本情報(R7.3)

問い合わせ：北るもい漁業協同組合天塩支所
(01632-2-1113)
イベント：天塩町役場企画商工課
問い合わせ　(01632-2-1001)

るもい風土資産カード

新四国八十八ヶ所霊場

四国霊場にあやかり設置された八十八カ所の石仏や歌碑

四国八十八箇所は四国全県にまたがって八十八カ所に置かれた空海（弘法大師）ゆかりの札所の総称で、八十八カ所を巡る巡礼者はお遍路（へんろ）さんと呼ばれ、観光地としても有名です。これに対し、新四国八十八カ所は天塩から幌延の熊越峠を経て、豊富に至るまでの間に設置された霊場で、天塩には寺院や道端に1番から23番までの霊場が置かれていました。

新四国八十八カ所霊場は昭和11年（1936年）5月に、天塩町の実業家で戦前には道議会議員を務めた中田鶴吉氏が中心となり、四国まで霊場巡りに行くことができない人のために設置されたもの。四国のように寺院を巡るものではなく、本尊をあらわした石仏や御詠歌の碑に番号を振って霊場としたのが四国とは大きく異なる点です。

現在、天塩町内には23番中22番（14番は欠番）までの霊場があり、1番から8番までは山手通3丁目の寿養寺境内、9番から13番までは新地通7丁目の教信寺、15番から18番までは新地通9丁目の妙法寺、19番から23番までは川口基線の馬頭観音祠のそばに設置されています。また、幌延町にあった24番から37番、40番、41番、45番、47番、57番の霊場は豊富温泉に集められ、豊富温泉大師堂境内には今も40以上の霊場が存在しています。

開設当時は各霊場を巡る巡礼者も数多く存在した新四国八十八カ所ですが、歳月の経過とともに利用者は減少し、昭和50年（1975年）頃には毎年春に開催される豊富温泉大師祭に参拝者が訪れる程度になってしまいました。残念ながら、今は八十八カ所すべてを回ることはできませんが、中田氏の功績は天塩町の歴史に刻まれています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

知る

北海道八十八ヶ所の御本尊は、運慶・快慶以来の慶流派を日本でただ一人継承する、京都の大仏師松本明慶師が制作されました。
北海道に新たな文化と信仰が生まれるようにとの願いが込められています。

見どころ

新四国八十八カ所は元々、道端の石仏や歌碑を利用して設置したため、時間の経過とともに行方が分からなくなってしまったものもありますが、天塩町内の寺院や道端には今も22霊場が設置されています。

ポイント

八十八カ所霊場の本場は四国ですが、全国には至る所に八十八カ所が存在し、巡礼の旅は日本の文化となっています。このうち、小豆島（香川県）、知多四国（愛知県）、篠栗四国（福岡県）は日本三大新四国霊場と呼ばれたこともあり、北海道にも留萌管内以外に新四国八十八カ所が設置されています。

■基本情報（R7.3）

問い合わせ：天塩町企画商工課商工観光係
TEL：01632-2-1001

るもい風土資産カード

川口遺跡

神秘的な佇まいを見せるオホーツク文化期の遺産

天塩市街地より北西に1.5kmの天塩川沿いの川口遺跡風景林内にあり、竪穴遺跡群が、天塩町字川口基線１～３号あたりまで広がっており、幅200m、長さ1.5kmにわたり230基分布しています。これらは、続縄文記、擦文文化期、オホーツク文化期の暮らしを知る上で、貴重な文化遺産となっています。

林の中には、観察しやすいように遊歩道を設け、竪穴住居を復元したものを２基配置しています。楕円形や長方形をしたものもありますが、方形式（正方形、台形、五角形等）のものがもっとも多く、最大のもので11m×９m、最小のもので0.7m×0.7m。一辺が５～６mのものが比較的多数を占めています。

天塩町史によると、続縄文時代に集落の形成が始まり、擦文文化になると竪穴式住居の数が急増したといいます。このような形をとる遺跡は、道内の各地の河川の下流域から川口周辺に見られます。特に、道北から道東の沿岸には数100から1000以上の竪穴群の遺跡が遺されています。川口遺跡には、擦文時代（８世紀後半～中世）を中心とする竪穴群が遺されていますが、その特色は他の地域の竪穴群と共通した点が多いこと。こうした場所に住居跡があることで、川をさかのぼるサケ類の漁をしたり、背後の森林でのエゾシカやウサギなどの狩猟、山菜類の採集を基本とする暮らしぶりが想像できるといいます。共通点が多いことで、集落生活を営むそれぞれの集団のお互いの連絡、交渉が緊密であったこともうかがえるそうです。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる　川口遺跡の周辺に広がる川口遺跡風景林は、整備された遊歩道が天塩川左岸の国有林内を貫いていて、樹木に覆われトンネルのようになっています。遊歩道沿いにベンチが備えられていて、自然の中でリラックスすることができます。

知る　川口遺跡に隣接した巌島神社は、海や川で働く人々の守護神として祀られ、周囲には彫刻の森、開基100年記念碑、多目的広場等が整備され、道行く人々の憩いの場となっています。

見どころ

道道天塩線沿いにトイレを備えた駐車場があり、遊歩道は樹木に覆われたトンネルのようになっています。2ヵ所で竪穴式住居が１基ずつ復元されています。遺跡から発掘された土器や石器は、一部が復元され、「天塩町郷土資料館」に保管されています。

ポイント

遺跡は、続縄文期、擦文文化期、オホーツク文化期の暮らしを知る貴重な文化遺産となっています。竪穴住居跡は最大のもので11m×9m、最小のもので0.7m×0.7m。一辺が5～6mのものが比較的多数を占めています。

■基本情報（R7.3）

住　　所：天塩郡天塩町字川口基線
Ｔ Ｅ Ｌ：01632-2-1001（天塩町企画商工課）
利用期間：5月1日～10月31日
利用時間：早朝より日没まで
休 館 日：無休
利 用 料：無料

るもい風土資産カード

鏡沼海浜公園

天塩川の河口に広がるアウトドアレジャースポット

日本海沿いを走る国道232号の海側にある、天塩町を代表する観光スポット「鏡沼」。日本最北の大河、天塩川の河口部の河川切り替えによって残った沼で、周辺の整備によって昭和58年（1983年）に完成した鏡沼海浜公園にはキャンプ場や遊具施設などが整っています。

公園の規模は約20ヘクタールで、鏡沼は面積約7万200平方メートル。沼の周辺には約1.4kmの散策路が整備され、岸辺近くでは春から夏にかけてスズラン、エゾカンゾウ、ハマナスなど50種類以上の草花が咲き乱れます。日本海を眺めると、洋上には秀峰利尻富士が浮かび、雄大な自然と美しい風景を楽しむことができます。

例年５月１日から10月下旬まで開設されるキャンプ場は鏡沼を挟んで海側にフリーサイト、丘側の高台にオートサイトがあり、潮風が吹き抜けるフリーサイトには４人用のバンガローが8棟、オートサイトにも６人用のバンガローが５棟設置されており、ライダーハウスも３棟設置されています。フリーサイトには炊事棟、トイレ、シャワー室も完備され、オートサイトは各区画ともバーベキュー用の炉と電源付きでキャンプ初心者の家族連れでも安心して楽しめる設備が整っています。

このほか、野外ステージやバーベキューハウス、売店などの施設も整い、鏡沼しじみまつりなどイベントの会場としても利用されています。鏡沼しじみまつりは、しじみのつかみ取りやしじみの販売などで賑わい、天塩町の観光拠点となっています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴く　触わる　味わう　嗅ぐ　知る

触わる
公園にはバーベキューを楽しめる多目的施設やキャンプ場、売店が並びしじみまつりのイベントの開催場になっております。
近くには保養施設の「てしお温泉夕映」があり、西側の丘には、ハマナス100万本を目標にボランティア植栽活動が進められています。

嗅ぐ
潮風が香る、開放感にあふれるフリーサイトからは天気が良いと鏡沼に映る美しい夕日が見られます。春から夏にはスズラン、エゾカンゾウ、ハマナスなど原生植物が咲き乱れる感動の風景を見ることも可能です。

見どころ

鏡沼の海側に整備されたフリーサイトでは天気が良ければ、鏡沼に映る夕日を見ることもできます。山側の高台にある「てしお温泉夕映」からは鏡沼越しに天塩港や日本海が一望でき、露天風呂から眺める夕陽も格別です。

ポイント

アウトドアレジャースポットとして人気の鏡沼海浜公園では天塩川でのカヌーや日本海での釣りなど、水辺を利用したアウトドアメニューが楽しめます。子供にはスローライダーなどの遊具もあり、家族や仲間と自然の魅力が体感できます。

■基本情報（R7.3）

住　　所：天塩郡天塩町字更岸7476番地
Ｔ　Ｅ　Ｌ：01632-2-1830
開設期間：5月1日～10月下旬
使　用　料：キャンピングサイト/500円、
オートサイト/3000円、
バンガロー/3300円（4人用/8棟）、
オートバンガロー/3800円（6人用/5棟）
施設･設備：キャンプ場/トイレ2棟、炊事棟1棟
オートキャンプ場/東屋、炊事棟1棟、
トイレ2棟

るもい風土資産カード

発行日　平成23年６月　初版発行（50資産）
平成24年３月　改訂第１版発行（70資産）
平成30年３月　写真更新　（68資産）
令和２年１月　内容改訂、写真更新
令和３年８月　内容改訂、写真更新
令和４年12月　内容改訂　（69資産）
令和７年３月　内容一部改訂

発行者　北海道開発局留萌開発建設部
地域連携課
℡　0164(42)2395

下記アドレス（留萌開建ホームページ）に掲載しています。
https://www.hkd.mlit.go.jp/rm/index.html